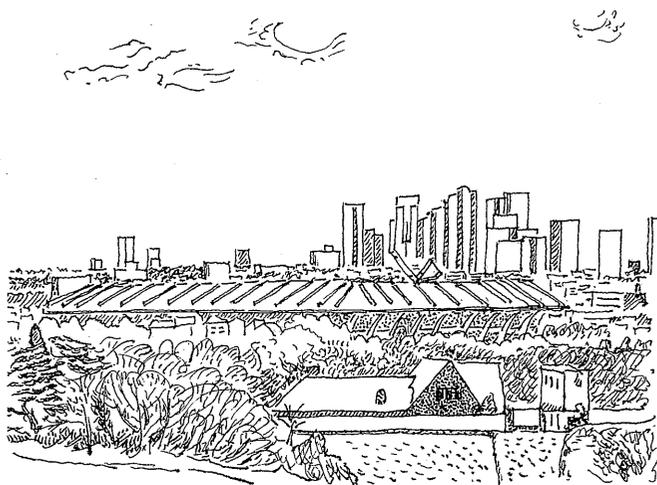


# 資料編



キャンパスの北方、横浜国際総合競技場と新宿超高層

# 第1類 蔵書

## 第1項 蔵書冊数の増加状況 久保田 満 子

	[昭和26年度末]	昭和28.5.1現在	昭和29.3.31現在	昭和30.5.1現在	昭和31.5.1現在	昭和32.5.1現在	昭和33.10.1現在	昭和34.10.1現在	昭和35.10.1現在	昭和37.4.1現在	昭和39.4.1現在
和書	110,803	103,013	85,445	111,072	115,491	119,680	124,640	130,309	136,486	148,470	165,160
洋書	42,849	51,564	46,982	55,942	58,289	61,066	64,047	66,981	70,280	76,295	87,973
計	153,652	154,577	132,427	167,014	173,780	180,746	188,687	197,290	206,766	224,765	253,133
未製本雑誌			36,781								
	昭和41.5.1現在	昭和42.5.1現在	昭和44.5.1現在	昭和45.4.1現在	昭和46.5.1現在	昭和47.5.1現在	昭和48.6.1現在	昭和49.6.1現在	昭和50.6.1現在	昭和51.5.1現在	昭和52.5.1現在
和書	182,361	193,283	221,382	229,231	240,047	257,456	277,034	289,097	300,702	315,831	327,331
洋書	99,645	106,038	119,946	124,342	131,068	139,517	148,393	154,936	162,115	171,796	185,729
計	282,006	299,321	341,328	353,573	371,115	396,973	425,427	444,033	462,817	487,627	513,060
	昭和53.5.1現在	昭和54.5.1現在	昭和55.5.1現在	昭和56.5.1現在	昭和57.5.1現在	昭和58.5.1現在	昭和59.5.1現在	昭和60.5.1現在	昭和61.5.1現在	昭和62.5.1現在	昭和63.5.1現在
和書	342,961	360,870	379,803	398,734	418,881	436,547	452,572	469,773	469,300	486,237	503,907
洋書	198,928	211,547	227,709	243,710	258,769	272,179	284,165	296,738	300,871	313,527	327,905
計	541,889	572,417	607,512	642,444	677,650	708,726	736,737	766,511	770,171	799,764	831,812
	平成元.5.1現在	平成2.5.1現在	平成3.5.1現在	平成4.5.1現在	平成5.5.1現在	平成6.5.1現在	平成7.5.1現在	平成8.5.1現在			
和書	525,514	544,942	562,676	580,749	598,275	614,446	630,324	646,522			
洋書	341,482	353,561	365,507	383,262	393,680	403,455	417,437	427,699			
計	866,996	898,503	928,183	964,011	991,955	1,017,901	1,047,761	1,074,221			

# 第2項 分類別藏書冊數

區分	總記	哲學	歷史	社會科學	自然科學	工業	產業	藝術	語學	文學	未分類	計
昭和40年度末	和漢書計	29,613	12,806	15,998	40,273	19,542	24,178	7,112	4,894	17,662	3,120	182,361
	洋書	10,845	5,165	4,174	20,611	20,049	19,841	1,711	1,593	4,024	10,088	1,544
	計	40,458	17,971	20,172	60,884	39,591	44,019	8,823	8,756	8,918	27,750	4,664
昭和41年度末	和漢書計	30,440	13,337	16,702	43,833	21,199	25,865	7,483	7,910	5,237	18,277	3,120
	洋書	11,049	5,550	4,487	21,938	21,733	21,126	1,892	1,711	4,219	10,789	1,544
	計	41,489	18,887	21,189	65,771	42,932	46,991	9,375	9,501	9,456	29,066	4,664
昭和43年度末	和漢書計	32,694	14,531	18,467	56,186	24,282	29,354	8,366	8,709	5,853	19,820	3,120
	洋書	11,503	6,412	4,966	25,732	25,358	23,842	2,317	4,673	4,673	11,927	1,544
	計	44,197	20,943	23,433	81,918	49,640	52,896	10,683	10,681	10,526	31,747	4,664
昭和44年度末	和漢書計	33,492	14,908	19,147	57,803	25,721	31,054	8,484	9,370	5,904	20,228	3,120
	洋書	11,686	6,510	5,201	26,691	26,605	24,517	2,408	4,768	4,768	12,340	1,544
	計	45,178	21,418	24,348	84,494	52,326	55,571	10,892	11,442	10,672	32,568	4,664
昭和45年度末	和漢書計	34,235	15,485	20,085	61,110	27,105	32,896	8,909	9,930	6,303	20,845	3,044
	洋書	11,889	6,799	5,482	28,650	28,511	25,810	2,638	2,238	4,773	12,768	1,510
	計	46,124	22,284	25,567	89,760	55,616	58,806	11,547	12,168	11,076	33,613	4,554
昭和46年度末	和漢書計	35,611	16,506	21,323	65,339	30,658	34,582	9,338	10,720	6,931	22,062	4,386
	洋書	12,046	7,065	5,745	30,285	31,114	27,039	2,899	2,480	4,921	13,674	2,309
	計	47,657	23,571	27,068	95,564	61,772	61,621	12,237	13,200	11,852	35,736	6,695
昭和47年度末	和漢書計	37,264	17,693	22,730	70,619	33,867	36,197	10,020	11,976	8,081	23,763	4,824
	洋書	12,284	7,360	6,084	32,616	33,179	27,986	3,167	2,838	5,262	14,537	3,080
	計	49,548	25,053	28,814	103,235	67,046	64,183	13,187	14,814	13,343	38,300	7,904
昭和48年度末	和漢書計	38,404	18,418	23,548	74,257	35,972	37,841	10,477	12,570	8,599	25,051	4,460
	洋書	12,539	7,653	6,296	34,624	35,041	29,051	3,511	3,093	5,449	15,069	2,610
	計	50,943	26,071	29,844	108,881	71,013	66,892	13,988	15,663	14,048	40,120	7,070
昭和49年度末	和漢書計	40,238	18,939	24,436	78,263	37,465	38,562	11,082	13,038	8,874	25,845	3,960
	洋書	12,816	7,725	6,497	36,430	38,012	30,117	3,976	3,161	5,590	15,784	2,007
	計	53,054	26,664	30,933	114,693	75,477	68,679	15,058	16,199	14,464	41,629	5,967
昭和50年度末	和漢書計	41,081	19,559	25,216	81,327	39,576	40,301	11,693	14,059	9,222	26,677	7,120
	洋書	12,993	8,001	6,658	38,896	39,922	31,409	4,110	3,462	5,756	16,690	3,899
	計	54,074	27,560	31,874	120,223	79,498	71,710	15,803	17,521	14,978	43,367	11,019
昭和51年度末	和漢書計	42,102	19,452	26,788	85,461	41,043	41,149	12,222	14,249	9,836	27,115	6,914
	洋書	13,398	7,679	7,034	42,931	47,550	32,656	4,401	3,856	6,332	16,162	3,630
	計	55,500	27,131	33,822	128,392	88,593	73,805	16,623	18,205	16,168	43,277	10,544

昭和 年度末	区 分	総 記	哲 学	歴 史	社 会 学	自 然 科 学	工 学	産 業	芸 術	語 学	文 学	未 分 類	計
5 2	和漢書	42,900	20,128	27,698	89,852	43,996	42,769	12,971	15,068	10,267	27,825	9,487	342,961
5 2	洋書	14,792	8,113	7,391	45,369	33,915	4,688	4,084	6,549	6,549	16,890	6,791	198,938
年度末	計	57,692	28,241	35,089	135,221	94,342	76,684	17,659	19,152	16,816	44,715	16,278	541,889
5 3	和漢書	43,901	20,857	28,632	95,752	46,229	44,934	13,668	15,741	10,777	28,519	11,860	360,870
5 3	洋書	15,708	8,482	7,656	50,824	52,474	34,763	5,217	4,257	6,818	17,936	7,412	211,547
年度末	計	59,609	29,339	36,288	146,576	98,703	79,697	18,885	19,998	17,595	46,455	19,272	572,417
5 4	和漢書	45,627	21,687	31,418	103,024	49,574	47,696	14,649	16,551	11,469	29,548	8,560	379,803
5 4	洋書	16,193	9,073	8,352	59,123	57,003	36,925	6,951	4,810	7,157	18,792	4,850	277,709
年度末	計	61,820	30,760	39,770	162,147	106,577	84,621	20,700	21,361	18,626	48,340	12,810	607,512
5 5	和漢書	45,889	21,981	31,891	105,370	50,446	48,397	15,000	17,148	11,866	30,183	20,763*	398,734
5 5	洋書	16,283	9,423	8,492	61,090	57,863	37,256	6,172	4,918	7,809	19,190	15,714	243,710
年度末	計	62,172	31,404	40,383	166,460	108,309	85,653	21,172	22,066	18,675	49,373	36,477	642,444
5 6	和漢書	46,900	22,920	33,111	113,152	53,462	50,974	16,024	18,122	12,287	31,565	20,364	418,861
5 6	洋書	16,669	10,213	8,983	69,608	60,096	38,467	7,142	5,321	7,885	20,581	13,804	258,769
年度末	計	63,569	33,133	42,094	182,760	113,558	89,441	23,166	23,443	20,172	52,146	34,168	677,650
5 7	和漢書	47,658	23,881	34,035	119,423	55,343	52,636	16,982	19,224	12,844	32,796	21,725	436,547
5 7	洋書	17,275	10,597	9,435	75,516	61,410	39,286	7,810	5,629	8,130	21,299	15,792	272,179
年度末	計	64,933	34,478	43,470	194,939	116,753	91,922	24,792	24,853	20,974	54,095	37,517	708,726
5 8	和漢書	48,017	24,400	34,623	122,909	56,908	54,254	17,944	19,237	13,130	33,116	28,034	452,572
5 8	洋書	17,698	10,940	9,652	77,886	82,325	39,777	8,019	6,132	8,277	22,151	21,308	284,185
年度末	計	65,715	35,340	44,275	200,795	119,233	94,031	25,963	25,369	21,407	55,267	49,342	736,737
5 9	和漢書	48,534	25,018	35,792	128,380	58,681	55,891	18,870	19,963	13,559	33,954	31,131	469,773
5 9	洋書	18,024	11,375	10,140	81,839	83,404	40,308	8,399	6,486	8,538	22,790	25,435	296,738
年度末	計	66,558	36,393	45,932	210,219	122,085	96,199	27,269	26,449	22,097	56,744	56,566	766,511
6 0	和漢書	48,519	25,223	36,143	130,318	59,413	56,328	19,126	20,345	13,795	34,417	25,673	469,300
6 0	洋書	18,180	11,434	10,291	83,703	83,561	40,221	8,509	6,792	8,667	22,975	26,556	300,871
年度末	計	66,699	36,657	46,434	214,021	122,974	96,549	27,635	27,137	22,462	57,374	52,229	770,171
6 1	和漢書	50,617	26,672	37,860	136,245	62,153	58,452	20,174	21,247	14,262	36,168	22,387	486,237
6 1	洋書	18,880	11,793	10,695	86,435	85,254	41,069	8,811	7,067	7,836	23,836	30,710	313,537
年度末	計	69,497	38,465	48,555	222,680	127,407	99,521	28,985	28,314	23,239	60,004	53,097	799,794
6 2	和漢書	51,748	27,356	39,130	142,312	64,446	60,539	21,074	22,057	14,756	37,328	23,161	503,907
6 2	洋書	20,206	12,374	11,350	91,773	67,842	42,264	9,152	7,800	9,376	25,026	31,042	327,905
年度末	計	71,954	39,730	50,480	234,085	131,988	102,803	30,226	29,857	24,132	62,354	54,203	831,812

\* 昭和55年度以降 未分類には製本雑誌冊数を含む



第3項 平成8年度 分野別受入図書冊数 (受入図書総数 21,211冊)

図書	350冊	統計	125冊	通信事業	37冊
図書館学	38	社会学	1,198	芸術	115
図書・書誌学	150	教育	1,327	彫刻	7
百科事典	88	風俗習慣、民俗学	145	絵画、書道	95
一般論文・講演集	27	国防、軍事	27	版画	0
逐次刊行物、年鑑	522	自然科学	148	写真、印刷	14
学会等研究調査機関	27	数学	774	工芸	32
ジャーナリズム、新聞	23	物理学	253	音楽、舞踊	380
叢書・全集	22	化学	213	演劇、映画	160
学名論	35	天文学、宇宙科学	22	スポーツ、体育	66
哲学	39	地球科学、地学、地質学	142	諸芸、娯楽	13
西洋哲学	55	生物科学、一般生物	156	言語	223
東西哲学	222	植物学	31	日本語	435
心理学	254	動物学	62	中国語、東洋の諸語	73
倫理学	37	医学、薬学	263	英語	192
宗教学	40	技術、工学、工業	383	ドイツ語	26
神学	10	建設工学、土木工学	486	フランス語	10
仏教	22	建築学	379	スペイン語	1
キリスト教	86	機械工学、原子力工学	92	イタリア語	8
歴史	116	電気工学、電子工学	244	ロシア語	5
日本史	443	海洋・船舶工学、兵器	47	その他の諸言語	45
アジア史・東洋史	134	金属工学、鉱山工学	35	文学	20
ヨーロッパ史	284	化学工業	87	日本文学	79
アメリカ史	14	製造工業	5	中国文学、東洋文学	620
北アメリカ史	36	家政学、生活科学	29	英米文学	80
南アメリカ史	1	産業	65	ドイツ文学	345
オセアニア史	1	園芸、造園	211	フランス文学	99
伝記	185	畜産学、獣医学	13	スペイン文学	40
地理、地誌、紀行	175	森林学	1	イタリア文学	2
社会科学	330	水産学、農業	34	ロシア文学	1
政治学	875	水産学	18	その他の諸文学	435
法律	1,281	商学	358		7
経済	3,892	運輸、交通	107		
	239				

注：分野別は日本十進分類表による

## 第4項 主なコレクション

附属図書館では図書館資料を効率的に収集するため、附属図書館収書計画を策定し、研究図書、古典・叢書類等の費目で収集につとめている。

ここでは、文部省配分予算で受入れた大型コレクションと合わせて、本学館報の資料紹介記事をもとに主なコレクションを列記する。配列の順序は、資料内容の日本十進分類順とした。

### ○英訳「フロイト全集」 24巻

James Strachey 訳の全集で、書名に「心理学的著作」とあるように神経（病理）学や生物学の論文、書簡等は含まれていない。

### ○東寺百合文書

京都の東寺が旧蔵していた同名の古文書群の写真複製本で、日本中世史研究に欠くことができない資料である。

### ○日本占領GHQ正史（英文） 全55巻

主に1945年から1951年までの各分野における占領政策の実施過程とその成果を記述したもので、戦後日本研究の基本史料として重要なものである。

### ○ミラボー・コレクション 185冊

フランス重農学派経済学者を父にもつミラボー伯の著作・演説・意見書・書簡など主要なものを収録している。

### ○フランス革命期官報 (Bulletin des lois de la Republiques, series 1-6)

フランス革命期に刊行されたフランスの法令集。フランス革命史研究に必須の資料である。

### ○中国方志叢書第1期、第2期 3,128冊

宋・元・明・清時代に刊行され、現存する方志を中国の各地域ごとに分類集成したものである。

### ○世界各国地図帳集成

約160冊の地図帳から構成されており、その中には、大皇帝選挙候アトラスのような大型地図帳もふくまれている。

○西ヨーロッパ5万分の1地形図集成

約5,400枚の地形図からなるもので、ヨーロッパの5万分の1地形図は人文現象を重視し道路などは読みやすく、一般人向けに編集されている。

○新大陸関係地形図集成

アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、パプアニューギニアの地形図約10,000枚から構成されている。

○国際連盟条約集、国際連合条約集（マイクロフィッシュ）

国際連盟規約第18条に基づいて登録された条約及び国際約定と、国際連合憲章第102条に基づいて登録された条約及び国際協定を収録したものである。

○Sound Currency 1895-1906

ニューヨークに本拠をおいた経済制度改革クラブ「健全通貨委員会」が月2度発行した機関紙で、関連する著名な人々の意見が収録されている。

○アメリカ企業家に関する「古書コレクション」

アメリカ合衆国の経済発展に大きく寄与した人物（企業家または経済政策家など）のオリジナルな伝記を収録したコレクションである。

○Chartism: Working-Class Politics in the Industrial Revolution

18巻 21冊

産業革命期の末期約10年間英国本土で活動した草の根議会改革運動チャーティズムの諸団体の活動をうかがうことができる資料である。

○人民の声（マイクロフィルム）

第1次から第2次世界大戦にかけてヨーロッパ大陸で国家の改革に関しての提案、論争を主として担った代表的組織、フランスの労働総同盟（CGT）の月刊機関紙のマイクロフィルム判である。

○Landolt-Boernstein: Numerical Data and Functional Relationships in Science and Technology, New Ser. Group 1-7

理学及び工学における幅広い分野の数値データ及び図式とその出典を網羅したものである。

○高井冬二・鹿間時夫コレクション

昭和時代の日本における古生物学あるいは古脊椎動物学の中心的存在であっ

た二研究者の収蔵資料の部分的コレクションである。

○Traite de Zoologie 全17巻 40冊

ソルボンヌ大学、パリ自然史博物館をはじめフランス国内の教授陣の執筆によるもので、構成は無脊椎動物11巻22冊、脊椎動物6巻18冊である。

○21世紀に伝える日本建築画像大系 25巻（ビデオ）

「21世紀建築のシナリオ」（尾島俊雄編著 日本放送出版協会 昭和60年2月）を映像化する形で作られたものである。

○ブリストル大学所蔵演劇史文献（マイクロフィッシュ）

上記コレクションのPart IとPart IV、即ちカラーマイクロフィッシュに複製された約2,200件の劇場用衣装プラン等が収録されている。

○Nineteenth Century Russian Publicisits, 1st Series（マイクロフィッシュ）

ロシア社会主義の始祖ゲルツェン、ロシア・マルクス主義の父プレハーノフ等19世紀ロシアの評論家の著作50タイトルを収録したものである。



理工学系研究図書館廻り階段

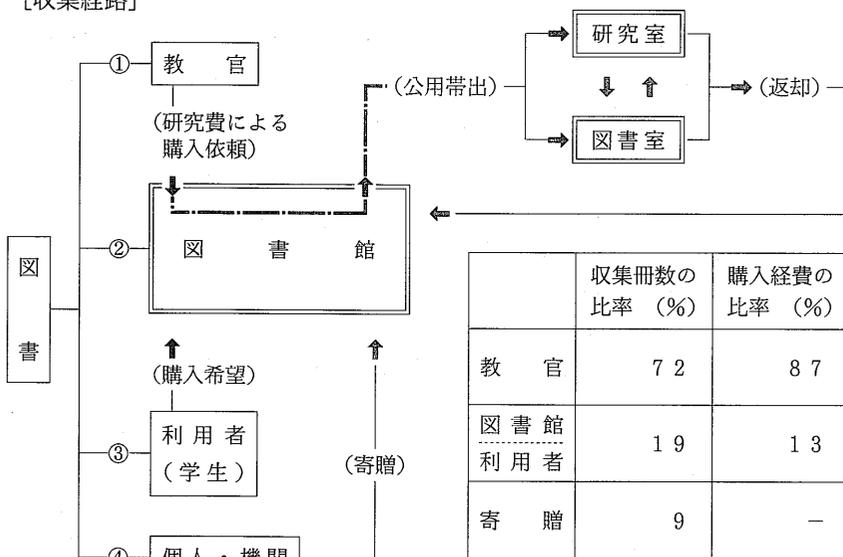
## 第5項 図書の収集システム

勝 俣 好 次

大学図書館は大学における教育や学術研究の進歩発展にとって、極めて重要な意義をもつ。特に、蔵書構成は大学図書館の中核といえる。いかに良い図書を集めるかが大学の運命を握るといっても過言ではない。本学附属図書館（以下「図書館」という。）では、次の4通りの経路により図書を収集している。

- ①教官研究費によるもの。 ②図書館資料費によるもの。 ③利用者（学生）の要求によるもの。 ④個人・機関からの寄贈によるもの。

[収集経路]



	収集冊数の比率 (%)	購入経費の比率 (%)
教 官	7 2	8 7
図 書 館 利 用 者	1 9	1 3
寄 贈	9	-

平成7・8年度の平均図書収集状況

\*平成8年度購入経費実績

図書館資料費：31,407,000円

教官研究費：249,977,592円

①：教官研究費で購入される図書である。図書館は教官からの依頼に基づき、

発注・受入し、購入依頼者へ公用帯出する。公用帯出された図書は、使用終了時や退官・転出時等に図書館へ返却され、図書館の蔵書として書架に配架されている。

- ②：従来、文部省より配分されていた学生用図書購入費が昭和50年度より大幅に増額された。図書館では、以前はこの購入費を一定比率でもって各学部（含図書館）に配分していたが、その主旨に鑑み、全学図書協議会（以下「協議会」という。）に図ったところ、購入費は各学部配分しないこととなった。その結果、図書館に配架すべき図書を選定するため、協議会の下部組織として、附属図書館選書委員会（以下「選書委員会」という。）を置くことが決定され、内規が昭和50年9月23日に制定された。これにより、選書委員会が各学部の図書委員会等の協力を得て選書を行うこととなった。

昭和52年4月1日、選書委員会内規を公式に学内規則とするために、根拠規定である附属図書館運営委員会規則に必要な条項を追加し、選書委員会内規を「附属図書館図書資料選定小委員会細則」と名称を改め、図書館資料の収集に関することを審議する専門委員会として、横浜国立大学附属図書館資料選定小委員会（以下「小委員会」という。）が設置された。

小委員会では、年度当初に「附属図書館図書資料収書計画」を策定し、図書館はこの収書計画に基づき、図書を収集している。

- ③：利用者（学生）の購入希望図書に基づき、図書館の判断で購入する。  
④：個人や機関からの寄贈に基づき、図書館の判断で受入れする。

\* 公用帯出：教官研究費により、学術研究用のため購入された図書は公用帯出の図書として、研究室等に備付けることができる。公用帯出中の図書は、図書館が必要とする場合には、点検を受け、又は返納しなければならない。又、その図書に閲覧希望者があった場合は、学術研究に支障のない限り、その閲覧の便宜を図るものとする。（横浜国立大学附属図書館利用規程第11条）

\* 全学図書協議会：昭和25年3月22日横浜国立大学附属図書館規則（以下「図書館規則」という。）が制定され、全学の図書に関する重要事項を審議する全学図書協議会が設置された。その後、昭和50年11月27日図書館規則が全面改正され、附属図書館運営委員会へ変わった。

## 第2類 電子図書館機能等

益 田 義 孝

### 第1項 電子計算機等の機器構成、業務・ 利用者システム、ネットワーク

平成9年4月1日現在のシステム構成は、以下の平成7年3月から9年3月の間に導入された機器からなる。※は特に説明を付した略語等である。

#### 1. 業務システム機器構成内訳

A) データベースサーバ：データベース管理を行う。ヒューレットパッカード社（以下HP社）製、HP9000シリーズ800モデルE55（メモリ：192MB、ディスク：14GB、フロッピーディスク装置、※CD-ROM装置、※DAT装置、磁気テープ装置、コンソール）、2号館電算室（1台）、平成7年12月設置。

※CD-ROM=Compact Disc-Read Only Memory.：読出し専用のコンパクトデータベース。

※DAT=デジタル録音再生のためのテープを使用する大容量記憶装置

B) アプリケーションサーバ：主に業務用X端末を制御する。HP社製、HP9000シリーズ800モデルE3（メモリ：128MB、ディスク：2GB、CD-ROM装置、DAT装置、コンソール）、2号館電算室（2台）、平成7年12月設置。

C) ワークステーション：主に業務用X端末を制御する。HP社製、HPモデル712（メモリ：64MB、ディスク：2GB、フロッピーディスク装置、CD-ROM装置、20インチディスプレイ）、2号館電算室、1号館準備室、理工学系研究図書館に各1台、平成8年4月設置。

D) パーソナルコンピューター：利用者用※OPAC検索専用機。Aser社製、AserMate 600（CPU：486DX2/60MHz、メモリ：16MB、17イン

チディスプレイ)、1号館閲覧室(5台)、理工学系研究図書館(2台)、社会科学系研究図書館(1台)、経済学部附属貿易文献資料センター(1台)、経営学部研究資料室(1台)、平成7年12月設置。

※OPAC=Online Public Access Catalog: 閲覧(利用者)用オンライン・カタログ。

D) パーソナルコンピューター: 利用者用OPAC検索専用機。Aser社製、Aser Mate 800、1号館閲覧室、1台、平成8年4月設置。

E) X端末: 業務用汎用機。高岳製作所製、XMiNT-CSR2(メモリ: 16MB, 17インチディスプレイ)、2号館事務室(11台)、1号館カウンター(4台)、理工学系研究図書館(2台)、平成7年12月設置。

E) X端末: 業務用汎用機。高岳製作所製、XMiNT-CSLF2(メモリ: 16MB, 21インチディスプレイ)、2号館事務室(2台)、平成8年4月設置。

F) 高速シリアルプリンター: 会計帳票作成用。HP社製、C1202A(333字/秒)、2号館事務室(2台)、平成7年12月設置。

F) レーザプリンター: 汎用多目的。キャノン社製、LBP-A309II(600DPI, A4=16頁/分、OCR-Bフォント印刷可能、バーコード印刷可能)、2号館事務室(3台)、1号館カウンター(1台)、理工学系研究図書館(1台)、経済学部附属貿易文献資料センター(1台)、経営学部研究資料室(1台)、平成7年12月設置。

G) ※OCRリーダー: 閲覧業務、図書・雑誌受入業務用。住友電工社製、MR3001(OCR-Bフォント読取可能、バーコード読取可能)、2号館事務室(2台)、1号館カウンター(2台)、理工学系研究図書館(1台)、平成7年12月設置。

※OCR=Optical Character Reader: 光学的文字読み取り装置。

H) ハンディターミナル=閲覧オフライン処理・蔵書点検用。シャープ社製、RZ-5550(OCR-Bフォント読取可能、バーコード読取可能)、1号館カウンター、理工学系研究図書館に各1台。平成7年から稼働。

(注) 経済学部附属貿易文献資料センター、経営学部研究資料室に設置した

パーソナルコンピューター、レーザプリンター各1台は部局負担。

## 2. 利用者用情報検索機器内訳

I) パーソナルコンピューター：利用者用CD-ROM検索専用。SONY社製、QuarterL PCX-300（メモリ：640KB、プリンター、CD-ROM装置、15インチディスプレイ）、1号館閲覧室（1台）、平成7年3月設置。

I) パーソナルコンピューター：利用者用CD-ROM検索専用。NEC社製、PC-9801DA（メモリ：640KB、プリンター、フロッピーディスク装置、CD-ROM装置、15インチディスプレイ）、1号館閲覧室（1台）、平成7年3月設置。

I) パーソナルコンピューター：利用者用CD-ROM検索専用。富士通社製、FMTOWNS II FreshES（メモリ：8MB、15インチディスプレイ）、1号館閲覧室（1台）、平成7年3月設置。

I) パーソナルコンピューター：利用者用CD-ROM検索専用。NEC社製、PC-9821Xn（メモリ：16MB、共有プリンター、CD-ROM装置、電子ブック装置、17インチディスプレイ）、1号館閲覧室（2台）、理工学系研究図書館（1台）、平成7年3月設置。

J) パーソナルコンピューター：利用者用※WWW検索専用。日立社製、Flora、（メモリ：16MB、ディスク：600MB）、1号館閲覧室（5台）、理工学系研究図書館（2台）、平成9年2月設置。

（注）利用者用WWW検索用パーソナルコンピューターは総合情報処理センターより借り受けたもの。

※WWW=World Wide Web：HTML言語で作成されたハイパーテキストを効率的に閲覧する情報表示システム。インターネットは蜘蛛の巣のように張り巡らされたWWWのネットワークで、世界中のLANを相互に接続する。

K) パーソナルコンピューター：入館システム管理用。NEC社製、PC-9801BX3/U2/W（メモリ：16MB、ディスク：210MB、15インチディスプレイ）、1号館準備室、理工学系研究図書館に各1台、平成8年3月設置。

### 3. CD-ROMサーバー/クライアントシステム機器内訳

L) ※CD-ROMサーバー：CD-ROM管理用。COMPAQ社製、Prosignia4/66CD-1050（メモリ：32MB，ディスク：1GB，CD-ROM装置、15インチディスプレイ）2号館電算室（1台）、平成7年3月設置。

M) CD-ROM端末：利用者用CD-ROM検索専用、Digital社製、VENTURIS466（メモリ：8MB，ディスク：540MB，共有プリンター）2号館電算室（7台）、1号館閲覧室（4台）、理工学系研究図書館（2台）、平成7年3月設置。

※CD-ROMサーバー＝複数のユーザーのパソコン等にCD-ROM情報資源を提供する機器。

### 4. 事務用電算機器内訳

N) パーソナルコンピューター：事務用機器管理用。EPSON社製、ST-620T6202-2010（メモリ：64MB，ディスク：2GB，17インチディスプレイ）、2号館事務室（1台）、平成9年3月設置。

O) パーソナルコンピューター：事務用。富士通社製、FMV DESKPOWERSE（メモリ：32MB，ディスク：1GB，17インチディスプレイ）、2号館事務室、1号館カウンター、理工学系研究図書館に各1台、平成9年3月設置。

O) パーソナルコンピューター：事務用。富士通社製、FMV DESKPOWERS167（メモリ：32MB，ディスク：1GB，17インチディスプレイ）、2号館電算室（1台）、平成9年3月設置。

O) パーソナルコンピューター：事務用。IBM社製、PS/V Master100（メモリ：15MB，17インチディスプレイ）、2号館事務室（1台）、平成9年3月設置。

O) パーソナルコンピューター：事務用。NEC社製、PC-9821AP2（メモリ：16MB，ディスク：127MB，17インチディスプレイ）、2号館事務室（1台）、平成9年3月設置。

O) パーソナルコンピューター：事務用。IBM社製、PS/V Vision

(メモリ：16MB，ディスク：332MB)，2号館電算室(1台)、平成9年3月設置。

O) パーソナルコンピューター：事務用。NEC社製、PC-9821Xc16/M7(メモリ：32MB，ディスク：2GB，17インチディスプレイ)、2号館事務室(2台)、平成9年3月設置。

P) レーザープリンター：事務用。EPSON社製、LP-8200PS2，2号館事務室(1台)、平成9年3月設置。

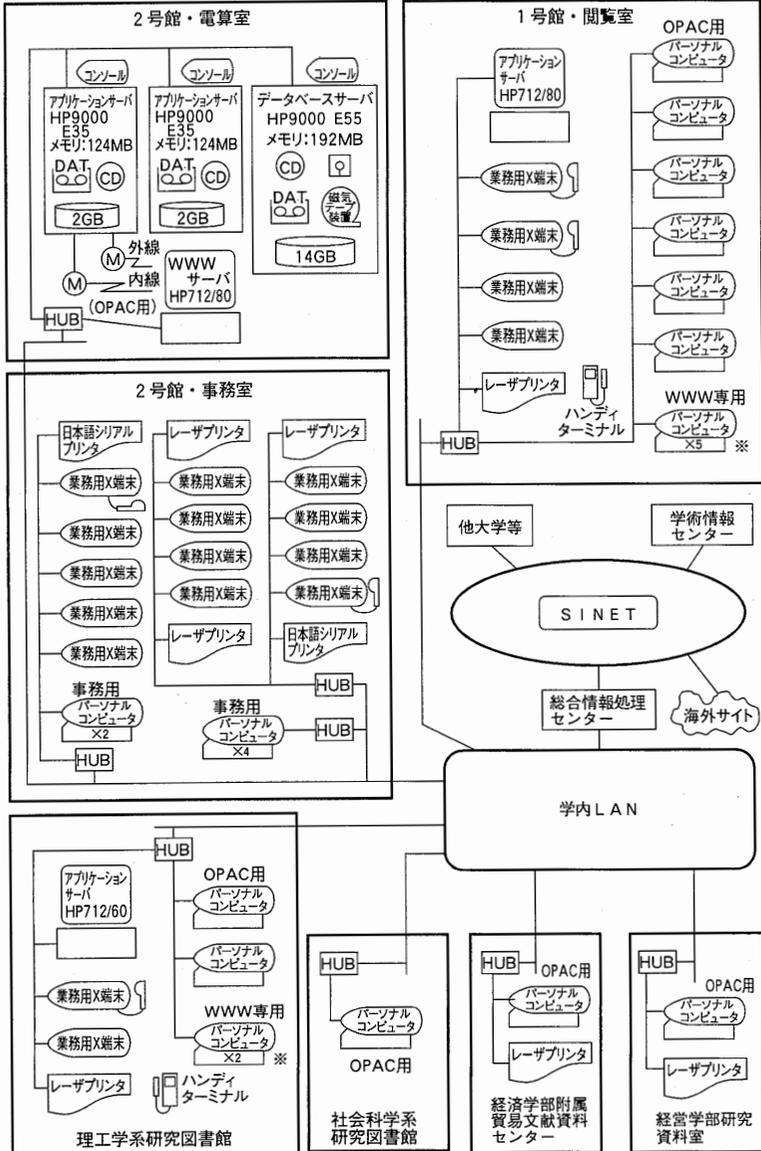
P) レーザープリンター：事務用。EPSON社製、LP-8000S，2号館事務室(1台)、平成9年3月設置。

Q) イメージスキャナ：資料入力用。HP社製、ScanJet4c，2号館事務室、1台、平成9年3月設置。

以上の機器構成、ネットワーク等の概念図は以下の様になる。WWW上にホームページを開設し、平成8年度から、世界に向けた情報発信の機能を備えると共に、利用者への情報提供の充実に力を入れている。

# システム機器構成図 (平成9年4月1日現在)

横浜国立大学附属図書館



(注) ※=総合情報処理センターからの移設分

## 第2項 入退館管理システム、自動貸出・返却装置、視聴覚資料等

1. 入退館管理システムはパソコンによるコントロールにより、従来の入退館者管理業務の省力化を図ると同時に、入館者のIDカードによる自由な出入りを実現した。

A) 入館管理システム＝図書館利用者に配布しているIDカードを、ゲートのカードリーダーで読み取らせ、利用者を判断して入館させる。同時にIDカードのデータを読み、各種統計データを作成する。MACOM社製（ゲート、リモコンボックス、パソコン及び周辺機器、パッケージソフト）、中央館、理工学系研究図書館に各1台、平成8年3月設置。

B) 退館者管理システム＝BDS（Book Detection System）は各蔵書にタトルテープを貼り、その特別な磁気信号をキャッチし、無断帯出を防ぐ図書探知システム。3M社製、M-3802（2通路、退館ゲート、磁気信号消去・再成装置、※自動貸出・返却装置、チェック用磁気ラベル）、中央館、理工学系研究図書館に各1台、平成8年3月設置。

※自動貸出・返却装置＝蔵書のバーコードもしくは磁気データを読み取り、貸出・返却手続きを利用者がセルフサービスで行う装置。中央館にのみ1台。

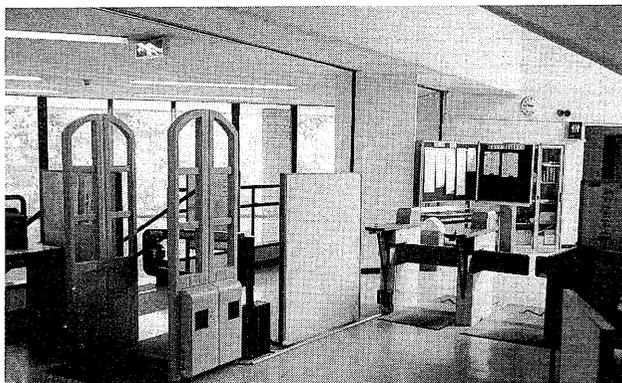
### 2. マイクロ資料、視聴覚（AV）資料及びその読取装置等

A) マイクロ資料撮影機＝ミノルタ社製、RP606Z（床上型汎用機、普通紙リーダープリンター、レンズ倍率：7.5X～27X、極性切換：ネガ・ポジ自動判別、マニュアル自動切換え、現像方式：乾式現像、複写速度：A4、B5／10枚／分、B4／9枚／分、中央館（1台）、平成5年3月設置。

B) ホームメディアセンター＝多様なAVプログラムソースに対応した大型ビデオシステム。ソニー社製、システム104G（プロジェクションテレビ、AVアンプ、ビデオデッキ、マルチディスクプレート、フロントスピーカー、トランスミッター、AIコンソール）、中央館（1台）、平成5年3月設置。

### 3. マイクロ及びAV資料の受入れ状況

- マイクロフィルム : 4,649リール
- マイクロフィッシュ : 21,197枚
- ビデオテープ : 1,102本
- レーザーディスク : 351枚
- CD : 508枚
- カセットテープ : 489本



中央図書館ブックディテクションシステム

## 第3類 図書館相互利用

久保田 満 子

### 1. 国立大学図書館間相互利用制度

国立大学図書館協議会における調査研究に基づく同協議会理事会の検討を経て、昭和56年6月開催の第28回国立大学図書館協議会総会において「実施要項及び細則」が決まった。その後、実施に際しての準備作業を経て共通閲覧証方式による相互利用制度が昭和57年1月15日から実施された。

この制度の趣旨は、学術情報資源はそれを所有する大学に関わりなく研究者の共有財産であるという認識に立って、全国の国立大学図書館所蔵資料の共同利用を図り、学術研究の進展に寄与しようとするものである。研究者（大学院生等を含む）はあらかじめ「国立大学図書館間共通閲覧証」の交付を受け、それを持参すれば全国どこの国立大学でも、その大学が指定した学内図書館を利用することができるようになった。

図書館間相互協力としては、文献複写、資料の分担・共同保存、現物貸借、共同目録等があげられる。このうち、文献複写については、上記相互利用制度が実施される以前からも大きな実績を上げていたが、全般的には、昭和55年1月の学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」に端を発して、文部省施策の重点課題として整備が図られることとなった。昭和61年4月に創設された学術情報センターが中心となって推進している目録・所在情報データベースの形成とその提供は、学術情報システムにおける主要な機能の一つとして位置付けられているが、本学附属図書館は、昭和63年3月に全国で29番目の参加館としてNAC S I S \* - C A T（オンライン共同分担目録システム）に接続した。以後、自館システムへのコピーカタログングやO P A Cにも活用するという恩恵に浴しながら、全国総合目録を形成する一翼を担って努力している。

また、平成4年4月からは、前述の目録・所在情報データベースを典拠として文献複写と現物貸借を統合的に扱ってオンライン・オーダーができる学術情

報センター ILLシステムが稼働した。本学附属図書館は、試用モニターに参加するなど準備段階からも協力し、本番稼働とともに業務利用を開始したが、同時にこのNACISIS-ILL（オンライン図書館相互貸借システム）に対応したローカルシステムも準備して全国に先駆けてオンラインによるILL業務を開始している。これを機会に図書館間相互利用サービスは文献複写のみならず、現物貸借も増加の一途をたどることとなり、国立大学間に止まらず、学術情報システムに参加した国公立大学にまで拡大されたものとなった。

\* NACISISは学術情報センター（National Center for Information System）の略称

## 2. 神奈川県内大学図書館相互協力制度

当制度は、横浜の5大学（神奈川大学、関東学院大学、横浜市立大学、横浜商科大学及び横浜国立大学）の社会科学系教員で構成されている横浜5大学連合学会から昭和54年12月、要望書「神奈川県における大学図書館間の相互利用体制の整備について」が提出されたことに始まる。この要望に応えるため、昭和55年3月第1回横浜5大学図書館長会議が本学附属図書館を会場として開催され、遠藤輝明館長が議長をつとめ協議の結果、相互利用制度の基本方針の合意が得られた。

昭和55年6月には「神奈川県内（横浜5）大学図書館相互利用実施要項」が制定されて実施に踏み切った。この制度の特色は、研究者が各大学発行の共通閲覧証を持参し受入館に提示すれば、館内閲覧及び文献複写の範囲内で利用することができ、手続きが簡便化されるとともに、研究者はじかに資料に接することができるということにある。これは、国立大学図書館間相互利用制度の実施に約1年半先んずるものであった。

昭和56年4月の第6回横浜5大学図書館長会議に於て検討の結果、5大学の制度を県内所在の大学図書館（大学校、短大を含む）にまで拡大・発展させる方向が確認された。その実現のため準備委員会が結成され、3回にわたる討議の結果、昭和57年1月に県内46大学に呼びかけを行った。その結果、昭和57年5月には賛同館21館（33人）の出席を得て、第1回総会が開催され会則が承認

されて「神奈川県内大学図書館相互協力協議会」が発足した。その後相互利用制度の実施にむけて準備が進められ、同年12月の第2回総会で「神奈川県内大学図書館相互利用実施要項」が制定された。

一方、当初から検討課題となっていた目録類作成作業の一つは、平成元年7月年鑑類総合目録編集委員会でワーキンググループが発足し、その後精力的に作業を積み重ね平成3年5月『神奈川県内大学図書館年鑑類総合目録（稿）平成元年3月31日現在』発行の運びとなった。準備段階の平成元年～2年は本学が同協議会の会長館（藤村淳館長）を勤めていた時期で、担当係は日常業務をこなしながらの作業であった。

もう一つの課題であった相互貸借は、平成3年ワーキンググループが設立され平成4年5月12日実施要項が制定された。その趣旨は、同協議会現物貸借制度に加入した加盟館において貸出館の現物貸借に関する方針（レンディング・ポリシー）に従って実施するというものである。おりしも学術情報センターILLシステム稼働の年に当たっており、機を一にして図書館相互利用の進展がみられたわけである。

平成8年度現在神奈川県内大学図書館相互協力協議会加盟館は44館で、慶應義塾大学日吉メディアセンターが会長館を勤めている。本学附属図書館は連絡館として他の7館と共に協議会の運営に参画している。主な事業として、相互利用の推進の他に実務担当者会を定期的に行き、講演会、各館の情報交換等を通じて県内大学図書館職員の相互理解と資質の向上を目指している。ちなみに、平成8年度の実務担当者会のテーマは、第1回は「CD-ROMの管理と運営について」、第2回は「資料の保存」であった。

※ 本類は下記を参考に記述した。又、大石博昭参考調査係長から助言をいただいた。

横国大館報 Vol. 3, No. 2 『図書館相互協力の現状』吉岡千里

同 Vol. 5, No. 2 『国立大学間相互利用制度の発足について』

同 Vol. 16, No. 1 『図書館相互協力サービスの新段階』

神図協会報 No. 125 『県内大学図書館相互協力制度確立の経過について』

神奈川県内大学図書館相互協力協議会会報 第18号他

## 第4類 予算

鈴木正雄

### 第1項 概要

平成3年2月8日の大学審議会答申〔大学教育の改善について〕の中で、大学の学習環境の整備を進めることの重要性として、「附属図書館の機能の充実」が一層重視される必要があると述べている。

大学図書館がその機能を十分に発揮し、大学教育に寄与するためには、十分な予算的裏付けがなければならない。

ここで、本学附属図書館の予算について以下、見ることにする。

#### 1. 大学総経費に占める図書館経費について

大学図書館の運営に関する予算は、図書館の使命を遂行するために、必要かつ十分な規模のものでなければならないと言われている。(大学図書館基準(昭和27年6月17日):大学基準協会決定)

本学附属図書館の予算を考えたとき、大学の総経費の中で図書館経費がどのような状況を示しているかを国立大学平均と比較しながら見てみたい。(表1参照)

- ① 平成7年度は、本学の大学総経費は、172億3百万円、図書館総経費は、5億5百万円で、大学総経費に占める図書館総経費の割合は、2.9%となっている。

図書館総経費の内訳では、資料費2億7千万円、運営費2億3千4百万円で、大学総経費に占める割合は、資料費1.6%、運営費1.3%となっている。

これについて国立大学平均と比較した場合、図書館総経費の割合においては、全国国立大学平均2.4%、C規模国立大学平均2.6%で、本学が0.5%~0.3%と僅かに上回っている。

内訳における資料費は、全国国立大学平均で1.1%、C規模国立大学平均、1.3%で本学が0.5%~0.3%上回っている。

運営費については、各大学平均とも1.3%で本学と同じである。

- ② 過去9年間（昭和62年度～平成7年度）の年度平均では、本学の大学総経費は138億3千9百万円、図書館総経費4億8千8百万円で大学総経費に占める図書館総経費の割合は、3.5%であり、全国国立大学平均2.7%、C規模国立大学平均の2.9%に対して、本学が0.8%～0.6%上回っている。

また、内訳における資料費については、本学の資料費2億6千8百万円で大学総経費に占める割合は、1.9%であり、全国国立大学平均1.3%、C規模国立大学平均の1.5%に対し、本学が0.6%～0.4%上回っている。

運営費は、本学の2億2千万円で大学総経費に占める割合は、1.6%であり、全国国立大学平均、C規模国立大学平均とも1.4%に対し、本学が0.2%上回っている。

- ③ なお、本学の大学総経費に占める図書館総経費の割合の伸び率を見ると、昭和62年度を基準とし、平成7年度では大学総経費の伸び率は45.6%増であるのに対し、図書館総経費の割合の伸び率は $\Delta 1\%$ （資料費 $\Delta 0.6\%$ ・運営費 $\Delta 0.4\%$ ）となっている。

図書館経費の割合の低下現象は、平成3年度から生じており大学平均においても、その傾向が現われている。このことは、大学図書館の使命を遂行するためには、大いに問題とされるべきところである。

## 2. 定員内職員の給与を除いた附属図書館経費について

1では、大学の総経費の面から図書館予算を見てきたので、ここでは図書館経費の内訳の内容について見ることにする。

本学の定員内職員の給与を除いた附属図書館経費の内訳別について、表2を見ると、

- ① 平成8年度では、図書館経費の総額は、資料費2億6千9百万円、運営費9千万円で総額は3億5千9百万円である。

また、経費の出所別を見ると、「文部省からの配当額」は、資料費1千8百万円、運営費2千4百万円で合計4千2百万円である。「大学からの配当額（その他の経費からの配当額）」は、資料費2億5千1百万円、運営費6千6百万円、合計3億1千7百万円である。出所別の構成比は、文部省から

の配当額12%、大学からの配当額は88%である。大学図書館がその機能を十分に発揮するためには、大学からの配当額に依存せざるを得ない。

- ② 過去10年間（昭和62年度～平成8年度）の年度平均では、図書館経費の総額は資料費2億6千8百万円、運営費7千5百万円で、総額は3億4千3百万円である。

経費の出所別では、「文部省からの配当額」は資料費2千2百万円、運営費2千3百万円で合計4千5百万円である。「大学からの配当額」は、資料費2億4千6百万円、運営費5千2百万円で合計2億9千8百万円である。その出所別構成比は、文部省からの配当額13%、大学からの配当額は87%である。

③ 経費の内訳

A. 資料費

平成8年度の資料費の総額は、2億6千9百万円となっている。内訳は「図書」1億2千2百万円（45.3%）、「雑誌」1億2千8百万円（47.6%）、「その他」1千9百万円（7.1%）となっている。

過去10年間の年度平均では、資料費の総額は、2億6千8百万円であり、内訳は「図書」1億4千5百万円（53.9%）、「雑誌」1億9百万円（40.7%）、「その他」1千4百万円（5.4%）となっている。

B. 運営費

平成8年度の運営費の総額は、9千万円となっている。運営費の内訳の中で特に経費のかかるものとしては、「賃金・謝金」3千3百万円（37.1%）、「その他」1千4百万円（15.9%）、「印刷製本」1千3百万円（14.7%）、「光熱水料」1千万円（11.6%）で、総額の79%を占めている。

10年間の年度平均においても、「賃金・謝金」3千万円（40.1%）、「その他」1千万円（14.1%）、「光熱水料」1千万円（13.9%）、「賃借料」9百万円（11.8%）で、総額の79.9%を示し、例年これらの経費で運営費を占めている。

なお、「その他」は、主として設備の保守料と建物補修費である。

## 第2項 予算の推移

大学総経費に占める図書館経費及び、本学附属図書館経費の内訳について、昭和62年度を基準とし、平成8年度（大学総経費に占める図書館経費は7年度）までの推移をみると、表のとおりである。



理工学系研究図書館ロビー

表1 最近における大学総経費に占める図書館経費の推移

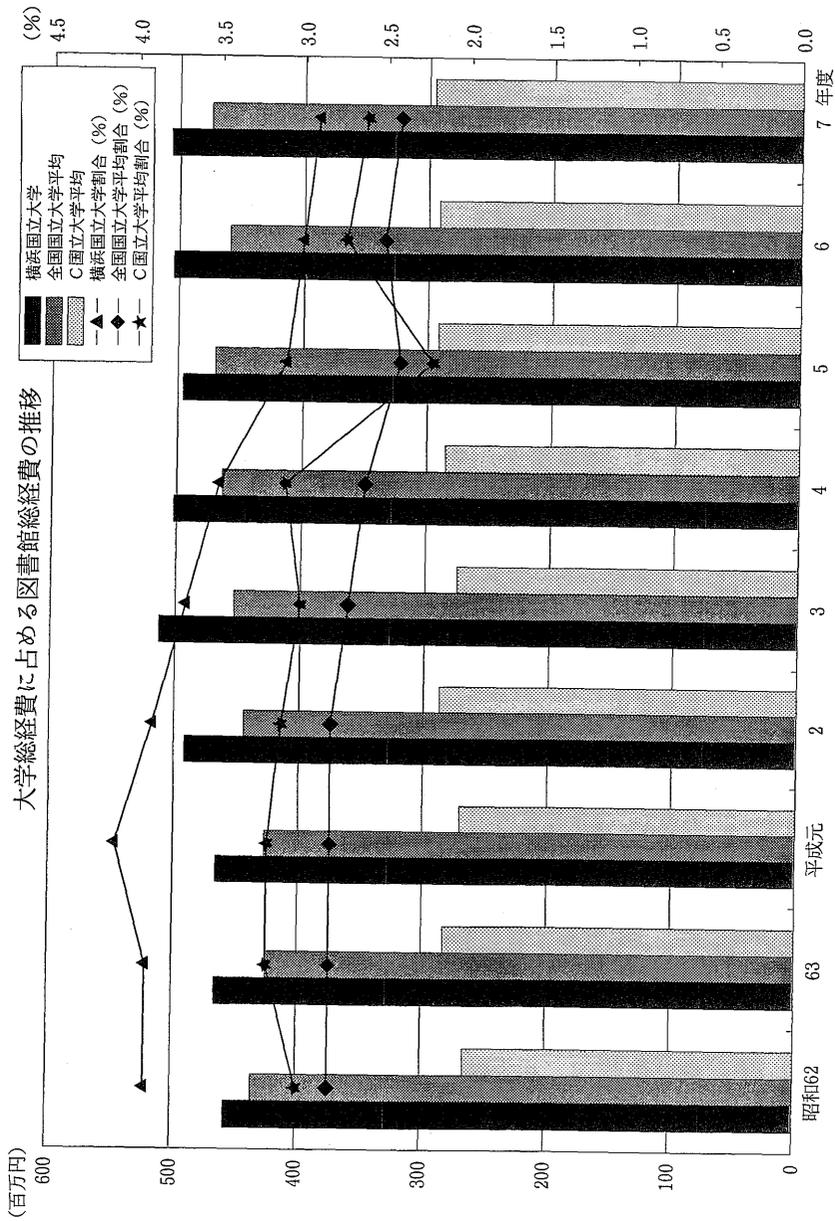
(単位：千円)

会計年度	区分	A 図書館資料費		B 図書館運営費		C 図書館総経費		D 大学総経費	
		指数	$\frac{A}{D} \times 100$ %	指数	$\frac{B}{D} \times 100$ %	指数	$\frac{C}{D} \times 100$ %	指数	
昭和62年度	横浜国立大学	258,083	100.0	200,450	100.0	458,533	100.0	11,816,823	100.0
	全国国立大学平均	230,643	100.0	205,868	100.0	436,511	100.0	15,281,639	100.0
	C国立大学平均	140,583	100.0	124,895	100.0	265,478	100.0	8,690,722	100.0
昭和63年度	横浜国立大学	258,422	100.1	208,540	104.0	466,962	101.8	11,912,764	100.8
	全国国立大学平均	209,941	91.0	214,476	104.2	424,417	97.2	14,913,244	97.6
	C国立大学平均	139,764	99.4	141,465	113.3	281,229	105.9	8,725,997	100.4
平成元年度	横浜国立大学	260,959	101.1	204,519	102.0	465,478	101.5	11,244,953	95.2
	全国国立大学平均	211,762	91.8	217,051	105.4	428,813	98.2	15,298,111	100.1
	C国立大学平均	138,890	98.8	131,482	105.3	270,372	101.8	8,306,430	95.6
平成2年度	横浜国立大学	272,394	105.5	219,065	109.3	491,459	107.2	12,391,193	104.9
	全国国立大学平均	218,942	94.9	227,831	110.7	446,772	102.3	15,595,666	102.1
	C国立大学平均	147,706	105.1	139,348	111.6	287,064	108.1	9,110,444	104.8
平成3年度	横浜国立大学	286,787	115.0	224,254	106.9	511,041	111.5	13,491,628	114.2
	全国国立大学平均	219,238	95.1	233,697	113.5	452,934	103.8	16,337,124	106.9
	C国立大学平均	140,862	100.2	132,536	106.1	273,398	103.0	8,988,866	103.1
平成4年度	横浜国立大学	273,324	106.0	227,788	113.6	501,112	109.3	14,170,262	119.9
	全国国立大学平均	223,612	97.0	238,680	115.9	462,292	105.9	17,310,888	113.3
	C国立大学平均	145,265	103.3	139,848	112.0	285,113	107.4	9,305,947	107.1
平成5年度	横浜国立大学	257,418	99.7	238,700	119.0	496,118	108.2	15,907,086	134.6
	全国国立大学平均	221,647	96.1	244,875	118.9	466,522	106.9	19,396,615	126.9
	C国立大学平均	143,780	102.3	147,561	118.1	291,341	109.7	12,672,491	145.8
平成6年度	横浜国立大学	270,836	104.9	232,842	116.2	503,677	109.8	16,416,677	138.9
	全国国立大学平均	213,039	92.4	246,597	119.8	459,636	105.3	18,285,723	119.7
	C国立大学平均	141,433	100.6	149,721	119.9	291,154	109.7	10,602,049	112.0
平成7年度	横浜国立大学	270,667	104.9	234,971	117.2	505,638	110.3	17,203,637	145.7
	全国国立大学平均	215,072	93.2	255,684	124.2	470,756	107.8	19,515,870	127.7
	C国立大学平均	142,848	101.6	154,169	123.4	297,017	111.9	11,424,925	131.5
年度平均	横浜国立大学	268,766	104.1	230,125	109.8	488,891	106.6	13,889,447	117.1
	全国国立大学平均	218,211	94.6	231,640	112.5	449,851	103.1	16,881,653	110.5
	C国立大学平均	142,348	101.3	140,114	112.2	282,462	106.4	9,755,319	112.2

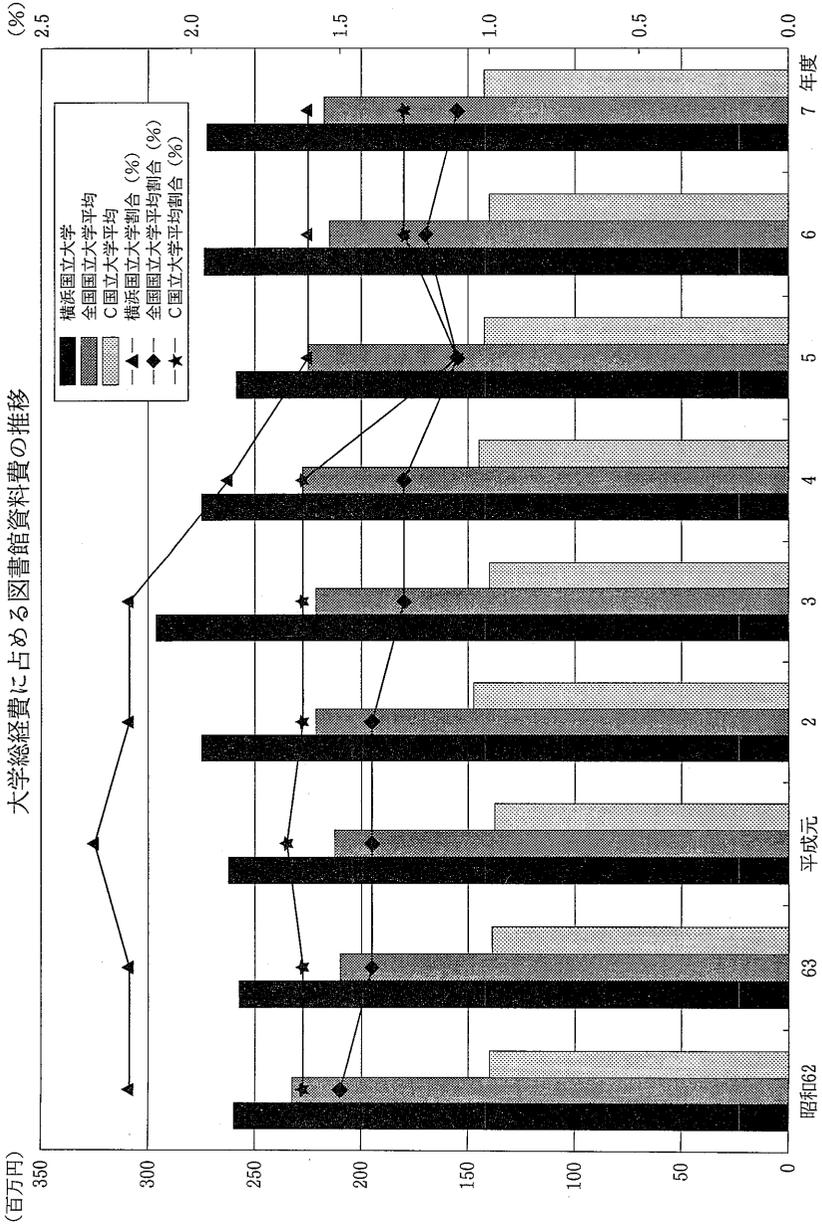
(注) 1. 経費の金額は、大学図書館実態調査報告(文部省)に基づいた数である。

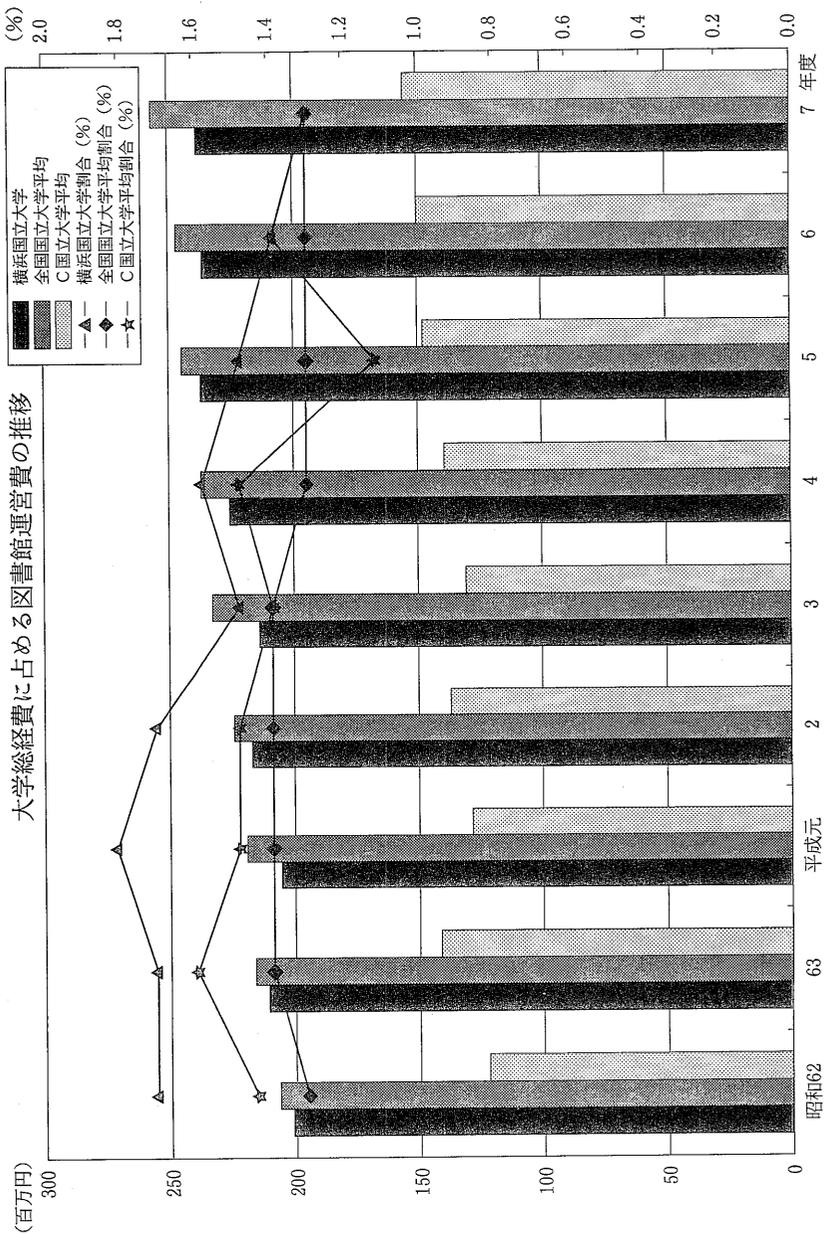
2. 指数は、昭和62年度を基準とした数である。

大学総経費に占める図書館総経費の推移

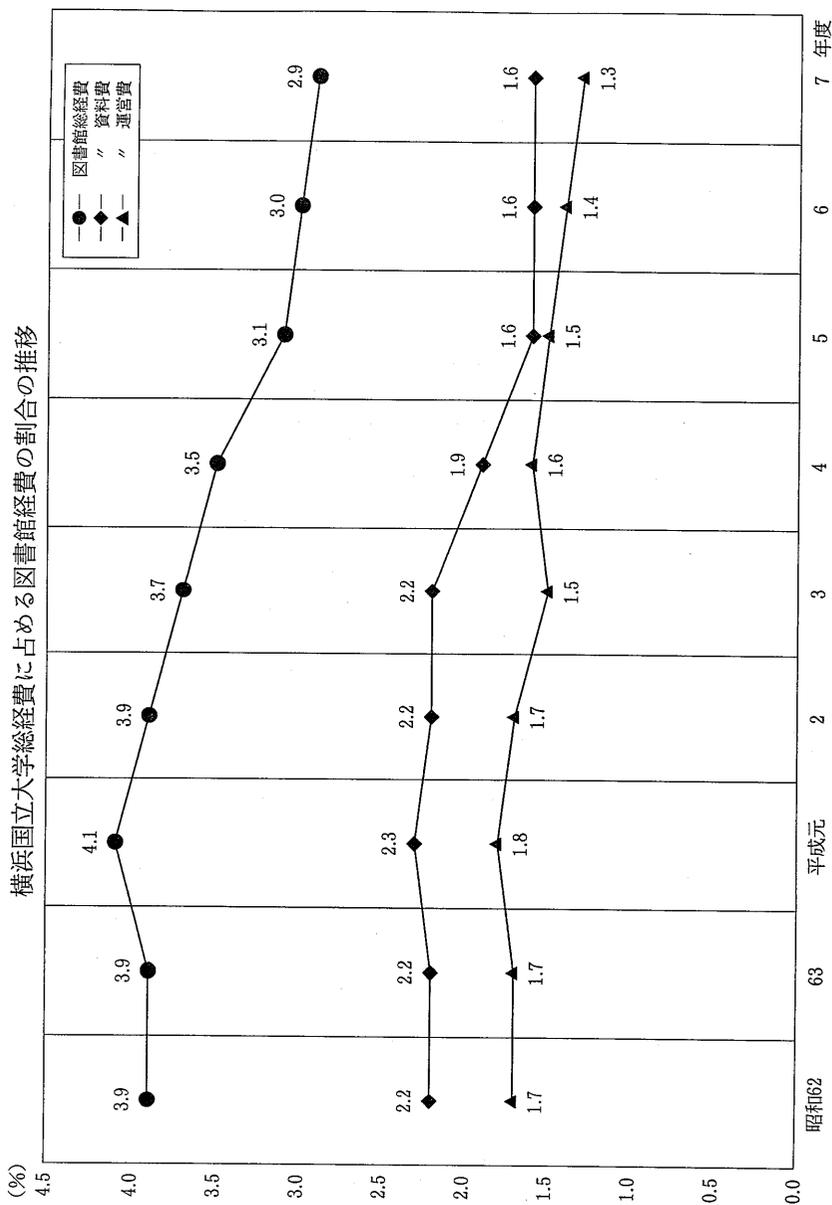


大学総経費に占める図書館資料費の推移





横浜国立大学総経費に占める図書館経費の割合の推移



横浜国立大学総経費に占める附属図書館資料費・運営費の推移

(百万円)

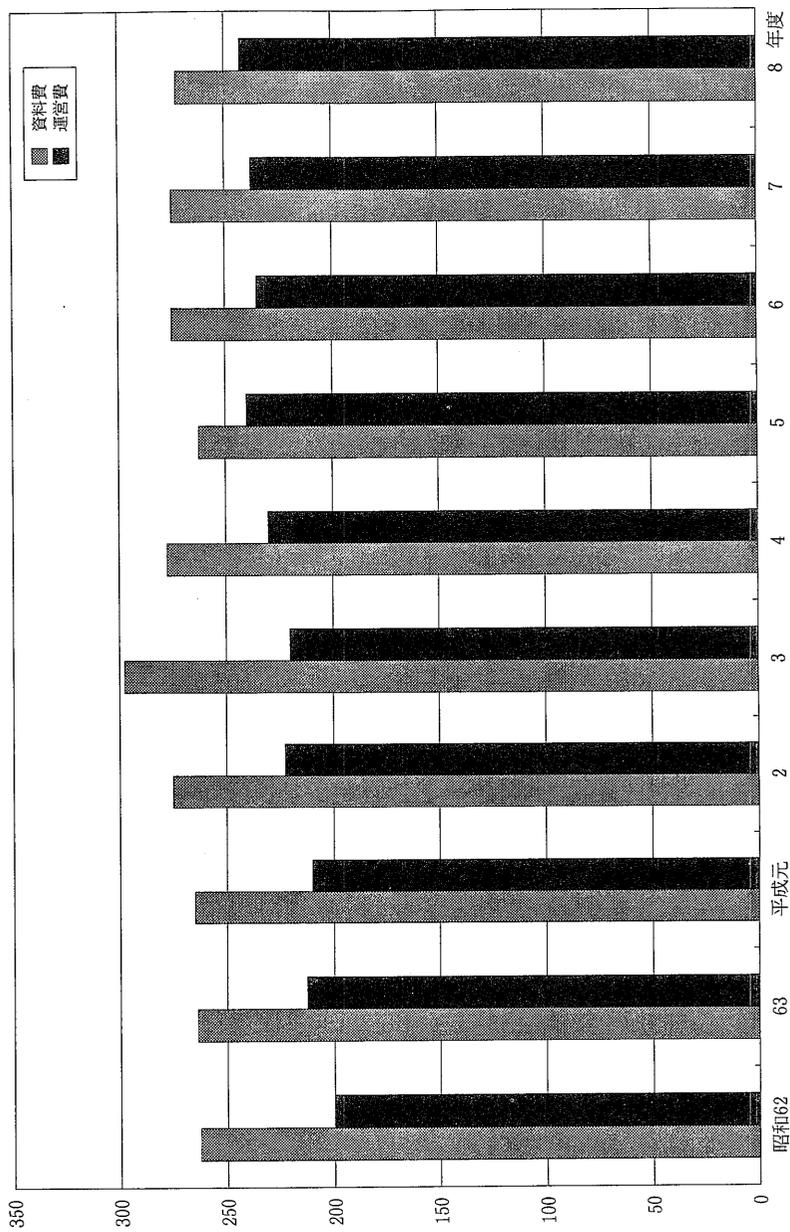


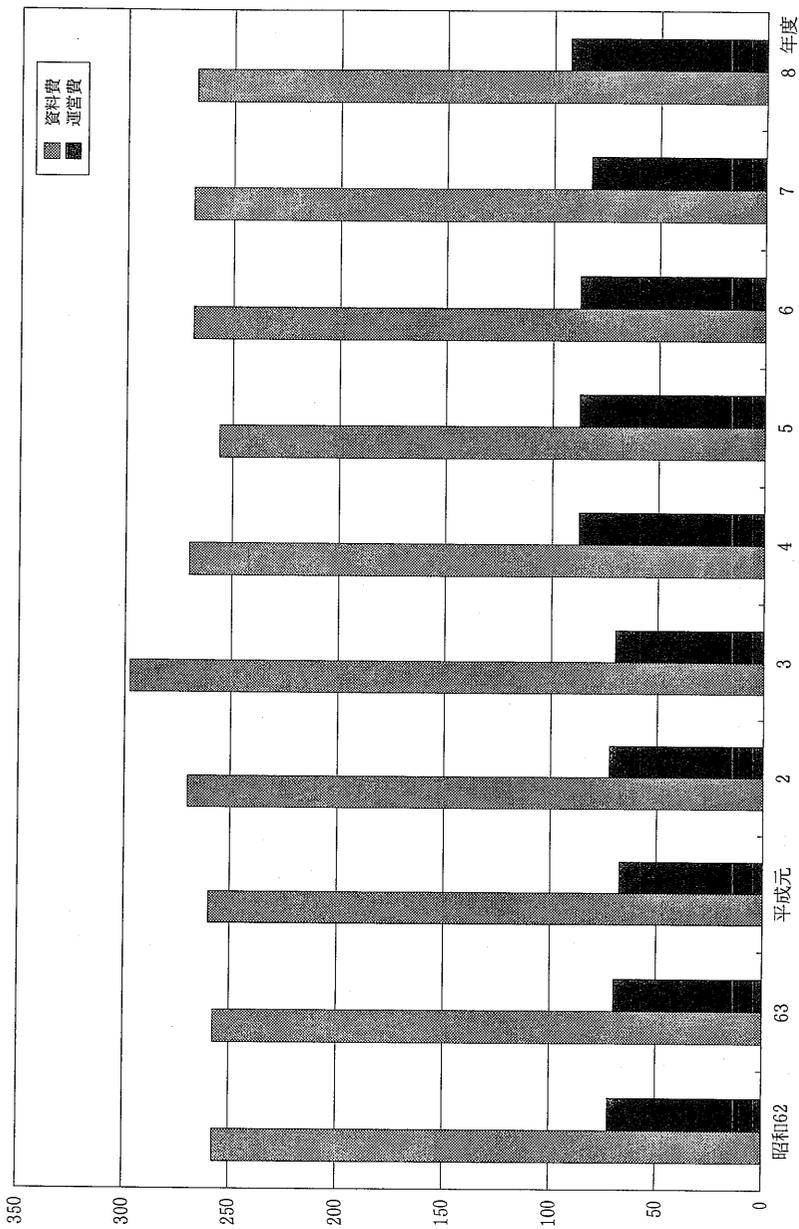
表2 横浜国立大学附属図書館経費(内訳別)の推移 (単位:千円)

年度	算 料				費 額				運 営				支 出				費 額			
	予 算 額		支 出		支 出		支 出		支 出		支 出		支 出		支 出		支 出		支 出	
	文部省 からの 経費から 配当額	その他 の配当額	和	計	和	計	和	計	和	計	和	計	和	計	和	計	和	計	和	計
昭和62	21,873 (8.5)	235,295 (91.5)	66,555 (25.8)	255,083 (33.0)	93,224 (38.4)	195,779 (76.6)	16,935 (6.6)	85,000 (33.0)	7,224 (2.8)	255,083 (100)	23,867 (9.3)	43,900 (17.2)	66,957 (26.1)	28,824 (11.3)	43,100 (16.8)	66,957 (26.1)	23,867 (9.3)	43,900 (17.2)	66,957 (26.1)	28,824 (11.3)
昭和63	22,038 (8.5)	236,384 (91.5)	81,467 (31.5)	258,422 (33.2)	73,999 (28.6)	155,466 (60.1)	20,708 (8.0)	93,439 (36.2)	9,517 (3.7)	258,422 (100)	42,787 (16.6)	42,787 (16.6)	65,681 (25.4)	26,714 (10.3)	42,787 (16.6)	65,681 (25.4)	42,787 (16.6)	42,787 (16.6)	65,681 (25.4)	26,714 (10.3)
平成元	21,719 (8.3)	239,240 (91.7)	71,930 (29.9)	260,959 (35.3)	82,863 (31.5)	160,293 (61.4)	19,661 (7.5)	92,530 (35.3)	8,136 (3.1)	260,959 (100)	23,121 (8.9)	40,930 (15.7)	63,411 (24.3)	27,023 (10.4)	40,930 (15.7)	63,411 (24.3)	23,121 (8.9)	40,930 (15.7)	63,411 (24.3)	27,023 (10.4)
平成2	27,562 (10.0)	244,831 (89.9)	71,787 (26.4)	162,873 (61.8)	91,066 (33.4)	162,873 (61.8)	18,324 (6.7)	106,233 (64.9)	3,288 (1.2)	162,873 (100)	25,737 (15.8)	41,835 (25.7)	67,572 (41.6)	26,520 (16.3)	41,835 (25.7)	67,572 (41.6)	25,737 (15.8)	41,835 (25.7)	67,572 (41.6)	26,520 (16.3)
平成3	21,099 (7.1)	275,688 (92.9)	295,787 (107.1)	115,907 (42.1)	82,074 (29.5)	157,047 (56.5)	22,475 (8.1)	93,432 (33.1)	23,833 (8.0)	295,787 (100)	20,646 (7.0)	44,855 (15.3)	65,501 (22.1)	29,733 (10.2)	44,855 (15.3)	65,501 (22.1)	20,646 (7.0)	44,855 (15.3)	65,501 (22.1)	29,733 (10.2)
平成4	19,808 (7.2)	253,516 (92.8)	68,216 (24.9)	136,729 (50.0)	73,073 (26.1)	136,729 (50.0)	22,671 (8.3)	117,320 (42.9)	19,275 (7.1)	136,729 (100)	23,784 (17.3)	62,137 (45.5)	85,921 (62.5)	33,240 (24.3)	62,137 (45.5)	85,921 (62.5)	23,784 (17.3)	62,137 (45.5)	85,921 (62.5)	33,240 (24.3)
平成5	20,811 (8.1)	236,607 (91.9)	54,871 (21.3)	122,954 (44.5)	67,083 (24.3)	122,954 (44.5)	22,079 (8.5)	95,868 (34.2)	17,117 (6.7)	122,954 (100)	19,982 (16.2)	64,127 (52.2)	85,988 (70.0)	33,202 (27.0)	64,127 (52.2)	85,988 (70.0)	19,982 (16.2)	64,127 (52.2)	85,988 (70.0)	33,202 (27.0)
平成6	21,887 (8.1)	246,949 (91.9)	64,393 (23.8)	137,466 (50.8)	73,073 (26.1)	137,466 (50.8)	23,568 (8.7)	97,003 (35.8)	12,799 (4.7)	137,466 (100)	26,552 (19.3)	61,559 (44.8)	87,111 (63.3)	32,826 (23.9)	61,559 (44.8)	87,111 (63.3)	26,552 (19.3)	61,559 (44.8)	87,111 (63.3)	32,826 (23.9)
平成7	31,590 (11.5)	239,287 (86.5)	65,769 (24.3)	127,657 (46.2)	64,572 (23.9)	127,657 (46.2)	21,220 (7.9)	94,507 (34.9)	24,289 (9.0)	127,657 (100)	22,067 (17.3)	57,907 (45.4)	79,974 (62.5)	33,268 (26.0)	57,907 (45.4)	79,974 (62.5)	22,067 (17.3)	57,907 (45.4)	79,974 (62.5)	33,268 (26.0)
平成8	17,115 (6.6)	251,447 (93.4)	63,909 (23.7)	121,982 (45.3)	52,452 (19.1)	121,982 (45.3)	24,452 (8.9)	103,532 (38.5)	19,146 (7.1)	121,982 (100)	24,188 (19.8)	66,666 (54.7)	90,854 (74.5)	33,702 (27.6)	24,188 (19.8)	66,666 (54.7)	24,188 (19.8)	66,666 (54.7)	90,854 (74.5)	33,702 (27.6)
年度平均	22,600 (8.4)	246,225 (91.6)	69,987 (25.6)	128,805 (46.5)	58,068 (21.8)	128,805 (46.5)	21,229 (7.4)	98,688 (35.9)	14,405 (5.4)	128,805 (100)	23,382 (18.2)	52,515 (40.8)	75,897 (58.9)	34,465 (26.8)	23,382 (18.2)	52,515 (40.8)	23,382 (18.2)	52,515 (40.8)	75,897 (58.9)	34,465 (26.8)

(注) 1. 経費の金額は、大学図書館実態調査報告(文部省)に基づく。但し、図書館運営費には定員内職員の給与は除く。  
 2. \*印の数字は、寄附金を内数で示す。  
 3. ( ) 内の数字は、構成比(%)を示す。

資料費と運営費の推移

(百万円)



## 第5類 職員資料

飯塚 實・久保田満子

### 第1項 歴代附属図書館長・分館長

#### 歴代館長一覽

	氏名	在任期間	所属	備考
1	*渡辺輝一	昭和24.12.12~昭和27. 3.31	経済学部	
2	*阿部滋弘	昭和27. 4. 1~昭和29. 7.19	工学部	理学博士
3	*松崎實次	昭和29. 7.20~昭和31.12.15	教育学部	
4	*徳増榮太郎	昭和31.12.16~昭和35. 3.31	経済学部	
5	*木下恭二	昭和35. 4. 1~昭和37. 3.31	工学部	理学博士
6	*沢崎九二三	昭和37. 4. 1~昭和39. 3.31	教育学部	
7	杉本俊朗	昭和39. 4. 1~昭和41. 3.31	経済学部	
8	友成忠雄	昭和41. 4. 1~昭和43. 3.31	工学部	工学博士
9	*八島長壽	昭和43. 4. 1~昭和45. 3.31	教育学部	
10	遠藤輝明	昭和45. 4. 1~昭和47. 3.31	経済学部	
11	*藤田忠	昭和47. 4. 1~昭和50. 3.31	経営学部	商学博士
12	田口武一	昭和50. 4. 1~昭和52. 3.31	工学部	工学博士
13	*野村正七	昭和52. 4. 1~昭和54. 4.15	教育学部	理学博士
		(昭和54. 4. 1~昭和54. 4.15)	事務取扱)	
14	遠藤輝明	昭和54. 4.16~昭和57. 3.31	経済学部	再任
15	*藤田忠	昭和57. 4. 1~昭和60. 3.31	経営学部	再任
16	高野義郎	昭和60. 4. 1~昭和63. 3.31	工学部	理学博士
17	藤村淳	昭和63. 4. 1~平成 3. 3.31	教育学部	
18	腰原久雄	平成 3. 4. 1~平成 6. 3.31	経済学部	
19	奥村恵一	平成 6. 4. 1~平成 8. 3.31	経営学部	経済学博士
20	関口欣也	平成 8. 4. 1~	工学部	工学博士

\*印 逝去

## 分 館 長 一 覽

### 教育学部分館長（昭和24.12.12～昭和51. 3.31）

松 本 賢 治	昭和24.12.12～昭和26. 7.31
吉 原 俊 夫	昭和26. 8. 1～昭和29. 3.31
松 尾 俊 郎	昭和29. 4. 1～昭和35. 5.15
浜 田 俊 吉	昭和35. 5.16～昭和41. 4.30
山 崎 栄 治	昭和41. 5. 1～昭和43. 3.31
山 田 潤 二	昭和43. 4. 1～昭和45. 3.31
大 築 邦 雄	昭和45. 4. 1～昭和47. 3.31
荒 秀	昭和47. 4. 1～昭和49. 3.31
井 田 好 治	昭和49. 4. 1～昭和51. 3.31

### 経済学部分館長（昭和24.12.26～昭和51. 3.31）

德 增 栄太郎	昭和24.12.26～昭和25. 7.16	
武 藤 正 平	昭和25. 7.17～昭和28. 4.20	
德 增 栄太郎	昭和28. 4.21～昭和32. 3.31	再 任
渡 辺 輝 一	昭和32. 4. 1～昭和34. 3.31	
武 藤 正 平	昭和34. 4. 1～昭和38. 3.31	再 任
杉 本 俊 朗	昭和38. 4. 1～昭和39. 3.31	
清 水 新	昭和39. 4. 1～昭和43. 3.31	
宮 崎 義 一	昭和43. 4. 1～昭和43.11. 1	
遠 藤 輝 明	昭和43.11. 2～昭和45. 3.31	
山 崎 邦 彦	昭和45. 4. 1～昭和47. 3.31	
宮 崎 義 一	昭和47. 4. 1～昭和49. 3.31	再 任
山 崎 邦 彦	昭和49. 4. 1～昭和51. 3.31	再 任

工学部分館長（昭和24.12. 2～昭和51. 3.31）

河村文一	昭和24.12. 2～昭和33. 3.31
山越邦彦	昭和33. 4. 1～昭和37. 3.31
友成忠雄	昭和37. 4. 1～昭和39. 3.31
大岡実	昭和39. 4. 1～昭和41. 3.31
木下恭二	昭和41. 4. 1～昭和45. 3.31
小山永敏	昭和45. 4. 1～昭和49. 3.31
入沢恒	昭和49. 4. 1～昭和51. 3.31

教育学部横浜分館長（昭和28.10. 1～昭和46. 3.31）

沢崎九二三	昭和28.10. 1～昭和30. 5.31	
宮城栄昌	昭和30. 6. 1～昭和32. 3.31	
沢崎九二三	昭和32. 4. 1～昭和35. 8. 4	再任
武藤義夫	昭和35. 8. 5～昭和39. 5.30	
沢崎九二三	昭和39. 5.31～昭和41. 4.30	再任
八島長壽	昭和41. 5. 1～昭和43. 3.31	
高野義郎	昭和43. 4. 1～昭和45. 3.31	
荒秀	昭和45. 4. 1～昭和46. 3.31	

## 第2項 職員名簿・移動状況一覧

### 1. 事務長・事務部長・課長一覧

事務長（昭和24.10.10～昭和51. 3.31）

団 野 弘 之 昭和24.10.10～昭和48. 3.31 退 職  
\* 佐々木 正 男 昭和48. 4. 1～昭和51. 3.31

事務部長（昭和51. 4. 1～）

\* 鷺 山 一 夫 昭和51. 4. 1～昭和56.11.30  
玉 木 卓 郎 昭和56.12. 1～昭和60. 3.31  
武 川 栄 一 昭和60. 4. 1～昭和63. 3.31  
二 上 一 朗 昭和63. 4. 1～平成 5. 3.31  
杉 尾 勝 茂 平成 5. 4. 1～平成 7. 3.31 退 職  
中 根 宏 紀 平成 7. 4. 1～

整理課長（昭和51. 4. 1～昭和63. 3.31）→ 情報管理課長（昭和63. 4. 1～）

\* 佐々木 正 男 昭和51. 4. 1～昭和52. 3.31 退 職  
吉 岡 千 里 昭和52. 4. 1～昭和54. 3.31  
雨 森 弘 行 昭和54. 4. 1～昭和57. 3.31  
近 藤 禧 提 男 昭和57. 4. 1～昭和59. 3.31  
加 藤 誠 之 助 昭和59. 4. 1～昭和62.11.30 退 職  
石 川 誠 幸 昭和62.12. 1～平成 2. 3.31  
下 村 一 夫 平成 2. 4. 1～平成 4. 3.31  
岡 本 一 郎 平成 4. 4. 1～平成 7. 3.31  
川 野 茂 美 平成 7. 4. 1～平成 9. 3.31

閲覧課長（昭和51. 4. 1～昭和63. 3.31）→情報サービス課長（昭和63. 4. 1～）

吉岡千里	昭和51. 4. 1～昭和52. 3.31	
筒井英彦	昭和52. 4. 1～昭和55. 1.15	退職
*鷺山一夫	昭和55. 1.16～昭和55. 3.31	事務取扱
内田勉	昭和55. 4. 1～昭和57. 3.31	
安斉哲夫	昭和57. 4. 1～昭和63. 3.31	
絵鳩彰	昭和63. 4. 1～平成 3. 3.31	
福下毅一	平成 3. 4. 1～平成 6. 3.31	
由良信道	平成 6. 4. 1～平成 8. 3.31	
小花洋一	平成 8. 4. 1～	

\*印 逝去

## 2. 附属図書館創設時の職員名簿（昭和25年度）

図書館名	職名 氏名	係員 氏名
附属図書館	事務長 団野 弘之 庶務係長 桑原 久夫 図書係長 桑原 久夫 (兼)	武田信弘 永倉正子 野尻昭子 本橋房子 海老原蝶子
学芸学部分館	図書係長 筒井 英彦	門馬正見 黒瀬満子 佐々木芳江 境多喜子 門間昭子 阿部 眷
横浜分校分館	図書係長 荒井 繁一	門野カナエ
経済学部分館	図書係長 今村 健太	山田みち子 矢野龍一 小笠原豊
工学部分館	図書係長 猪瀬 博愛	糸満里江
	総 数	22名

## 3. 附属図書館事務部課制実施時の職員名簿（昭和51年度）

課名	職名 氏名	係員 氏名
	事務部長 鷺山 一夫	
整理課	課長 佐々木正雄 補佐 筒井 英彦 (兼 工学) 分室担当 総務係長 下川 明 受入係長 吉岡 磐彦 (兼 経済・経) 営分室担当 整理係長 門馬 正見	武田愛子 笠原 昭 渋谷重雄 猪川圭子 山口マサ枝 藤原令鶴子 逸見定之 渡辺幸和 兵永麗子 鳥屋部順 萩原諄夫 岡部美紀 池田美智子 和多利三津子 上谷康子 相崎直子
閲覧課	課長 吉岡 千里 運用係長 矢野 光雄 (兼 教育) 分室担当 参考係長 檜垣 正也 雑誌係長 飯塚 實	永吉春子 久保田満子 水谷 豊 大金聡男 竹内路子 片山叔子 今井 純 鈴木郁子 武田典子 中川美和子 戸田正子 中川美恵子 松田収三 川村 弘 松下敬子 宮崎智子 安藤芙美代 庵谷郁子 三隅恵司
	総 数	45名（常勤 31名 非常勤 14名）

4. 附属図書館事務組織改組時の職員名簿（平成7年度）

課 名	職 名	氏 名	係 員 氏 名
	事務部長	中根 宏紀	
情 報 管 理 課	課 長	川野 茂美	小田貴史 中山多香子 竹花千秋 金子美根子 片山叔子 黒川俊浩 村田 輝 相崎直子 加藤尚美 中島美和 小池正利 宮澤博子 飯塚亜子 椛井清美
	専 門 員	久保田満子	
	総 務 係 長	鈴木 正雄	
	図書管理係長	勝俣 好次	
情 報 サ ー ビ ス 課	課 長	由良 信道	兵永麗子 岡部美紀 吉田幸苗 吉野道世 田中啓司 平松誠史 佐古史郎 武藤民子 松下敬子 池上るみ子
	資料サービス係長	大金 聡男	
	参考調査係長	大石 博昭	
	相互協力係長	藤原令鶴子	
総 数		35名	(常勤 21名 非常勤 14名)

5. 職員異動状況一覧表（昭和25年度～平成8年度）

		氏 名
昭和25年度	(転出)	阿部 春
	(辞職)	武田信弘 矢野龍一
昭和26年度	(転入・採用)	司 書 係：菅井正三 井上哲也 学芸図書係：新聞美智子 分校図書係：池尻洋子 経済図書係：佐藤雪子 工学図書係：鈴木 満 成田鉄也
	(転出・辞職)	桑原 久夫 永倉正子 荒井繁一 新聞美智子 井上哲也 桑満 里子 佐々木芳江 成田芳江 鈴木 満 成田鉄也 秦野カナエ 小笠原豊
昭和27年度	(転入・採用)	庶 務 係：藤間ツル子 司 書 係：檜垣正也 色川次子 矢野光雄 学芸図書係：山下広子 分校図書係：津渡達郎 竹内松雄 経済図書係：北見正五郎 小林福三郎 工学図書係：伏島近幸 岩沢よし子 小幡佳子 石川笑子
	(転出・辞職)	菅井正三 津渡達郎 竹内松雄 小幡佳子 佐藤雪子 山下広子
昭和28年度	(転入・採用)	司 書 係：山崎幸敏 石川美恵子 学芸図書係：山田フミ子 分校図書係：吉岡磐彦 経済図書係：福島幸子 工学図書係：菅野修三 飯塚佛太郎 関 和子
	(転出・辞職)	藤間ツル子 池尻洋子 石川美恵子 境多喜子 関 和子
昭和29年度	(転入・採用)	庶 務 係：古屋治信 司 書 係：飯塚 實 齊藤秀一 学芸図書係：大野台子 新聞美智子 工学図書係：磯部せい子
	(転出・辞職)	菅野修三 田沢みち子 (旧山田) 伏島近幸 岩沢よし子
昭和30年度	(転入・採用)	庶 務 係：樋口泰一郎 司 書 係：渡部 武 節田益康
	(転出・辞職)	猪瀬 博愛 磯部せい子
昭和31年度	(転出・辞職)	樋口泰一郎 北見正五郎 門間昭子 石川笑子

		氏 名
昭和32年度	(転入・採用)	学芸図書係：三木玲子 分校図書係：豊田勝蔵 経済図書係：長南愛子 緒形史子 工学図書係：土肥玲子 田島 巴 寺岡綾子
	(転出・辞職)	今村健本 渡部 武 小林福三郎 豊田勝蔵 笠井フミ子 (旧山田)
昭和33年度	(転入・採用)	司 書 係：喜 春子 中島 朗 学芸図書係：田上知子 経済図書係：渡辺洋男
	(転出・辞職)	上原文芳 緒形史子 田上知子
昭和34年度	(転入・採用)	庶 務 係：上田禎章 司 書 係：兵永麗子 経済図書係：伊丹幸子 学芸学部分館：金子房子
	(転出・辞職)	小笠原豊 斉藤秀一 三木玲子 伊丹幸子
昭和35年度	(転入・採用)	庶 務 係：増濑浩正 工学部分館：日高 昇
	(転出) (辞職)	上田禎章 古屋治信 中島 朗 滝山田美智子 (旧新聞) 井村蝶子 (旧海老原) 飯塚佛太郎 寺岡綾子 日高 昇 増濑浩正 渡辺洋男 金子房子
昭和36年度	職 員 録 不 詳	
昭和37年度	(転入・採用)	庶 務 係：池田貞三 辻村孝一 司 書 係：高木邦久 熊沢京一 鳥屋部順 山崎正男 村田静夫 経済図書係：谷向 宏 学芸学部分館：守屋キミ子 分校分館：渋沢昌子 工学部分館：檜垣良一 松村満子 渡辺晃子
	(転出) (辞職)	熊沢京一 松本房子 (旧本橋)
昭和38年度	(転入・採用)  (辞職)	庶 務 係：原 敏行 経済図書係：水谷 豊 工学部分館：藍原一三 池田貞三 山崎正男

	氏 名
昭和39年度 (転入・採用) (転出) (辞職)	庶務係：大久哲甫 司書係：杵淵孝司 経済図書係：天野令鶴子 松下敬子 河合総子 工学部分館：萩原諄夫 辻村孝一 谷向 宏 高木邦久 守屋キミ子 渋沢昌子
昭和40年度 (転入・採用) (転出) (辞職)	司書係：林 哲也 工学部分館：中村 滋 原 敏行 藍原一三 杵淵孝司 河合総子 林 哲也
昭和41年度 (転入・採用) (辞職)	庶務係：金子武男 司書係：林 隆夫 経済図書係：望月邦彦 工学部分館：渡辺幸和 林 隆夫
昭和42年度 (転入・採用) (転出) (退職) (辞職)	経済図書係：松田収三 大金聡男 教育学部分館：池田和夫 分校分館：中野菊夫 工学部分館：渡辺辰夫 大久哲甫 山崎幸敏 檜垣良一 池田和夫 中村 滋
昭和43年度 (転入・採用) (辞職)	管理係：下川 明 牧野義郎 参考係：渋谷嘉彦 経済図書係：森松道代 高橋由子 和地瑞枝 武沢朝子 教育学部分館：谷向 宏 布施和彦 分校分館：鈴木郁子 工学部分館：坂上光明 原 真一 菊地喜一 津田善二郎 大野台子 高橋由子 和地瑞枝 武沢朝子 布施和彦
昭和44年度 (採用) (転出) (辞職)	司書係：田口祥子 丸美智子 教育学部分館：田代路子 工学部分館：杉山広子 坂上光明 森松道代 丸美智子
昭和45年度 (採用) (転出) (辞職)	司書係：窪田美紀 正木佐代子 経済図書係：山田由美子 金子 武男 中野菊夫 原 真一 正木佐代子 山田由美子 牧野義郎 杉山広子

	氏 名
昭和46年度 (採用)	管 理 係：笠原 昭 整 理 係：尾崎香魚子 山本美知子 榎本早草 仁科葉子 運 用 係：窪田美紀 (本採用) 参 考 係：萩生田泰徳 教育学部分館：遠藤恵美子 工学部分館：今井 純 佐藤良子
(転出) (辞職)	節田益康 黒瀬満子 渡辺辰夫 望月邦彦 遠藤恵美子 佐藤良子
昭和47年度 (採用)	整 理 係：山本美知子 松田千恵子 内海真理子 教育学部分館：片山叔子 工学部分館：戸田正子
(辞職)	渋谷嘉彦 萩生田泰徳 榎本早草 仁科葉子 阿部祥子 (旧田口) 津田善二郎
昭和48年度 (転入・採用)	整 理 係：端山恵美子 参 考 係：工藤定次 経済図書係：武田典子 工学部分館：中山田直美 教育学部分館：庵谷郁子 片山叔子 (本採用) 中川美和子
(転出)	谷向 宏 菊地喜一 中山田直美
昭和49年度 (採用)	整 理 係：夏川君江 参 考 係：宮崎智子 工学部分館：三隅恵司 渋谷重雄 中川美恵子 大沼由美子
(転出) (辞職)	松田千恵子 端山恵美子 工藤定次 大沼由美子
昭和50年度 (採用) (配置換)	整 理 係：渡辺啓子 戸田正子 渡辺晃子 高木次子 (旧色川) 山田 巴 (旧田島)
(辞職)	村田静夫 内海真理子 夏川君江
昭和51年度 (転入・採用)	総 務 係：猪川圭子 山口マサ江 川村 弘
(転出)	受 入 係：逸見正行 逸見正行
昭和52年度 (転入・採用)	総 務 係：金子増秋 坂田和夫
(辞職)	整 理 係：渡辺啓子 運 用 係：伊藤 洋 津村良子 猪川圭子

		氏 名	
昭和53年度	(転入・採用)	総務係：金子彩子 整理係：古谷時夫 運用係：岡田叡二	佐藤美也 内藤幸子
	(転出) (辞職)	金子増秋 渋谷重雄 川村 弘 津村良子	
昭和54年度	(転入・採用)	総務係：小幡智治 整理係：関 淳子 鈴木和子	片山正二 鴨下美恵 加藤洋子 増田 悟
	(転出) (辞職)	渡辺幸和 中川美恵子 吉岡馨彦 中川美和子	関 淳子 鴨下美恵 加藤洋子
昭和55年度	(転入・採用)	総務係：石川文夫 受入係：川久保直子 整理係：酒井清彦 大塚久子 雑誌係：末木慎一 参考係：三輪かおり	乙川篤子 古川まり子
	(転出) (辞職)	小幡智治 石川文夫 古谷時夫 内藤幸子 増田 悟 川久保直子	三隅恵司
昭和56年度	(転入・採用)	総務係：飯田政司 収書係：倉賀野哲宏 受入係：高萩文江 目録係：荒木美智子 運用係：新井美智子 学術情報係：佐藤多賀子	清水博史 荒井京子 安藤結花 大川晶子
	(転出) (辞職)	萩原諄夫 伊藤 洋 金子彩子 荒井京子 佐藤美也 安藤結花 大川晶子 松田収三	高萩文江 荒木美智子 片山正二
昭和57年度	(転入・採用)	総務係：小島是一 収書係：林由美子 受入係：河瀬千代子 目録係：遠藤 肇 運用係：福井伸江 学術情報係：久保田怜子	渡邊静子 平野式子
	(転出) (辞職)	矢野光雄 末木慎一 庵谷郁子 河瀬千代子	福井伸江 三輪かおり
昭和58年度	(転入・採用)	受入係：鳴島雅幸 目録係：高萩文江 運用係：前田裕子 参考係：池上彰一 学術情報係：渡辺滋子	大土幹子 大場恵美子
	(転出) (辞職)	清水博史 倉賀野哲宏	乙川篤子 平野式子

		氏 名
昭和59年度	(転入・採用)	総務係：山崎 裕 中島美枝子 受入係：桜井延武 竹田美貴 目録係：豊島よし子
	(転出) (辞職)	飯田政司 高萩文江 渡辺滋子
昭和60年度	(転入)	吉田東男
	(転出) (辞職)	池上彰一 鳴島雅幸 橋本由美子(旧林) 新井美智子 久保田怜子 前田裕子 中島美枝子
昭和61年度	(転入・採用)	総務係：吉岡正行 中野節子 横山秀男 受入係：江波戸登弥子 小池正利 羽金修子 目録係：笹川郁夫 長谷山彩子 足立恵美 運用係：和田洋一 半澤 円 栗林久美子 山本牧子 宮澤陽子 村中幸枝
	(辞職)	吉岡正彦 羽金修子 渡邊静子 足立恵美 栗林久美子 山本牧子 宮澤陽子 村中幸枝
昭和62年度	(転入・採用)	総務係：小川保善 受入係：片野弘子 運用係：中村晴美 柳 濟成 渡辺 朗
	(転出) (辞職)	吉田東男 坂田和夫 酒井清彦 山口マサ枝 横山秀男 半澤 円 柳 濟成 豊島よし子 佐藤多賀子
昭和63年度	(転入・採用)	総務係：家永良宏 新井富美子 雑誌受入係：柿崎安子 運用係：脇田清司 成瀬祐子 学術情報係：大石博昭
	(退職) (辞職)	武田愛子 新井富美子 長谷山彩子 竹川貴志
平成元年度	(採用)	総務係：清水道子 中山節子 目録係：今井雅子 運用係：村井日出美 増田穂積 宇佐幸春
	(辞職) (死亡)	中野節子 中山節子 柿崎安子 大塚久代 渡辺 朗 脇田清司 村井日出美 桜井延武
平成2年度	(採用)	総務係：斎藤千晶 図書受入係：遠藤公子 目録係：上川高志 運用係：五神克成 渡邊康弘
	(転出) (辞職)	小川保善 江波戸登弥子 斎藤千晶 遠藤公子 上川高志

		氏 名	
平成3年度	(転入・採用) (転出) (退職) (辞職)	総務係：増田和彦 鶴田寿子 図書受入係：在間啓子 中島三和 家永良宏 笹川郁夫 片野弘子 飯塚 實 永吉春子 水谷 豊 岡田勲二 清水道子 在間啓子 今井雅子 成瀬祐子 増田穂積	
平成4年度	(転入・採用) (辞職)	総務係：小泉廣治 北島由美子 野村寿子 図書受入係：遠山由紀 岡野直美 目録係：平田義郎 前田かおり 雑誌受入係：吉野道世 運用係：黒川俊治 小野要子 学術情報係：渡邊章夫 甲谷浩世 鶴田寿子 北島由美子 岡野直美 五神克成 渡邊康弘 宇佐幸春 甲谷浩世	
平成5年度	(転入・採用) (転出) (辞職)	総務係：中山多香子 金子美根子 図書受入係：杉田尚美 雑誌受入係：浮田菊子 運用係：並木忠親 平松誠史 佐古史郎 学術情報係：池上るみ子 増田和彦 遠山由紀 野村寿子 並木忠親 小野要子	
平成6年度	(転入・採用) (転出) (辞職)	総務係：小田貴史 竹花千秋 運用係：吉田幸苗 田中啓司 武藤民子 小泉廣治 平田義郎 前田かおり 浮田菊子 石見晴美(旧中村)	
平成7年度	(転入) (採用) (辞職)	総務係：鈴木正雄 図書管理係：村田 輝 雑誌管理係：宮澤博子 飯塚亜子 システム管理係：桜井清美 加藤尚美(旧杉田) 田中啓司 佐古史郎	
平成8年度	(採用) (転出) (退職) (辞職) (死亡)	総務係：小佐古雅美 図書管理係：平山和歌子 雑誌管理係：池田美知子 運用係：加瀬由加 今野順子 小田貴史 小佐古雅美 久保田満子 中山多香子 中島美和 平山和歌子 渡邊章夫	

## 第6類 附属図書館主要規程

中 根 宏 紀

ここに、横浜国立大学附属図書館にかかわる主要な現行7規程等を転記（横浜国立大学規則集より抜粋）した。

### ○横浜国立大学附属図書館長選考規程

（昭和50年11月27日制定）

（趣旨）

第1条 この規程は、横浜国立大学附属図書館規程第4条第3項の規定に基づき、横浜国立大学附属図書館長（以下「館長」という。）の選考に関し必要な事項を定めるものとする。

（選考の時期）

第2条 館長の選考は、次の各号の1に該当する場合に行う。

- (1) 館長の任期が満了するとき。
- (2) 館長が辞任を申出たとき。
- (3) 館長が欠員となったとき。

2 館長の選考は、前項第1号に該当する場合においては任期満了の1月以前に、同項第2号又は第3号に該当する場合においては速やかに、行うものとする。

（候補者の推薦）

第3条 学部長は、学部教授会において本学の教授のうちから館長候補者1人を選出し、学長に推薦する。

（館長の選考）

第4条 学長は、前条の規定により推薦された館長候補者について、評議会の議を経て、館長を選考する。

（任期）

第5条 館長の任期は、3年とする。

2 前項の規定にかかわらず、館長が辞任又はその他の理由によって欠けた場合における後任者の任期については、その任命の日から起算して2年を経過した日の翌日の属する年度の末日をもって満了するものとする。

## ○横浜国立大学附属図書館規程

(昭和50年11月27日制定)

横浜国立大学附属図書館規則(昭和25年3月22日制定)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規程は、横浜国立大学学則第17条の規定に基づき、横浜国立大学附属図書館(以下「図書館」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 図書館は、本学における学術情報利用の中心的機関として、図書館資料を収集、整理及び蓄積し、これを職員及び学生等の利用に供するとともに、その学術情報利用の円滑化に必要な活動を行うことによって、研究・教育に貢献することを目的とする。

(構成)

第3条 図書館は、中央図書館(教育科学・人文科学系研究フロアーを含む。)、社会科学系研究図書館及び理工学系研究図書館からなる。

(館長)

第4条 図書館に館長を置く。

2 館長は、図書館に関する事務を掌理する。

3 館長の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(運営委員会)

第5条 図書館に図書館の運営に関する重要な事項を審議するため、横浜国立大学附属図書館運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(図書館資料)

第6条 図書館資料は、次の各号に掲げる区分により、取扱うものとする。

(1) 図書

ア 一般図書

イ 指定図書

ウ 参考図書

エ 特殊図書

オ 貴重図書

(2) 新聞、雑誌その他逐次刊行物

(3) 視聴覚資料

(4) その他の資料

(寄贈図書)

第7条 図書館は、図書の寄贈を受けることができる。この場合、図書を寄贈する者が特に希望するときは、特定の「文庫」として取扱うことができる。

(寄託図書)

第8条 図書館は、図書の寄託を受けることができる。

2 前項の規定により受け入れた寄託図書は、第6条に規定する図書館資料の区分により取扱うものとする。

(図書館の利用)

第9条 図書館の利用に関し必要な事項は、別に定める。

(文献の複写)

第10条 図書館が受託する文献複写に関し必要な事項は、別に定める。

(委任規定)

第11条 この規程に定めるもののほか、図書館の管理運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て、別に定める。

## ○横浜国立大学附属図書館運営委員会規程

(昭和50年11月27日制定)

(趣旨)

**第1条** この規程は、横浜国立大学附属図書館規程第5条第2項の規定に基づき、横浜国立大学附属図書館運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

**第2条** 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 附属図書館長
- (2) 各学部から選出された教授、助教授又は講師 各3人
- (3) 国際経済法研究科及び国際開発研究科から選出された教授、助教授又は講師 各1人
- (4) 環境科学研究センターから選出された教授、助教授又は講師 1人

2 専門の事項を調査審議するため必要があるときは、委員会に小委員会を置くことができる。

(任期)

**第3条** 前条第1項第2号、第3号及び第4号に規定する委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(招集及び議長)

**第4条** 附属図書館長は、委員会を招集し、その議長となる。

2 附属図書館長に事故あるときは、あらかじめ附属図書館長が指名した委員がその職務を代行する。

(審議事項)

**第5条** 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 附属図書館に関する規程の制定・改廃に関する事項
- (2) 附属図書館の予算に関する事項
- (3) その他附属図書館の運営に関する重要な事項

(議事)

**第6条** 委員会は、委員の過半数の出席により議事を開く。ただし、委員の過半数が出席しても各学部の委員1人以上の出席がない場合は、議事を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 議長が必要と認める場合は、委員以外の職員を委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、情報管理課において処理する。

(委任規定)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て、附属図書館長が別に定める。

○横浜国立大学附属図書館図書館資料  
選定小委員会細則

(昭和52年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この細則は、横浜国立大学附属図書館運営委員会規程第2条第3項の規定に基づき、横浜国立大学附属図書館図書館資料選定小委員会（以下「小委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 小委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 附属図書館長
- (2) 各学部の教授、助教授又は講師 各1人
- (3) 国際経済法研究科の教授、助教授又は講師 1人
- (4) 国際開発研究科から選出された教授、助教授又は講師 1人
- (5) 環境科学研究センターの教授、助教授又は講師 1人
- (6) 附属図書館事務部長
- (7) 小委員会が必要と認めた者 若干人

2 前項第2号、第3号、第4号及び第5号に規定する委員の任期は1年とする。

(委員長)

第3条 小委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、小委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(審議事項)

第4条 小委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 図書館資料の収集方針に関すること。
- (2) 図書館資料収集の具体的方策に関すること。
- (3) 図書館資料の選定目録の作成に関すること。
- (4) その他図書館資料の選定に関すること。

(庶務)

第5条 小委員会に関する庶務は、情報管理課において処理する。

## ○横浜国立大学附属図書館利用規程

(昭和51年2月18日制定)

(趣旨)

**第1条** この規程は、横浜国立大学附属図書館規程第9条の規定に基づき、横浜国立大学附属図書館（以下「図書館」という。）及び図書館資料（以下「図書」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

(利用者の範囲)

**第2条** 図書館を利用することができる者は、次のとおりとする。

- (1) 横浜国立大学（以下「本学」という。）の職員
- (2) 本学の学生及びこれに準ずる者
- (3) 本学の名誉教授
- (4) 本学以外の大学又は学術研究の機関に所属する職員、大学院学生及びこれに準ずる者で、図書館の長（以下「館長」という。）が指定した者
- (5) その他館長が許可した者

(休館日及び開館時間)

**第3条** 図書館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
  - (2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
  - (3) 本学の開学記念日
  - (4) 12月27日から翌年1月4日（第1号及び第2号に掲げる日を除く。）までの期間
- 2 図書館の開館時間は、9時から17時までとする。ただし、土曜日及び時間外開館については、別に定める。
- 3 館長は、必要により前2項に規定する休館日又は開館時間を、変更することができる。

(特別閲覧証)

**第4条** 本学の名誉教授には、特別閲覧証を交付する。

(入館手続)

**第5条** 図書館を利用しようとする者は、入館するとき学生証、身分証明書、特別閲覧証等を係員に提示しなければならない。ただし、自由閲覧室については、この限りでない。

(閲覧)

第6条 図書（書庫の図書を除く。）は、自由に閲覧することができる。

- 2 書庫の図書を閲覧しようとする者は、図書閲覧票に必要な事項を記入し、これを係員に提出しなければならない。
- 3 前項の規定により閲覧することができる図書の冊数は、10冊以内とする。
- 4 図書の閲覧は、所定の場所で行わなければならない。
- 5 閲覧が終った図書は、直ちに所定の場所へ返却しなければならない。

（入庫検索）

第7条 本学の職員、大学院学生、名誉教授及び第2条第4号に掲げる者は、所定の手続を経て、入庫し、図書を検索することができる。

（帯出）

第8条 図書の帯出は、一般帯出及び公用帯出とする。

- 2 図書を帯出しようとする者は、所定の手続を経て図書利用カードの交付を受けなければならない。
- 3 図書を帯出した者は、他人に転貸してはならない。
- 4 図書を帯出した者が、第2条に規定する資格を失ったときは、図書利用カード及び帯出した図書を直ちに図書館へ返却しなければならない。
- 5 貴重図書、参考図書、雑誌及び館長が指定した図書は、一般帯出することができない。ただし、館長が特に許可したものについては、この限りではない。

（一般帯出）

第9条 一般帯出ができる者及びその者が帯出できる冊数並びに期間は、次のとおりとする。

区 分	冊 数	期 間
職員、大学院学生及び外国人客員研究員	15 冊 以 内	2 月 以 内
卒業論文作成のため指導教官が必要と認めた学部学生、研究生及び専攻科学生	10 冊 以 内	1 月 以 内
学 部 学 生	5 冊 以 内	2 週 以 内

- 2 前項の規定に掲げた区分以外の者の帯出できる冊数及び期間は、館長が別に定める。
- 3 一般帯出をした者が、第1項に規定する返却期限（ただし、返却期限が休館日の場合はその翌日とする。）までに返却しない場合は、遅延日数相当期間、帯出を停止する。

（図書の予約又は更新）

第10条 他の者がすでに帯出中である図書の閲覧又は帯出を希望する者は、所定の手続により、当該図書の閲覧又は帯出を予約することができる。

2 図書を帯出中の者は、前項に規定する閲覧又は帯出の予約がない場合には、その帯出を1回に限り更新することができる。

(公用帯出)

第11条 学術研究用又は事務用のため購入した図書は、公用帯出の図書として、部局又は研究室等に備付けることができる。

2 公用帯出の図書を備付ける部局及び研究室等は、その図書を管理する責任者を定めなければならない。

3 公用帯出中の図書は、図書館が必要とする場合には、点検を受け、又は返納しなければならない。

4 公用帯出中の図書を管理している責任者は、その図書の閲覧希望者に対し、学術研究又は事務に支障のない限り、その閲覧の便宜を図るものとする。

(参考調査)

第12条 図書又は図書に関連する事項の調査、質問等(以下「参考調査」という。)を希望する者は、所定の手続により、参考調査を依頼することができる。ただし、次の各号に掲げる事項については、この限りでない。

- (1) 古書、古文書、美術品等の鑑定及び市場価格の調査
- (2) 懸賞問題その他これに類する事項に関する調査
- (3) その他館長が不適当と認める事項の調査

(貴重図書の利用)

第13条 貴重図書を複写又は撮影しようとする者は、貴重図書利用許可願を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 前項の規定により、貴重図書の複写物又は撮影した写真を刊行物に掲載する場合には、その資料が図書館の所蔵に係るものであることを表示するとともに、当該刊行物一部を図書館に寄贈しなければならない。

(視聴覚資料の利用)

第14条 視聴覚資料の利用に関し必要な事項は、別に定める。

(特別室の利用)

第15条 図書館の特殊資料室、視聴覚室(AV室)、演習室等の利用に関し必要な事項は、別に定める。

(遵守事項)

第16条 図書館を利用する者は、係員の指示に従うとともに、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 静粛を保つこと。
- (2) 飲食しないこと。
- (3) 所定の場所以外で喫煙しないこと。
- (4) 不用な物品を持ち込まないこと。
- (5) 印刷物その他これに類するものを配布し、又は貼付しないこと。
- (6) 会合の場所に利用しないこと。
- (7) 図書、備品その他施設・設備を汚損しないこと。
- (8) その他利用者の妨害をしないこと。

(弁償責任)

**第17条** 図書を汚損又は亡失した者には、これを弁償させることができる。

(利用禁止)

**第18条** 館長は、この規程に違反した利用者に対し、図書館の利用を禁止することができる。

## ○横浜国立大学事務組織規則（抜粋）

（昭和42年10月2日制定）

（附属図書館事務部の課）

第12条の2 附属図書館の事務部に次の2課を置く。

情報管理課

情報サービス課

（情報管理課）

第12条の3 情報管理課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 附属図書館の事務に関し連絡調整すること。
- (2) 庶務及び会計事務に関すること。
- (3) 国有財産及び物品管理に関すること。
- (4) 会議に関すること。
- (5) 渉外事務（情報サービス課所管を除く。）に関すること。
- (6) 図書館資料の収集計画及び選択等に関すること。
- (7) 図書館資料の目録情報の形成に関すること。
- (8) 図書館資料の装備に関すること。
- (9) システム管理に関すること。
- (10) その他附属図書館の所掌事務で情報サービス課に属しない事務を処理すること。

（情報サービス課）

第12条の4 情報サービス課においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 図書館資料の運用に関すること。
- (2) 他の図書館との相互協力に関すること。
- (3) 文献の撮影及び複写に関すること。
- (4) 参考調査事務に関すること。
- (5) 広報及び利用案内に関すること。
- (6) 閲覧室及び書庫の運用に関すること。
- (7) 閲覧用目録カードに関すること。
- (8) その他附属図書館の利用に関すること。

## ○横浜国立大学附属図書館事務分掌細則

(昭和51年4月1日制定)

横浜国立大学附属図書館事務分掌規則(昭和46年4月20日制定)の全部を改正する。

(総則)

**第1条** 横浜国立大学事務組織規則第17条の規定に基づき、横浜国立大学附属図書館(以下「図書館」という。)の事務部の分掌事務に関しては、この細則の定めるところによる。

(情報管理課図書館専門員及び各係の事務分掌)

**第2条** 情報管理課に図書館専門員並びに総務係、図書管理係、雑誌管理係及びシステム管理係を置く。

2 図書館専門員は、次の事務をつかさどる。

- (1) 学術情報に関する企画、立案及び資料収集に関すること。
- (2) 図書館資料の収書、保存及び書誌目録の整備に関するもののうち、極めて高度の専門的知識を必要とするもの。

3 総務係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 図書館の事務の連絡調整に関すること。
- (2) 会議(他の係の所掌に属するものを除く。)及び行事に関すること。
- (3) 渉外事務に関すること。
- (4) 職員の出張に関すること。
- (5) 公印の管守に関すること。
- (6) 諸規則等の制定及び改廃に関すること。
- (7) 文書の授受及び発送に関すること。
- (8) 職員の任免、給与、分限、懲戒及び服務に関すること。
- (9) 職員の健康管理及び安全保持並びに災害補償に関すること。
- (10) 職員の研修、福祉及び職員団体に関すること。
- (11) 予算及び決算に関すること。
- (12) 支出負担行為(図書館資料を除く。)に関すること。
- (13) 債権の管理及び歳入金の徴収に関すること。
- (14) 俸給及び旅費等の支給に関すること。
- (15) 物品(図書館資料を除く。)の管理に関すること。
- (16) 国有財産の管理に関すること。

- (17) 警備取締りに関すること。
  - (18) 共済組合に関すること。
  - (19) 所掌事務の調査、統計及び報告に関すること。
  - (20) その他他の課及び他の係に属しない事務に関すること。
- 4 図書管理係は、次の事務をつかさどる。
- (1) 図書館資料（逐次刊行物を除く。以下この項において同じ。）の収集計画及び選択に関すること。
  - (2) 図書館資料選定小委員会に関すること。
  - (3) 図書館資料の発注、受入、登録及び除籍に関すること。
  - (4) 図書館資料の寄贈受入に関すること。
  - (5) 図書館資料の経理に関すること。
  - (6) 図書目録情報の形成に関すること。
  - (7) 図書館資料の装備に関すること。
  - (8) 所掌事務の調査、統計及び報告に関すること。
  - (9) その他図書館資料の管理事務に関すること。
- 5 雑誌管理係は、次の事務をつかさどる。
- (1) 逐次刊行物の収集計画及び選択に関すること。
  - (2) 逐次刊行物の発注及び受入に関すること。
  - (3) 逐次刊行物の寄贈受入に関すること。
  - (4) 逐次刊行物の経理に関すること。
  - (5) 製本の発注、受入、登録及び除籍に関すること。
  - (6) 製本の経理に関すること。
  - (7) 雑誌目録情報の形成に関すること。
  - (8) 所掌事務の調査、統計及び報告に関すること。
  - (9) その他逐次刊行物の管理事務に関すること。
- 6 システム管理係は、次の事務をつかさどる。
- (1) 図書館事務用電子計算機の利用、運用及びシステム開発に関すること。
  - (2) 外部システムとのネットワーク接続に関すること。
  - (3) 機械可読型目録の維持管理に関すること。
  - (4) 学術情報のシステム化に関すること。
  - (5) 学術情報のシステムに係る関係機関との連絡調整に関すること。
  - (6) 所掌事務の調査、統計及び報告に関すること。
  - (7) その他図書館事務に係るシステムに関すること。

(情報サービス課各係の事務分掌)

第3条 情報サービス課に資料サービス係、参考調査係及び相互協力係を置く。

2 資料サービス係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 図書館資料の閲覧、貸出及び運用に関すること。
- (2) 図書利用カード及び特別閲覧証等に関すること。
- (3) 図書館資料の配架及び保存に関すること。
- (4) 他の図書館等との利用に係る共通閲覧証等の交付に関すること。
- (5) 閲覧室及び書庫の運用に関すること。
- (6) 利用者の受付に関すること。
- (7) 研究図書館に係る情報サービスに関すること。
- (8) 所掌事務の調査、統計及び報告に関すること。
- (9) その他図書館資料サービスに関すること。

3 参考調査係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 参考調査用資料の収集、整備及び提供に関すること。
- (2) 参考調査に係る外部データベースの利用に関すること。
- (3) 図書館資料の目録の利用に関すること。
- (4) 閲覧用目録カードに関すること。
- (5) 図書館資料の撮影及び複写に関すること。
- (6) 図書館及び図書館資料の利用指導及び広報に関すること。
- (7) 所掌事務の調査、統計及び報告に関すること。
- (8) その他参考調査事務に関すること。

4 相互協力係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 他の図書館等との文献複写事務に関すること。
- (2) 他の図書館等との現物貸借に関すること。
- (3) 資料の利用に係る関係機関との連絡調整に関すること。
- (4) 所掌事務の調査、統計及び報告に関すること。
- (5) その他関係機関との相互協力事務に関すること。

## 第7類 全学図書協議会・附属図書館 運営委員会協議事項

久保田 満 子

全学図書協議会及び附属図書館運営委員会協議事項要約の

### 記 述 要 領

- 1 議事録を基に協議事項を記述し、行替えて協議事項の要約を記述した。議題が記録されていない場合は、要約のみ記述した。ただし、明らかに議題が想定できるものは[ ]で記入した。
  - 2 昭和29年度～41年度頃までは議事録が不完全なものが多く、協議事項のみの記述とせざるを得ない場合が多かった。
  - 3 年度の決算報告、予算案の審議等恒常的な議題で、異論なく了承されたものは省いた。この場合、協議事項が他にない場合は、事項のみ記述した。
- ※ 中央図書館を中央館と記述している個所が多いが、原文のままとした。
- ※ 分館名を略称（例 経済分館）で記述しているが、原文のままとした。

# 1. 横浜国立大学全学図書協議会協議事項要約

昭和29. 6. 10 (木)

- 1) 附属図書館規則の一部改正について
- 2) 29年度特別経費予算について
- 3) 評議会構成員に館長を加える提案について (6月17日の評議会で採択さる)

昭和29. 9. 17 (金)

- 1) 昭和29年度図書購入費570,000円の配分について
- 2) 文部省寄託の逐次刊行物の配分について

昭和30. 3. 3 (木)

- 1) [製本費、設備充実費について]
- 2) [図書館事務室設計の件]
- 3) [書庫設計について]
- 4) マイクロフィルム設備について

昭和31. 9. 11 (火)

- 1) 本会議への係長陪席が了承され、各係長が陪席した。
- 2) 附属図書館規則改正 (一部) について  
本協議会の構成員として、講師を加えることが了承され、図書館規則11条を改正することになった。
- 3) 新設図書館について
- 4) [図書購入費配分率 (専門書) について]  
29年度に定めた率をやめて、百分率で配分することになった。

昭和32. 4. 26 (金)

- 1) [図書費の配分について]  
文部省示達の図書費を前年度定めた配分率により配分することが了承された。

昭和33. 5. 16 (金)

- 1) 本年度図書費予算配分について  
本館総合計画完成まで従来どおりとすることになった。
- 2) マイクロフィルム撮影機の新設について  
新器具の詳細な調査を工学部が行い、その資料にもとづき本協議会で評決することになった。
- 3) 附属図書館統合整備について

昭和33. 9. 25 (木)

- 1) [整備統合について]  
清水ヶ丘に学芸学部横浜分校が移転した場合について、各学部の意向をまとめた上、更に検討することにした。

昭和34. 5. 21 (木)

- 1) 分館統合について
- 2) 教養図書費について

昭和34. 11. 26 (水)

- 1) 附属図書館建物新設促進の件  
要望書を作成し、学長に対し申入れを行うことになった。
- 2) 横浜分校移転に伴い、図書職員を吸収する件  
来年度4月1日より本館に吸収する方向で進めることになった。

- 3) 附属図書館に専任傭人を置くことについて  
とりあえず、経済及び分校事務長に再分担を考慮してもらおうよう申入れることを決議した。

昭和35. 2. 18 (木)

- 1) 図書館建物促進の件について  
学長への申入れ後の対策について協議した。
- 2) 分校分館の合併の問題について  
種々協議した。

昭和35. 5. 31 (火)

- 1) 専門図書費の配分について  
昨年と同様に配分することとなった。
- 2) 図書館建物促進の件  
経済分館は昨年4月中央図書館に合併したが、横浜分館の統合問題等について協議した。
- 3) 図書館の組織的融合を計るについて  
図書館の組織機関である本協議会を隔月に招集することとした。
- 4) 経済分館と本館との隘路となっている件について  
本館事務長と経済分館長及び経済図書委員等の間で話し合いの上、解決していくことが申し合わされた。

昭和35. 7. 5 (火)

- [1] 附属図書館建物建設について  
建設順位を優先的に考えてもらうための方策について協議し、建設促進委員会を作ることになった。

昭和35. 9. 9 (金)

- [1] 附属図書館建設促進について  
建物の中身等について協議した。

昭和35. 12. 14 (水)

- [1] 図書館建設促進について  
図面をもとに協議の後、1億の予算案を作成して、学長等の了解を求め、建物建設を促進するよう決議した。

昭和36. 2. 16 (木)

- 1) 附属図書館建設について  
設計図について説明があり、協議の結果、概算1億5千万円、延1,170坪の線で進めることが了承された。

昭和36. 5. 31 (水)

- 1) 専門図書、教養図書費の配分について  
配分率を学芸、工学、経済、分校各23%、本館8%とすることに決定した。
- 2) 図書館建築について  
ロックフェラー財団への寄付願いと別に、文部省に810坪の新営費を昭和38年度概算要求として要求することにした。
- 3) 附属図書館規則の改正について  
全国国立大学図書館長会議の決議事項(① 附属図書館長を大学評議会の一員とする ② 附属図書館長の任期を3年とする)を反映し、図書館規則の改正を諮ったが、各学部教授会の意見を参酌してから取り上げることになった。

昭和36. 7. 4 (火)

- 1) 第17回関東地区国立大学附属図書館協議会に、議題として「図書館維持費の増額について」を提出することを決定した。
- 昭和36. 9. 29 (金)  
図書館建設の概算要求が、文部省で削除された等の報告があった。
- 昭和36. 12. 7 (木)  
本会議にアメリカ文化センターのディマイヤー館長が臨席し、同文化センター図書の利用について、本学教官に特別の便宜を図るとの申出があった。
- 昭和37. 1. 24 (水)  
1) 図書館建築について  
前館長も交えて意見交換があり、中央図書館建設の早期実現について協議し、各協議員の協力が要請された。
- 昭和37. 6. 7 (木)  
1) 図書館建築について  
予算要求について承認された。  
2) 分校図書系の統合について  
館長と分館長とが個別に会談し、意見の調整を図ることに決定した。
- 昭和37. 9. 29 (土)  
1) 図書館建設について  
大学統合より先に図書館建設は出来ないとして、大蔵省には出されなかったが、要求は毎年提出することとした。
- 昭和37. 12. 18 (火)  
関東地区国立大学附属図書館協議会、全国国立大学図書館長会議の報告があった。
- 昭和38. 5. 16 (木)  
1) ブライアント（ハーバート大学図書館副館長）の来学について  
2) 専門、教養図書購入費の配分について
- 昭和39. 5. 8 (金)  
1) 横浜分校分館統合問題とその後報告  
2) 全国国立大学図書館長会議定例委員会の開催について
- 昭和39. 7. 7 (火)  
1) 昭和39年度専門図書購入費及び教養図書購入費配分について
- 昭和39. 12. 8 (火)  
横浜分館統合について、その後の経過報告があった。
- 昭和40. 1. 20 (水)  
1) 学芸学部火災に対しての附属図書館としての態度  
2) 大学図書館に対する最近の情勢報告
- 昭和40. 6. 11 (金)  
1) 指定図書購入費について
- 昭和40. 11. 26 (金)  
1) 本学図書館報刊行について
- 昭和41. 6. 7 (火)  
1) 第22回関東地区国立大学附属図書館協議会について
- 昭和41. 7. 5 (火)  
1) 統合による附属図書館施設について
- 昭和41. 9. 30 (金)  
1) 統合の諸問題について

昭和41年度

第1号 昭和41. 11. 15 (火)

- 1) 統合の諸問題について  
総合図書館を作る、部局図書室を置く、事務組織は一本化する等、意見交換が行われた。
- 2) 大学図書館視察委員、本学図書館の視察について  
視察に際しての提出資料及び当日の諸準備等について協議した。

第2号 昭和41. 12. 15 (木)

- 1) 統合問題  
本館は学習と総合図書館の機能、加えて保存図書館の機能を果たし、学部図書室は研究図書館の構想で考える等、意見交換が行われた。

第3号 昭和42. 2. 7 (火)

- 1) 統合企画委員会で附属図書館の構想取上げについて  
各学部の意見を早急にとりまとめ、次回協議議題にすることになった。

第4号 昭和42. 2. 24 (金)

- 1) 統合に対する意見  
各学部分館の統合に対する意見が確認された。即ち 中央図書館は、総合・学習・保存の機能。部局図書室は、強力な専門図書館としての機能。

昭和42年度

第5号 昭和42. 5. 9 (火)

- 1) 大学図書館の改善充実について  
文部省からの通知中1項、3項、9項、10項について討論した。

第6号 昭和42. 5. 31 (水)

- 1) 統合企画委員会の計画にある附属図書館の面積について (紹介)  
A案 12,780㎡ 5月9日配布の分 (理想案)  
B案 8,990㎡ 5月31日配布の分 (大学図書館施設研究会議答申案)  
C案 4,280㎡ 現状での計算分
- 2) 小統合  
小統合について討論した。
- 3) 館長の任期と選出方法について  
標記について、各学部の意見を徴した。

第7号 昭和42. 7. 4 (火)

- 1) 附属図書館の将来計画について  
標記について協議し、いくつかの図書館を見学することになった。
- 2) 昭和42年度専門及び教養図書購入費配分 (案) について  
教育学部、横浜分校、経済学部、工学部各23%、附属図書館8%の配分を決定した。
- 3) 経済学部分館運営費使用方法について  
経済学部が支出している分館運営費の使用法等について、附属図書館と経済図書委員とが話合うことになった。
- 4) 全学図書協議会報告 (第16号) について  
「報告」を「同要録」に改めることとした。

第8号 昭和42. 9. 13 (水)

- 1) 建設委員会委員の選出について

協議の結果、教育学部山崎分館長が選出された。

- 2) 本協議会に新しくアドバイザーを加える案について  
本協議会のアドバイザーとして、佐藤仁助教を招くことが了承された。
- 3) 館長私案による基本構想の質疑について  
標記について、意見交換が行われた。

第9号 昭和42. 9. 27 (水)

- 1) 統合の基本構想について  
標記について、他大学の現状を参考に討議が行われた。

第10号 昭和42. 10. 11 (水)

- 1) 建設委員会に関する報告  
標記報告の後、他大学視察のための費用を部局長会議にて請求することになった。
- 2) 「部局図書室の面積が附属図書館の基準面積として考えられるかどうか」についての回答  
図書館のあり方について、大学図書館施設研究会議答申案を念頭において協議が行われた。
- 3) 附属図書館の本館と各学部図書室(分館)の所要面積算出の検討について  
標記について討議が行われた。
- 4) 統合に伴う各部局の要求坪数について  
工学部分館長の要望により、標記について館長から報告があった。

第11号 昭和42. 10. 18 (水)

- 1) 程ヶ谷統合地における附属図書館のあり方について  
図書館建設計画に関する基本構想及び図書館の延面積について、各学部における審議の結果が報告された。

第12号 昭和42. 10. 25 (水)

- 1) 程ヶ谷地区統合地における附属図書館のあり方について  
標記について討議が行われた。
- 2) 教官用図書の出出より貸与に至るまでの日数調査について  
図書館事務改善に役立てるため、全学の図書の追跡調査を一定期間行うことになった。
- 3) 他大学図書館視察について  
視察員は3名にするという程度で保留となった。

第13号 昭和42. 11. 6 (月)

- 1) 程ヶ谷地区統合地における附属図書館のあり方について  
標記について継続審議が行われた。

第14号 昭和42. 11. 14 (火)

- 1) 程ヶ谷地区統合地における附属図書館のあり方について  
標記について継続審議が行われた。

第15号 昭和42. 11. 25 (土)

- 1) 学生との連絡の会準備委員会の選出について  
標記委員会に1名委員を出すことになっているが、第1回は館長が出席し、第2回以降はあらためて本協議会で選出することになった。
- 2) 杉本館長の上記準備委員会への出席について  
杉本館長に、アドバイザーとして出席願うこととなった。
- 3) 程ヶ谷地区統合地における附属図書館のあり方について

標記について継続審議が行われ、11月28日（火）分館長会議（含館長）を開き最終決定をすることになった。

第16号 昭和43. 2. 9（金）

【報告】

- 1) 図書館の建設順序について、部局長会議において学長提案があった。  
①教育学部を優先する。 ②図書館をできるだけ早く作る。
- 2) 本協議会が審議したB表提案を11月30日設計委員会に提出した。

昭和43年度

第17号 昭和43. 5. 2（木）

- 1) 経済学部および経営学部の本協議員について  
今年度から、経営学部より2名の協議員を出すことが認められた。
- 2) 建設委員の委員選出について  
館長の提案により、工、経済・経営の分館長が協議して、人選、順番を決めることになった。
- 3) 統合に関する問題（新基準による改定案作成）  
標記について協議が行われた。

第18号 昭和43. 5. 7（火）

- 1) 統合に関する問題（新基準による改定案作成）  
標記について協議が行われた。

第19号 昭和43. 6. 14（金）

- 1) A表B表の取扱について  
建設委員会に提出する「附属図書館建設計画」について協議するため、本委員会を隔週開催することが確認された。
- 2) 事務組織の検討

第20号 昭和43. 6. 26（水）

- 1) 統合時における図書館のプログラムについて  
標記について、各学部の意見が述べられた。

第21号 昭和43. 7. 12（金）

- 1) 各学部の図書室の在り方について  
標記について協議が行われた。
- 2) 分科会でのデータの取りまとめ期日  
図書館のプログラムについて、討議が行われた。
- 3) 図書館の視察  
神戸大学、名古屋大学、千葉大学、慶應義塾大学医学部及び国際基督教大学に出かけることとし、慶應では津田良成氏の話聞くこととなった。
- 4) [教養図書購入費配分案、図書購入費配分案について]  
経営学部にも配分することとし、各学部各18%、附属図書館10%となった。

第22号 昭和43. 7. 18（木）

- 1) 図書館の総合プログラムについて  
文部省及び施設部の見解を踏まえて、総合図書館館について討議した。

第23号 昭和43. 9. 10（火）

- 1) 図書館の総合プログラムについて  
標記について討議した。

第24号 昭和43. 9. 17（火）

- 1) 図書館の総合プログラムについて  
標記について、継続して討議した。
- 第25号 昭和43. 9. 20 (金)
- 1) [図書館の総合プログラムについて]  
館長から、前回までの経過について報告があり、その後、学習図書館と研究図書館との機能等について討議した。
- 第26号 昭和43. 9. 25 (水)
- 1) [図書館の総合プログラムについて]  
プログラム作成の時期については、なるべく早くまとめることになった。  
また、経済学部、経営学部の特殊事情を考えて、プログラムの第3次案を作ることになった。
- 第27号 昭和43. 10. 4 (金)
- 1) [図書館の総合プログラムについて]  
「メモ-第3次私案(館長)作成のための-」にもとづき、①図書館の集中管理について ②図書資料配置のスペースについて討議した。
- 第28号 昭和43. 10. 22 (火)
- 1) [図書館の総合プログラムについて]  
館長から、「附属図書館建設計画」第3次私案の説明があった後、各部署の意見が述べられた。
- 第29号 昭和43. 10. 30 (水)
- 1) [図書館の総合プログラムについて]  
設計委員会から提出される配置図との関係について協議した。
- 第30号 昭和43. 11. 13 (水)
- 1) [図書館の総合プログラムについて]  
佐藤設計委員より配置図の説明があった後、一館主義か分室を作るかをめぐって討議が行われた。
- 第31号 昭和43. 11. 19 (火)
- 1) [図書館の総合プログラムについて]  
①分室を置くことを条件として図書館の位置を考える。  
②基準面積外のスペースとしての分室の規模の原案を提出する。  
の2点にしぼって討議が行われた。
- 第32号 昭和43. 11. 26 (火)
- 1) [図書館の総合プログラムについて]  
討議の結果、  
①附属図書館の機能については、中央館を中心として考えることを原則とするが研究図書館としての機能を果たす分室のあり方については研究体制の実態に応じて今後検討する。  
②10月31日建設委員会で示された配置図における、中央館の位置については一応承認する。  
を建設委員会に提出することになった。
- 第33号 昭和43. 12. 13 (金)
- 1) [図書館の総合プログラムについて]  
中央館および分室のあり方について、約2カ月をかけ検討することとし、中央館については事務長を中心として、分室については分館長を中心として検討することになった。

## 昭和44年度

### 第1回(第34号)昭和44. 7. 12(土)

#### 1) [本年度全学図書協議会および図書館運営について]

- ①封鎖中の図書の保全について ②貸し出し中の図書について ③図書の購入上の問題について等について協議した。

### 第2回(第35号)昭和44. 9. 13(土)

#### 1) [予算審議と封鎖中における情報交換が行われた。]

### 第3回(第36号)昭和45. 1. 8(木)

#### 1) 予算配分について

図書購入費として参考図書費20万円を計上した。

#### 2) 今後の協議会の進め方について

昭和43、44年度討議したことの整理をして、次年度への申し送り事項を確認することになった。

### 第4回(第37号)昭和45. 2. 10(火)

#### 1) [昭和43年度、44年度全学図書協議会の議事総括(案)について]

語句を一部補足して承認された。

## 昭和45年度

### 第1回 昭和45. 4. 24(金)

#### 1) 全学図書協議会の今後の持ち方について

- ①毎月1回定例化すること ②図書館の建設問題に関し、早急に決定すること  
③本協議会にオブザーバーとして設計委員1名出席すること ④館報発行については、全学の広報の中に含めさせること

が了承された。

### 第2回 昭和45. 5. 19(火)

#### 1) 昭和44年度附属図書館予算収支決算報告について

標記について承認された。

### 第3回 昭和45. 6. 19(火)

#### 1) 図書館の将来計画について

研究図書館のあり方、分室と中央図書館とのあり方について、学部間で分担して検討することになった。

### 第4回 昭和45. 7. 21(火)

#### 1) 附属図書館の建設計画について

基本構想をまとめるため、分館長会議等を行って煮詰めることが了承された。

### 第5回 昭和45. 8. 24(月)

#### 1) 附属図書館の建設計画について

今後は、スペースの補正等及び中央館と分室との合体の可能性について検討することになった。

### 第6回 昭和45. 9. 22(火)

#### 1) [図書館建設に関する館長試案について]

各分館での協議結果が報告された。

### 第7回 昭和45. 10. 6(火)

#### 1) 附属図書館の建設計画について

協議の結果、次のように確認された。

- ①中央館と研究・情報図書館を作る。

- ②工学部と経済学部・経営学部に研究・情報図書館を設置する。
- ③教育学部の研究・情報図書館は中央館と合体する。
- ④中央館は教育学部に密着し、全学の学習にできるだけ便利な位置に置く。
- ⑤それぞれの規模については、それぞれの機能を検討したのち決定する。

第8回 昭和45. 10. 31 (土)

1) 附属図書館建設計画

今後の課題：工学部および経済・経営学部の研究・情報図書館の具体像をさらに検討すること。また、教育学部の研究・情報図書館は中央館に合体した場合の運営について検討すること。

第9回 昭和45. 11. 13 (金)

1) [研究・情報図書館の具体像について]

標記について討議が行われた。

第10回 昭和46. 2. 23 (火)

1) 一般教育(タテ割)改善に伴い、横浜分校が廃止されることに関連して

①附属図書館規則の一部を改正する規則(案)

②附属図書館運営委員会規則(案)

③一般教育図書係事務分掌(案)

が審議の結果承認された。

第11回 昭和46. 3. 12 (金)

1) [一般教育図書選定委員会規則(案)について]

審議の結果、規則は設けず、「本館運営委員会に関する申し合わせ」、「一般教育図書選定委員に関する申し合わせ」とすることとした。

2) 昭和45年度全学図書協議会の議事の取りまとめについて

①5項目が確認されたこと《第7回の項参照》

②「附属図書館規則の一部改正(分館廃止)」「本館運営委員会に関する申し合わせ」および「一般教育図書選定委員に関する申し合わせ」

を本年度の議事の取りまとめにすることになった。

昭和46年度

第1回 昭和46. 5. 7 (金)

1) [昭和45年度全学図書協議会の総括について]

協議の結果、「昭和45年度全学図書協議会の総括と現状」に改めることになった。

2) [横浜国立大学附属図書館事務分掌規則の制定について]

標記規則が確認された。

3) 一般教育図書購入費について

審議の結果、学生1人当たり2,500円の図書費を、事務局および一般教育運営委員会に要求することが確認された。

第2回 昭和46. 5. 28 (金)

1) 昭和46年度図書購入費の配分について

本年度配分比率を、本館運営委員会で検討して決めることが確認された。

2) 附属図書館一般教育関係(運用係)維持費について

館長、事務長の段階で要求額を決定し、事務局、一般教育運営委員会に提出することが確認された。

3) 昭和47年度概算要求について

①事務機構の整備として、人員増および事務長補佐の設置

②図書の充実として、参考図書費の増額等

を要求することが承認された。

第3回 昭和46. 6. 8 (火)

1) 図書館建設問題について

協議したが結論が出ず、やむをえず部局長会議に一任することになった。

第4回 昭和46. 7. 9 (金)

1) 附属図書館予算について

①昭和46年度予算の収入、支出について

②昭和46年度図書購入費および教養図書購入費の配分について

承認された。

第5回 昭和46. 9. 14 (火)

1) 図書館建設問題について

①具体案の取りまとめについて、各学部（工学部を除く）と本館の事務部の意見を本館運営委員会が取りまとめることになった。

②経済・経営学部大学院新設に伴う面積の増加分を、経済・経営学部の研究図書館に追加することになった。

2) 指定図書について

①指定図書の選定に関して、課目選定の細目については図書館（本館）に一任する。

②指定図書の配架は、Ⅱ部は工学部分館と経済分館、その他は中央館とする。ことが決まった。

3) 図書購入費について

今回配分の881,000円は本館参考図書の充実に当てることが承認された。

第6回 昭和46. 10. 15 (金)

1) 指定図書について

Ⅱ部指定図書費および附属図書館留保分を除いたものを、一般教育担当教官に担当配分し選書依頼することが決まった。

2) 図書館建設問題について

今後は、本館運営委員会、建設委員会、附属図書館事務部および教育学部の四者合同で協議することになった。

3) 一般教育関係経費について

標記経費のうち一般教養費等の一部を捻出して、賃金の支弁を行うことが了承された。

臨時 昭和46. 11. 22 (月)

1) [図書館建設問題について]

教育学部の要請により開催され、教育学部研究情報図書館について協議した。

第7回 昭和46. 11. 26 (金)

1) [図書館建設問題について]

図書館建設の原則として3項目が確認され、従来通り、3ブロック案を推進することになった。

第8回 昭和46. 12. 21 (火)

1) 図書館建設問題について

前回協議会の確認事項と事務部研究会の経過報告がなされた。

第9回 昭和47. 3. 3 (金)

- 1) 横浜国立大学文献複写規定の一部改正について  
改正要旨の説明があり、承認された。

#### 昭和47年度

##### 第1回 昭和47. 4. 25 (火)

- 1) 各種委員の選出について  
本館運営委員、一般教育図書選定委員、建設委員の選出について協議した。
- 2) 予算について  
昭和47年度附属図書館経費所要見込額について検討した。
- 3) 昭和47年度附属図書館運営方針について  
昭和45・46年度の総括を参考に協議した。
- 4) 統合問題について  
総括的な話し合いが行われた。

##### 第2回 昭和47. 5. 26 (金)

- 1) 中央図書館・教育学部分室の建設について  
両建物の「密着」の問題と、建設の時期について討議した。
- 2) 概算要求について  
原案のとおり承認された。

##### 第3回 昭和47. 6. 27 (火)

- 1) 教育学部図書分室密着の問題について  
論議の結果、統合企画委員会で收拾をはかることにした。

##### 第4回 昭和47. 10. 3 (火)

- 1) 図書館建設問題について  
統合後の管理・運営に関する問題を4学部各1名の委員により討議することが決まった。
- 2) 図書購入費の配分案について  
学生用図書購入費配分案について協議が行われ、教育図書費の配分案については原案のとおり承認された。

##### 第5回 昭和47. 11. 10 (金)

- 1) 図書館の建設およびそれに関連する問題について  
本館運営委員会とは別に、統合後の管理運営を検討する委員会を設けることになった。
- 2) 学生用図書購入費配分案について  
今後の「参考図書」充実計画について承認された。
- 3) [名誉教授への図書特別閲覧証の交付について]  
標記について承認され、図書館規則を改正することになった。

##### 第6回 昭和48. 2. 9 (金)

- 1) 委員会の名称変更について  
統合後の図書館の管理運営を検討する委員会を「図書館将来委員会」と称することが承認された。
- 2) 附属図書館規則の一部改正について  
名誉教授に終身閲覧証を贈呈することに伴う改正手続きをとることが承認された。

##### 第7回 昭和48. 3. 6 (火)

- 1) [中央図書館の設計について]

附属図書館と設計委員会の間に合意が成立した旨報告があり、設計図面の概略案が承認された。

第8回 昭和48. 3. 20 (火)

- 1) 昭和48年度予算案について  
次年度の適切な予算案を出すために、前年度中に予算方針を決定し、その承認は新年度の協議会で正式に決定することが承認された。
- 2) 電子計算機の建設場所について  
全学共用の電算機センター室設置場所について、図書館に対し要望が出された場合、全般的な条件を考慮して対応することにした。

昭和48年度

第1回 昭和48. 5. 8 (火)

- 1) 概算要求について  
①事務機構の整備 ②マイクロフィッシュ ③参考図書費 ④移転費 を要求することが決定した。

臨時 昭和48. 5. 28 (月)

- 1) 図書館建設について  
①人事・組織・管理運営の一本化 ②中央館をやせほそらせないこと の2点について協議した。

第2回 昭和48. 6. 15 (金)

- 1) 設計図の確認について  
教育学部研究情報図書室増築計画に関する要望書を、統合企画委員会議長に提出することになった。
- 2) 建物新宮に伴う設備費について  
新図書館の設備について、各協議員への協力方要望があった。
- 3) [図書整理の遅滞について]  
図書館将来委員会における検討と同時に、絶対的人員不足解消のための予算処置を、全学的にはたらきかけることになった。

第3回 昭和48. 9. 28 (金)

- 1) 図書整理費について  
未整理図書を整理するために、とめおき200万円の凍結解除を部局長会議等に要請することになった。
- 2) 建物新宮に伴う設備費関係について  
標記について協議した。
- 3) [広報 図書館特集号について]  
標記特集号に盛り込むべき点について協議した。

第4回 昭和48. 10. 30 (火)

- 1) 図書購入費について  
語学関係図書の充実について、5年計画が決まった。また、学生用図書購入費の使途について協議した。
- 2) 移転について  
総合的な移転計画のためのデータを準備することになった。
- 3) 建新について  
標記について協議した。

第5回 昭和48. 11. 30 (金)

- 1) 移転計画について  
移転計画が諒承された。
  - 2) 建新について  
建新要求品目について説明があった。
- 第6回 昭和48. 12. 18 (火)
- 1) 建物新営費について  
冷房装置の予算要求について協議した。
  - 2) 移転関係について  
協議の結果、図書の配置については、将来委員会で検討することになった。
- 第7回 昭和49. 1. 29 (火)
- 1) 建物新営費冷房装置予算の追加について  
標記予算の半額は、図書館が持つ方向で進むことになった。
  - 2) 昭和48年度一般教育等(一年次)図書館経費の追加分について  
追加分の配分について協議した。
- 第8回 昭和49. 3. 5 (火)
- 1) 昭和49年度予算について  
館長から、予算案作成にあたって、新たに考慮すべき点について説明があった。
- 第9回 昭和49. 3. 30 (土)
- 1) 昭和49年度予算項目について  
従来の項目のほか、図書館の新設、統合移転にともなう項目について承認された。
  - 2) 建新対策について  
要求額が大幅にけずられたため、その対策が審議され、不足額を補うため「建新援助費」を次回までに決定することになった。

#### 昭和49年度

- 第1回 昭和49. 5. 17 (金)
- 1) 昭和49年度予算について  
所意見込額について検討の結果、両分室の負担額について今後検討することになった。
  - 2) 昭和50年度概算要求について  
参考業務関係を重点的に要求することが了承された。
  - 3) 図書館の移転について  
7, 8月中旬に移転することが確認された。
  - 4) 建新について  
標準額に対する不足額について、全学的見地より考慮されるよう要望することになった。
- 第2回 昭和49. 6. 18 (火)
- 1) 予算の学内配分について  
図書館への援助を要望する適切な案について、各協議員に対し協力方依頼があった。
  - 2) 専任図書館長について  
輪番制、各大学における館長のあり方、専任館長育成の問題等を検討することになった。
  - 3) 整理業務の今後について

昭和49年度より件名目録を廃止したが、その後の課題について協議した。

第3回 昭和49. 7. 16 (火)

- 1) 附属図書館の予算の運用について  
将来の図書館予算のあり方を検討するために、本協議会に予算特別委員会を設けることになった。
- 2) 図書館の仕事について  
貸出および整備作業の簡略化、図書館資料の備品・消耗品への区分、図書館利用手引き、夜間開館等について協議した。
- 3) 図書分室の名称について  
館長に一任することになった。
- 4) 図書館諸規則  
現附属図書館規則を改正し、図書館運営委員会規則、貸出規則、館長選出規則などの諸規則を制定することとし、その原案は事務局で作成することになった。
- 5) 附属図書館業務量と組織のあり方  
これからの図書館のあり方をふまえ、職員の配置等について協議した。

第4回 昭和49. 9. 18 (水)

- 1) 学生用図書館案内について  
開館にあたり、案内パンフレットを配布することになった。
- 2) 夜間開館について  
費用、人員等の事情を勘案し、当面、中央館で夜間開館することとした。
- 3) 予算特別委員会について  
これからの図書館予算のあり方を検討する委員会を発足させることになった。

第5回 昭和49. 12. 10 (火)

- 1) 工学部分室の経過措置について  
常盤台で開館するまでの工学部分室の職員の給与の負担は、常勤職員は図書館、非常勤職員は工学部とする。
- 2) 予算特別委員会原案  
審議の範囲、会議の持ち方などについて話し合われた。
- 3) 図書館経費  
収入金額に比し、支出見込み額が約200万円多く、前後処置を検討することになった。

第6回 昭和50. 1. 24 (金)

- 1) 図書館の予算について  
余裕予算の配分順位が決められた。
- 2) 本学図書館の機械化について  
電算機設置準備調査班を設置することとし、5人の職員で構成することになった。

第7回 昭和50. 2. 28 (金)

- 1) 図書館予算について  
不足分の処理について協議した。
- 2) 夜間開館について  
次期館長への引継ぎとして、経済・経営協議員と協議してまとめ、これを各分館長に提示することになった。

昭和50年度

第1回 昭和50. 5. 23 (金)

- 1) 図書館の組織と管理運営について  
標記について、評議会に提出することになった。
- 2) 概算要求について  
事務部制設置を要求することが承認された。
- 3) 建設委員候補者の選出について  
館長選出学部以外の輪番制ということで、経営学部から選出された。

第2回 昭和50. 6. 27 (金)

- 1) 図書選定委員会について  
同委員会を発足させることになり、館長、各学部より各1名(協議員または図書委員)および図書館事務部より1名の委員で構成することになった。

第3回 昭和50. 9. 23 (火)

- 1) 昭和50年度校費配分額および同予算(案)について  
原案のとおり承認された。
- 2) 図書館に関する規則の改正について  
標記について審議した。

第4回 昭和50. 10. 17 (金)

- 1) 中央図書館工学部分室の面積について  
工学部分室の面積は、1,930㎡をもとに設計することが承認された。
- 2) 横浜国立大学附属図書館利用規則(案)について  
10条までの審議をした。
- 3) 図書館利用規則(案)の第3条の分室の件について  
庶務課に事情を聞いた上で、必要あれば分館長会議に任せることになった。

第5回 昭和50. 11. 14 (金)

- 1) 横浜国立大学附属図書館利用規則(案)について  
審議の結果何点かの修正がなされた。

第6回 昭和50. 12. 9 (金)

- 1) 横浜国立大学附属図書館利用規則(案)について  
前回に引き続き審議した。

第7回 昭和51. 1. 30 (金)

- 1) 横浜国立大学附属図書館利用規則(案)について  
前回に引き続き審議した。
- 2) 厚生補導経費について  
標記経費の事項について説明の後、審議の結果、選書委員で選書し中央図書館で購入することになった。

第8回 昭和51. 3. 12 (金)

- 1) 昭和51年度附属図書館予算事項(案)について  
事項についての説明があった。
- 2) 館報の発行について  
発行について検討することになった。

## 2. 横浜国立大学附属図書館運営委員会協議事項要約

昭和51年度

第1回 昭和51. 5. 18 (火)

1) 昭和51年度特別設備費について

音声・映像再生システム(中央館)除湿器、マイクロフィルムキャビネット(いずれも経済・経営分室)を計上した。

2) 昭和52年度概算要求

①事務機構の整備(夜間開館要員2名純増、中央、工学) ②リーダー・プリンター ③学生用参考図書費 ④テキストブックバッテリー ⑤都市・環境科学研究情報コーナー整備 の5件を計上した。

3) 文献複写規程の一部改正について

文部省事務次官通知に基づき改正した。

4) 選書委員会について

新運営委員会の下部組織に改組するため、5月18日付で内規を改正することになった。

第2回 昭和51. 6. 25 (金)

1) 図書館報の発行について

創刊号を、8頁、1,000部、費用10万位で、秋までに発行することになった。

2) 工学分室の設計計画について

1930㎡、2階建を昭和52年度概算要求として提出することになった。

3) 寄贈受入れした故小栗敬三教授の蔵書500冊を、「小栗文庫」とした。

第3回 昭和51. 7. 20 (火)

1) 昭和51年度附属図書館予算について

図書資料費以外の予算は了承された。(37,698,000円)

第4回 昭和51. 9. 14 (火)

1) 附属図書館予算(図書資料費 19,451,600円)が了承された。

第5回 昭和51. 10. 22 (金)

1) 図書館資料区分による図書用語の定義について

「図書館資料取扱区分」と「横浜国立大学附属図書館貴重図書選定基準」が了承された。

第6回 昭和51. 12. 7 (火)

1) 「貴重図書・特殊図書の規定・保管及び利用に関する内規について」

細部を除き了承された。

2) 学生用図書購入費の追加配分約400万円を参考図書購入にあてることになった。

第7回 昭和52. 1. 28 (金)

1) 2部学生自治会から館外貸出冊数をふやすよう要求があったが、「特別帯出」を弾力的に運用することになった。

2) カード目録の経済・経営分室への備え付け費用について、継続して検討することになった。

3) 工学分室の光熱水費の立替額70万円を、予算振替えることになった。

第8回 昭和52. 2. 22 (火)

1) 図書館運営委員会規則の改正及び図書館資料選定小委員会規則の制定について標記について、審議の結果了承された。

- 2) 利用規則の改正案及び資料取扱区分の基準案について  
標記について、審議の結果了承された。  
[図書館運営費については、5回以降毎回協議したが結論は出なかった。]

#### 昭和52年度

##### 第1回 昭和52. 5. 20 (金)

- 1) 昭和52年度特別設備費について  
①音声・映像再生システム装置 ②自動入館者計測装置を要求することになった。  
2) 昭和53年概算要求について  
①事務機構の整備(夜間開館要員の増) ②図書館近代化設備費(電子計算機による図書館業務の近代化) ③参考図書購入費 を要求することになった。

##### 第2回 昭和52. 6. 21 (火)

- 1) 昭和52年度附属図書館予算について  
標記について協議した。  
2) 図書館資料選定方針の確認について  
具体的問題については「選定小委」で協議することが確認された。

##### 第3回 昭和52. 7. 20 (水)

- 1) 昭和52年度附属図書館予算について

##### 第4回 昭和52. 9. 16 (金)

- 1) A V資料室の暫定的運用方針について  
標記について協議した。  
2) 自然系外国雑誌の配分案について  
購入雑誌の配置は中央館とし、当該雑誌の選定は図書館資料選定委員会が行うこととした。  
3) 昭和52年度備品購入計画について  
4,800千円が学内配分されたが、その用途について次回再検討することになった。  
4) 本学所蔵図書目録作成計画について  
標記について協議した。

##### 第5回 昭和52. 12. 6 (火)

- 1) 備品費について(資料16参照)  
原案の一部を修正し、了承した。  
2) 製本済の雑誌の貸出について  
委員から要求があり、検討することになった。

##### 第6回 昭和53. 2. 7 (火)

- 1) 学生用図書購入費について  
用途について協議した。  
2) 製本済の雑誌の貸出について  
利用規則の改正は行わず、利用規則8条4項を弾力的に運用し、教官に限り条件付きで貸出すことになった。

#### 昭和53年度

##### 第1回 昭和53. 5. 16 (火)

- 1) 昭和53年度特別設備費について  
スタックランナー(可変積層書架)、館内放送及び時報設備を要求することに

なった。

2) 昭和54年概算要求について

- ①事務機構の整備(夜間開館要員の増) ②参考図書購入費(5,050千円)
- ③外国雑誌購入費(6,000千円) を要求することになった。

3) 経済・経営分室の保有面積の変更について

貿易文献資料センター新設に伴い、経済・経営分室の保有面積のうち187.19㎡を経済学部に変更した旨館長から報告があり了承されたが、今後この種の問題は当委員会に諮ることとなった。

第2回 昭和53. 6. 27(火)

1) 図書館資料選定方針について

協議の後、各委員の意見を参考に小委員会によって意見の集約を行い、次回運営委員会に諮ることとなった。

第3回 昭和53. 7. 18(火)

1) 図書館資料選定方針について(資料13参照)

協議の結果、小委員会案が了承された。

2) 昭和53年度附属図書館予算について(資料12参照)

原案を次のとおり修正して承認された。「増加図書目録作成経費 0 を削除し備考欄にその経費があれば刊行の用意がある旨記入すること」

第4回 昭和53. 9. 19(火)

1) 図書館運営費について

標記について意見交換を行った。

2) 入庫証の発行について

入庫資格を学部学生まで拡大したいとの事務部案が提出されたが、関係教員と協議してから改めて提案することになった。

3) 昭和53年度及び54年度における外国図書の収書計画について

各学部教員に協力を求め、とりまとめについては館長に一任することで了承された。

第5回 昭和53. 10. 24(火)

1) 図書館運営費について

標記について協議した。

第6回 昭和53. 11. 28(火)

1) 備品整備計画について

条件付きで原案が承認された。

2) 図書館運営費について

標記について協議した。

第7回 昭和54. 1. 23(火)

1) 学生用図書購入費の追加配分について

当予算執行について、事務部案が提案され、一部修正し了承された。

2) 図書館運営費について

これまでの検討事項等を盛り込み、館報特別号に掲載することとなった。

第8回 昭和54. 2. 27(火)

1) 附属図書館の現状-図書館白書-について

3月中に草案を作成することになった。

昭和54年度

第1回 昭和54. 5. 22 (火)

- 1) 昭和54年度特別設備費要求について  
雑誌検索用端末機、館内放送及び時報設備の要求が了承された。
- 2) 昭和55年度概算要求(国立学校・施設整備費)について  
夜間開館要員2名純増、参考図書費5,050千円、外国雑誌購入費6,000千円、図書館(書庫)RC4 2,270㎡の要求が了承された。
- 3) 図書館白書について  
引き続き検討を進め、草稿がまとまり次第委員会で検討することとなった。
- 4) [工学分室の夜間開館について]  
分室の開館日(9月11日)までに結論を出すことが了承された。

第2回 昭和54. 6. 29 (金)

- 1) 図書館資料選定方針について  
附属図書館資料費予算及び同予算の運営について了承された。
- 2) 附属図書館建設委員会(仮称)について  
委員を選出した。
- 3) 附属図書館分室の運営について  
主として夜間開館について意見交換が行われた。

第3回 昭和54. 7. 24 (火)

- 1) 夜間開館について  
①全分室で夜間開館を行う。②夜間開館要員4名の経費は、図書館2名、経済・経営1名、工学部1名の割合で負担する。③夜間開館の時期は関係部局と協議して決定することとした。

第4回 昭和54. 10. 5 (金)

- 1) 附属図書館分室の夜間開館実施について  
教育分室は中央館と一体化して9月11日から、工学分室は10月1日から、経済・経営分室は11月1日を目途に実施することが了承された。
- 2) 図書館資料費予算について  
①学生用図書購入費が増額配分された場合は、各事項に割り振る。②特別図書購入費については、今年度は、経済・経営学部が選書収書することとなった。
- 3) 附属図書館改善充実(第4次)実施計画について  
標記について、説明及び意見交換が行われた。

第5回 昭和54. 11. 6 (火)

- 1) 附属図書館改善充実(第4次)実施計画について  
標記について、意見交換が行われた。

第6回 昭和54. 12. 7 (金)

- 1) 学術雑誌総合目録(欧文編)の作成について  
作成にあたっては、学内所蔵のすべての学術雑誌を収録する方針が承認された。
- 2) 附属図書館組織の整備について  
分室の名称変更、資料の合理的配置等について協議が行われた。

第7回 昭和55. 1. 29 (火)

- 1) 附属図書館分室の名称変更について  
附属図書館改善充実(第4次)実施計画が了承され、各分室の名称を下記のとおり変更することが了承された。  
教育分室 → 教育科学・人文科学系研究フロアー

経済・経営分室 → 社会科学系研究図書館

工学分室 → 理工学系研究図書館

2) 昭和56年度概算要求について

共同利用保存図書館の新設、経済・経営分室の改造を要求することとなった。

第8回 昭和55. 3. 18 (火)

1) 昭和54年度研究図書整備費について

上記整備費について説明があり、同整備費の翌年度以降のあり方について協議した。

2) 図書館規則等の一部改正について

標記について了承された。

昭和55年度

第1回 昭和55. 5. 16 (金)

1) 昭和56年度(施設整備)概算要求について

施設整備関係: ①共同利用保存図書館 ②社会科学系研究図書館の改造

事務機構の整備関係: ①事務部組織の改組 ②図書館職員の増 2名

について要求することが了承された。

2) 横浜国立大学附属図書館利用規則の一部改正について

相互利用を推進するための条項を新設した旨説明があり、一部改正について了承された。

3) 「図書館利用および学術情報需要に関するアンケート」調査について

大学院学生以上を対象としてアンケート調査を実施することとなった。

第2回 昭和55. 6. 24 (火)

1) 昭和56年度概算要求について

施設関係については、学術情報機関としての性質を持たせる方向でより検討することになった。

2) 昭和55年度図書館資料予算案について

研究図書整備費については、次回検討することとし、予算案は承認された。

3) 社会科学系研究図書館の改造について

社会科学系研究図書館の入口設置について、経済学部案を承認した。

第3回 昭和55. 9. 12 (金)

1) 情報サービス態勢について

既存データ・ベースの利用及び本学独自のデータ・ベース形成という観点から、整備推進して行くことが了承された。

2) 公用帯出について

標記について協議が行われた。

3) 研究図書整備費について

標記整備費の制限限度額について協議が行われた。

第4回 昭和55. 10. 21 (火)

1) 公用帯出の事務処理について

標記については、公用帯出図書にはカード(目録カード)1枚を添付し、カード複製の便宜を図書館側がはかることになった。

4) 第2期収書計画の策定について

資料に基づき協議し、5点を選定した。

第5回 昭和55. 12. 5 (金)

- 1) 電気化学データベースの運用について  
標記について、覚書(案)(資料27)が了承された。
- 2) 附属図書館新館の構想について  
標記について、討議された。

第6回 昭和56. 1. 27(火)

- 1) 附属図書館規則の一部改正について  
異議なく承認された。
- 2) 公用帯出の定義について  
事務部から説明があり、公用帯出の手続きについては、事務部で最善の方法を検討することとした。
- 3) 学術雑誌の収集について  
学内における雑誌の集中化について、各学部の意見交換が行われた。
- 4) 附属図書館資料費予算について  
追加予算額の割振について了承された。

第7回 昭和56. 3. 20(金)

- 1) 附属図書館規則の一部改正について  
全学的改正の一環として、附属図書館規則を「附属図書館規程」と改正することが承認された。
- 2) 社会科学系研究図書館の書誌目録について  
同図書館所蔵の洋書の書誌目録作成について、事務部で検討の上、次回取り上げることにした。
- 3) 附属図書館新館について  
情報処理センター構想の中で、情報図書館として構想したい旨事務部から提案があり、討議が行われた。

昭和56年度

第1回 昭和56. 4. 24(金)

- 1) 研究図書館の書誌目録について(継続審議事項)  
経費負担について協議した。
- 2) 昭和57年度(国立学校)概算要求について  
情報処理センターと合体させた新館建設案が承認された。

第2回 昭和56. 5. 26(火)

- 1) 昭和57年度(国立学校)概算要求について  
建物の新設及び職員増2名を要求することになった。
- 2) 情報処理センター創設準備室分室の開設について  
理工学系研究図書館の一室を同準備室分室として使用することが承認された。

第3回 昭和56. 7. 3(金)

- 1) 昭和56年度図書館資料費について  
研究図書整備費及び古典・叢書類の執行方針については、今後継続して検討していくことになった。
- 2) 附属図書館新館構想について  
概算要求の提出について承認された。

第4回 昭和56. 9. 22(火)

- 1) 昭和56年度附属図書館運営費予算(案)について
- 2) 昭和56年度附属図書館資料費予算修正について

第5回 昭和56. 10. 23 (金)

- 1) 古典・叢書類について  
標記について協議した。

第6回 昭和56. 11. 24 (火)

- 1) 昭和56年度附属図書館資料費予算修正について  
各予算項目について協議の結果、修正(案)が原案のとおり了承された。
- 2) 社会科学系研究図書館の改造について  
3～4年計画で書架を入れることから始めることで了承された。
- 3) 研究図書館の運営について  
運営小委員会のようなものの設立提案が委員からあったが、現実的でないとの理由で取り上げられなかった。

第7回 昭和57. 2. 12 (金)

- 1) 環境科学研究センターの運営委員会への加入について  
協議の結果、了承された。

昭和57年度

第1回 昭和57. 5. 12 (水)

- 1) 昭和58年度国立学校特別会計概算要求について  
①事務機構の整備(整理課長補佐及び閲覧課長補佐の新設、自然科学系担当職員増員)が承認された。  
②附属図書館(情報図書館)新築工事については、学内での審議が不十分であるので、概算要求は差し控え、検討委員会を設けることになった。

第2回 昭和57. 6. 29 (火)

- 1) 昭和56年度附属図書館決算報告について

第3回 昭和57. 9. 21 (火)

- 1) 昭和57年度附属図書館予算案について  
原案のとおり承認された。委員から、参考図書購入内訳リストを本委員会に提出するよう要望があった。
- 2) 昭和58年度自然系外国雑誌購入費による雑誌の購入について  
自然系外国雑誌購入費の大幅な減額に対応するため、運営委員会の中に「特別委員会」(仮称)を設置し、具体的な審議を委ねることとなった。

第4回 昭和58. 3. 28 (月)

- 1) 昭和59年度国立学校特別会計概算要求について  
図書館事務部で諸般の事情を勘案し検討したものをもとに協議し、来年度さらに検討することとした。

昭和58年度

第1回 昭和58. 4. 19 (火)

- 1) 昭和59年度国立学校特別会計概算要求(案)について  
附属図書館増築の要求について審議したが、次回再度審議することとなった。

第2回 昭和58. 5. 10 (火)

- 1) 昭和59年度概算要求(案)について  
各部署から意見が出たが、要求案の取扱は館長に一任することとなった。

第3回 昭和58. 6. 24 (金)

- 1) 昭和57年度附属図書館決算報告について

種々意見が取交わされた後了承された。

- 2) 自然科学系外国雑誌購入予算について  
昭和58年度標記予算については、附属図書館の資料費から充当することとし、次回運営委員会で検討することになった。

第4回 昭和58. 7. 19 (火)

- 1) 昭和58年度附属図書館図書資料費について  
執行予算費目として「一般教育図書費」が認められた。

第5回 昭和58. 9. 16 (金)

- 1) 昭和58年度附属図書館予算について

第6回 昭和58. 10. 28 (金)

- 1) 昭和59年度自然科学系外国雑誌について  
自然科学系外国雑誌特別小委員会が作成した「選定リスト」Aランク及びBランク計25誌を購入することとなった。昭和60年度の購入誌については来年度見直しを行い、改めて検討することとした。

第7回 昭和59. 3. 21 (水)

- 1) 学生用図書の選書分担について  
標記についての図書館資料選定小委員会の審議結果が承認された。

昭和59年度

第1回 昭和59. 5. 11 (金)

- 1) 附属図書館運営委員会の今後のあり方について  
同委員会の審議を効率的にし、資料選定小委員会との関係を円滑にするための方策について審議した。
- 2) 昭和60年度概算要求について  
附属図書館の増築計画案が了承され、概算要求を行うことが了承された。

第2回 昭和59. 6. 29 (金)

- 1) 附属図書館における組織及び運営の見直しについて  
標記について協議した。
- 2) 附属図書館の増築について  
昭和59年度概算要求(附属図書館増築)が認められたため、実施設計についての提案、提言の要求があった。

第3回 昭和59. 9. 18 (火)

- 1) 昭和60年度自然科学系外国雑誌の購入について  
外国雑誌購入の取扱については、図書館資料選定小委員会で審議・決定することとした。
- 2) 中央図書館一般教育図書の選書分担について  
標記について協議した。

第4回 昭和59. 10. 30 (火)

- 1) 一般教育図書の選書分担について  
標記について協議した。

第5回 昭和59. 11. 26 (月)

- 1) 一般教育図書の選書分担について  
全学の合意を得るために、検討を続けることになった。

第6回 昭和59. 12. 14 (金)

- 1) 一般教育図書の選書分担について

今年度は、図書館資料選定小委員会が一般教育図書の選書をするようになった。

第7回 昭和60. 3. 19 (火)

- 1) 寄贈図書の受入について  
寄贈図書の受入基準について検討することとした。

昭和60年度

第1回 昭和60. 5. 7 (火)

- 1) 昭和61年度概算要求(案)について  
「図書館の電算機の更新」を要求することとなった。

第2回 昭和60. 6. 21 (金)

- 1) 中央図書館の増築、改修工事について  
標記工事に伴う、休館及び業務の一時停止について了承された。
- 2) 一般教育図書の選定について  
当分の間、選定要項(資料10)に基づき実施することとなった。

第3回 昭和60. 9. 13 (金)

- 1) 昭和60年度附属図書館予算(案)について  
中央図書館購入の雑誌については、3年毎に見直すこととし、昭和58年度につづき来年度見直すこととした。

第4回 昭和60. 11. 19 (火)

- 1) 2号館閲覧室について  
増築された2号館閲覧室に4つのコーナーを設けることとし、①世界の中の日本  
②21世紀への展望 ③美術書コーナーについては了承されたが、「わが大学の研究コーナー」については学部で持帰り検討した上で、次回協議することになった。

第5回 昭和61. 3. 18 (火)

- 1) 2号館閲覧室について  
懸案だった「わが大学の研究コーナー」は、単行書を配架することで了承された。

昭和61年度

第1回 昭和61. 5. 9 (火)

- 1) 昭和62年度概算要求について  
職員の定員増3名を要求することになった。
- 2) 当面する図書館運営上の問題  
①資料費予算の再検討 ②図書館の管理運営機構の在り方 ③本学内の学術情報ネットワーク構想 ④一般市民への図書館公開等について次回以降検討していくこととなった。

第2回 昭和61. 6. 26 (木)

- 1) 資料費予算について  
学生用図書購入費の他費目への配分についての協議結果を基に、予算案を作成することになった。

第3回 昭和61. 9. 18 (木)

- 1) 昭和62年度自然系外国雑誌の購入予約について  
協議の結果、現行通りとすることになった。

第4回 昭和61. 11. 20 (木)

- 1) 新システム導入について  
導入後の手続き上の変更点について説明があり、目録カード廃止等については

学部を持ち帰り、引き続き協議することになった。

2) 利用規則の一部改正について

新システム導入に伴う利用規則の一部改正については、学部を持ち帰り、引き続き協議することになった。

第5回 昭和62. 1. 20 (火)

1) 新システム導入について

導入に伴う手続上の変更点について確認された。目録カード廃止に伴う処置としては、希望があればカード形式のリストを印刷し提供することになった。

2) 利用規則の一部改正について

帯出資格及び帯出冊数を3段階とすることになった。

昭和62年度

第1回 昭和62. 4. 21 (火)

1) 昭和63年度概算要求について

協議の結果、昭和63年度の概算は見送ることとし、今年度は社会科学系研究図書館の改善を図るため、小委員会を設置して具体案を検討することになった。

2) 当面する図書館の諸問題について

①図書館の公開 ②学術情報センターのデータサービス実施 ③図書館と学部図書委員会との関係 ④Audio-Video 関係資料 について討議が行われた。

第2回 昭和62. 6. 26 (金)

1) 社会科学系研究図書館について

同図書館の改善に関する小委員会の構成について、経済・経営各2名、教育・工学各1名、館長及び事務部長とすることとなった。

第3回 昭和62. 9. 18 (金)

1) 社会科学系研究図書館の改修について

同図書館改善小委員会の委員が選出された。

2) 図書館の公開について

10月開催の関東地区附属図書館事務(部・課)長会議での検討結果を見て、検討を進めることになった。

第4回 昭和62. 11. 24 (火)

1) 図書館の公開について

本学図書館における一般市民への対応要項(案)が提示されたが、次回あらためて協議することになった。

2) 社会科学系研究図書館の改修について

排水除湿、パイプ撤去、スペース拡張等の営繕費を要求することとなった。

第5回 昭和63. 2. 26 (金)

1) 図書館の公開について

一般市民への対応要項第2次(案)が、一部修正の上了承された。

2) 規則改正について

本年4月より、整理課を情報管理課、閲覧課を情報サービス課に課名変更し、収書係、受入係を図書受入係、雑誌受入係に改組することが了承された。

3) 社会科学系研究図書館について

同図書館から中央図書館への図書移動について、来年度も引続き検討していくことになった。

## 昭和63年度

### 第1回 昭和63. 4. 15 (金)

#### 1) 昭和64年度概算要求について

今回は提出を見送り、1年間図書館の将来計画プロジェクトについて検討した上で、提出することになった。

### 第2回 昭和63. 7. 1 (金)

#### 1) 昭和62年度附属図書館決算報告

### 第3回 昭和63. 9. 16 (金)

#### 1) 自然系外国雑誌の継続購入について

協議の結果、来年度も現行のとおり購入することになった。

### 第4回 昭和63. 11. 22 (金)

#### 1) 当面の諸問題について

##### ア) 図書資料費について

一般教育図書及び学生用図書購入費について協議の結果、図書館資料選定小委員会で、具体的に検討することになった。

### 第5回 平成元. 3. 3 (金)

#### 1) 大型コレクションの選定について

協議の結果、選定は新年度の図書館資料選定小委員会で行うこととし、同計画の実施要項について図書館資料選定小委員会で検討することになった。

#### 2) 資料選定について

学生用及び一般教育図書の選定を年1回とする提案があり、協議の結果、実施方法について次年度協議することになった。

## 平成元年度

### 第1回 平成元. 4. 21 (金)

#### 1) 資料選定の時期について

従来、学生用図書及び一般教育図書の選定を年2回行っていたが、年1回にしたいとの提案があり、了承された。

#### 2) 平成2年度概算要求について

協議の結果、今回は見送ることになった。

### 第2回 平成元. 6. 20 (火)

#### 1) 昭和63年度附属図書館決算報告

### 第3回 平成元. 9. 22 (金)

#### 1) 平成2年度購入自然系外国雑誌について

協議の結果、現行のとおり購入することが承認された。

### 第4回 平成元. 11. 28 (金)

#### 1) 学内LANについて

学内LANのノード設置方について、情報処理センターと折衝することが了承された。

#### 2) 大学院(人文・社会科学系)図書収書計画の見直しについて

標記経費の特別図書購入費の選書分担等については、選定小委員会で審議することになった。

### 第5回 平成2. 2. 20 (火)

#### 1) ブックディテクション装置の設置について

標記装置を、平成3年度概算要求として提出することが了承された。

- 2) 社会科学系研究図書館の将来について  
同図書館の将来計画を検討するために、小委員会を設置することが了承された。

#### 平成2年度

##### 第1回 平成2. 4. 17 (火)

- 1) 社会科学系研究図書館将来計画検討小委員会の継続設置について  
標記将来計画についてまだ結論が出ていないので、本年度も継続することが了承された。
- 2) 国際経済法学研究科からの図書館各種委員会への参加について  
標記については、同研究科本予算成立及び学部教授会の結果を待って改めて協議することになった。

##### 第2回 平成2. 6. 26 (火)

- 1) 国際経済法学研究科の委員参加について  
運営委員会へは1名の参加が、また図書館資料選定小委員会への参加も認められた。任期は平成4年3月31日までとし、年度末までに再度協議することになった。

##### 第3回 平成2. 9. 21 (金)

- 1) 社会科学系研究図書館の将来計画について  
将来計画(案)が提案され、協議の結果各部局に持ち帰り、次回検討することになった。
- 2) 平成3年度購入自然系外国雑誌について  
現行のとおり継続することが了承された。

##### 第4回 平成2. 10. 30 (火)

- 1) 社会科学系研究図書館の将来計画について  
前回提案された将来計画(案)の基本方針を認め、関連部局から提起された問題について、今後協議していくことになった。

##### 第5回 平成2. 12. 13 (木)

- 1) 社会科学系研究図書館の将来計画について  
同図書館の運用上の諸問題等について詰めることと並行して、貿易文献資料センターと図書館事務レベルの折衝を進めることになった。

##### 第6回 平成3. 1. 22 (火)

- 1) 社会科学系研究図書館の将来計画について  
標記計画案が了承された。ただし、書架配置図については(案)とすることになった。
- 2) 社会科学系研究図書館将来計画検討小委員会の廃止について  
同計画が策定されたことに伴い、標記小委員会の廃止が了承された。

##### 第7回 平成3. 2. 19 (火)

- 1) 平成4年度概算要求について  
平成3年度要求のブック・ディテクションシステム一式を引き続き要求することになった。

#### 平成3年度

##### 第1回 平成3. 4. 23 (火)

- 1) 視覚障害者対策について  
標記について協議した。

第2回 平成3. 6. 19 (水)

- 1) 平成2年度附属図書館決算報告
- 2) 平成3年度附属図書館予算(案)について

第3回 平成3. 9. 26 (木)

- 1) 平成4年度自然系外国雑誌の購入について  
原案のとおり、了承された。
- 2) 情報処理センター電算機更新に関わる仕様策定委員会委員の選出について  
図書館選出委員として、事務部長を選出した。

第4回 平成3. 12. 3 (火)

- 1) 一括寄贈資料選定要項(案)について  
図書館資料選定小委員会での検討結果をもとに協議の結果、語句を修正の上、  
了承された。
- 2) 大学院(人文・社会科学系)図書収書計画実施要項について  
国際経済法学研究科の設置に伴う、標記条項の改正について了承された。
- 3) 社会科学系研究図書館について  
関係部局と図書館との意見交換のため、ワーキング・グループ的なものを設け  
ていくことになった。

第5回 平成4. 2. 21 (金)

- 1) 平成5年度概算要求について  
平成3年度以降要求中のブック・ディテクション装置を要求することが了承  
された。
- 2) 完全週休2日制の導入について  
完全週休2日制導入後の土曜日開館について意見交換を行い、来年度本委員  
会で引き続き協議することになった。

平成4年度

第1回 平成4. 4. 22 (水)

- 1) 完全週休2日制実施に伴う附属図書館の対応について  
土曜日開館する場合の経済的負担等について協議の結果、5月以降土曜日を休  
館することになった。
- 2) 図書館利用規程の改正について  
土曜日休館となったことに伴う図書館利用規程の改正が、承認された。
- 3) 附属図書館自己点検・評価について  
中間報告(案)について協議の結果、語句を訂正・加筆して提出することにな  
った。

第2回 平成4. 6. 22 (月)

- 1) 平成3年度附属図書館決算報告
- 2) 平成4年度附属図書館予算(案)について

第3回 平成4. 9. 24 (木)

- 1) 平成4年度教育研究特別経費(特別分)の申請について  
前年度に引き続き「図書館におけるニューメディアの利用に関する調査研究」  
を申請することになった。
- 2) 社会科学系研究図書館の将来計画について  
標記計画の未確定事項のうち、書架設置に関しては同図書館ワーキング・グル  
ープでの議論の後、本委員会で決定することが了承された。

第4回 平成4. 11. 9 (月)

- 1) 社会科学系研究図書館の将来計画について  
同図書館ワーキング・グループでの議論の結果策定した書架配置図(案)が、了承された。
- 2) 自己点検・評価について  
自己点検・評価委員会の位置づけ、点検・評価の内容等について継続審議することになった。

第5回 平成4. 12. 15 (火)

- 1) 自己点検・評価について  
附属図書館自己点検委員会改正案について討議の結果、構成員、検討事項について確認の後、了承された。
- 2) 総合情報処理センター電算機更新における仕様策定委員会委員の選出について  
図書館選出の委員として、事務部長が選出された。

第6回 平成5. 2. 23 (火)

- 1) 平成6年度概算要求について  
中央図書館3号館(新築)を要求項目として提出することが了承された。
- 2) その他
  - ア) 土曜日の開館について  
来年度も土曜日休館とすることになった。
  - イ) 社会科学系研究図書館の将来計画について  
具体的配架資料について関係者と協議した結果、それら資料を配架するため、1階南側を学術雑誌フロアとすることが了承された。
  - ウ) 横浜国立大学自己点検・評価報告書(本報告)について  
既に提出している中間まとめのうち、数字改定の要あるものについて数字をいれかえ、字句訂正の上提出することになった。
  - エ) 附属図書館自己点検委員会について  
3月中に委員会を開催し、事務部側との共通理解を図ることになった。

平成5年度

第1回 平成5. 5. 7 (金)

- 1) 平成6年度概算要求(追加)について  
図書館入・退館管理システムが補正予算で実現することになり、討議の結果、集密書架を追加要求することになった。
- 2) 平成5年度附属図書館運営委員会の検討課題について  
6項目が提示され、種々協議した。

第2回 平成5. 7. 12 (月)

- 1) 平成4年度附属図書館決算報告について
- 2) 平成5年度附属図書館予算(案)について  
光熱水費不足分は追加配分を充てること、CD-ROM資料継続購入は他の予算を流用することで、原案のとおり了承された。
- 3) その他
  - ア) 平成5年度教育研究特別経費(特別分)の要求について  
要求の申請が了承された。
  - イ) 土曜開館について  
国立大学附属図書館の土曜開館の実情に鑑み、本学も施行的に10月から中央

図書館一ヶ所を土曜開館することになった。

なお、来年度以降の実施方法については、更に検討していくこととした。

第3回 平成5. 11. 18 (木)

- 1) 図書館運営費の増額について  
標記についての各部局の状況について委員から説明があり、それらを参考に再度各部局長に図書館運営費補助について働きかけることになった。
- 2) 社会科学系研究図書館将来計画について  
同図書館1階の保存図書館に関連して、重複図書の取扱いについて、原案のとおり了承された。
- 3) C. シャンプ博士旧蔵書、文書等の受入れについて  
標記蔵書等を一括寄贈資料として取り扱うことが了承され、名称は「カール・シャンプ・コレクション」と決定した。

第4回 平成6. 2. 22 (火)

- 1) 平成7年度概算要求について  
3号館新築を要求することが了承された。
- 2) 土曜日の開館について  
平成6年度の土曜日開館については、予算措置が出来るまで、本年度と同じ体制(常勤職員の交代勤務)で開館することになった。

平成6年度

第1回 平成6. 5. 24 (火)

- 1) 附属図書館運営委員会規程の一部改正について  
国際開発研究科設置にともない、標記規程を改正することになった。
- 2) 附属図書館図書館資料選定小委員会細則の一部改正について  
国際開発研究科設置にともない、標記細則を改正することになった。
- 3) 平成6年度附属図書館運営委員会の検討課題について  
提案のとおり了承された。
- 4) 附属図書館自己点検委員会の今後の進め方について  
自己点検委員会の下に小委員会を設け、検討を進めていくことになった。

第2回 平成6. 7. 22 (金)

- 1) 社会科学系研究図書館将来計画の実施について  
同図書館業務の経済学部への委託に関する「覚書」が了承された。
- 2) 平成6年度教育研究特別経費(特別分)について  
前年度の研究計画を継続することになった。
- 3) 仕様策定委員会の設定について  
CDサーバシステム設置のための仕様策定委員会を設置することになり、委員を選出することになった。
- 4) 将来像検討委員会への対応について  
館長が企画委員会に参加することに関連して、「図書館将来像検討小委員会」を設置することが了承された。
- 5) 本学教官著作物の図書館への寄贈について  
他大学の事例を参考に、申し合わせ(案)を事務部が作成し、委員会に提示することになった。

第3回 平成6. 10. 14 (金)

- 1) 横浜国立大学附属図書館利用規程の一部改正について

本年10月から業務委託による土曜日開館の実現、及び開館日数増加をうけて、標記規程を変更することが了承された。

- 2) 国立学校施設長期計画書について  
長期計画として新1号館の改築を提出することが了承された。
- 3) 附属図書館業務用電子計算機仕様策定委員会の設置について  
平成7年度の電子計算機システム更新にむけて、仕様策定委員会を設置することになり、委員を選出することになった。
- 4) その他
  - ア) 本学教官著作物の図書館への寄贈について  
他大学の例を参考に申し合わせを作成する予定であったが、そのような例がないので、年度初めに館長から各部局長に寄贈方依頼することになった。

第4回 平成7. 2. 21(金)

- 1) 「横浜国立大学附属図書館事務分掌細則」の改正について  
事務合理化の一環としての係の再編成、及びニューメディア対応の係の新設について説明があり、協議の結果、了承された。
- 2) 土曜日開館等に伴う各種要項等の改正について  
各種要項等の改正が了承された。

平成7年度

第1回 平成7. 4. 15(金)

- 1) 平成7年度附属図書館事業計画について  
5項目について説明があり、了承された。
- 2) 附属図書館運営委員会の当面する課題について  
資料に基づき説明があり、了承された。

第2回 平成7. 7. 14(金)

- 1) 平成7年度教育研究特別経費(特別分)の要求について  
実施計画調書の提出期限が早まったため、すでに提出した旨報告があり、了承された。

第3回 平成7. 12. 18(金)

- 1) 平成9年度附属図書館概算要求について  
中央図書館3号館を引き続き要求することとし、摘要欄1の一部を削除して要  
求書を提出することが了承された。

平成8年度

第1回 平成8. 6. 6(木)

- 1) 横浜国立大学附属図書館運営委員会規程の一部改正について  
運営委員会委員の任命手続きの省略等により、標記規程の一部改正が了承された。
- 2) 平成8年度附属図書館事業計画について  
次のとおり承認された。
  - ①平成8年度教育研究特別経費(特別分)の要求
  - ②附属図書館WWWホームページ開設
  - ③学術雑誌目次速報データベース形成事業への参加
- 3) 1996年度(平成8年度)附属図書館運営委員会への検討依頼事項について  
今回は意見交換にとどめ、次回以降続けて検討していくことになった。

4) その他

ア) 国際経済法学研究科が図書館長の推薦学部になる件については、本委員会の検討事項ではないこと、運営委員の増員については、次回検討することが了承された。

第2回 平成8. 7. 16 (火)

- 1) 国際経済法学研究科から選出される附属図書館運営委員の増員について審議の結果、再度審議することとした。
- 2) 1996年度(平成8年度)附属図書館運営委員会への検討依頼事項について検討項目について審議し、更に継続審議することとした。

第3回 平成8. 10. 24 (木)

- 1) 1996年度(平成8年度)附属図書館運営委員会への検討依頼事項について検討項目について審議し、更に継続審議することとした。

第4回 平成8. 12. 6 (金)

- 1) 1996年度(平成8年度)附属図書館運営委員会への検討依頼事項について種々審議した結果、館長一任として学長に答申することとした。

第5回 平成9. 3. 7 (金)

- 1) 横浜国立大学附属図書館図書館資料選定小委員会細則の一部改正について原案のとおり、承認された。
- 2) 附属図書館将来計画検討委員会要項について審議の結果、図書館で再検討することとなった。
- 3) 利用者サービスの拡張について理工学系研究図書館の土曜日開館を、予算措置があれば本年10月1日を目途に実施することが了承された。
- 4) 経済学部研究棟入口の管理について標記研究棟の管理強化のため、入口を磁気カード化することが、社会科学系研究図書館の時間外利用にさしさわらないようにすることで、承認された。

5) その他

ア) 附属図書館運営委員会への委員以外の者の出席について

平成9年度から、運営委員会規程にもとづき、総合情報処理センターからの本委員会への出席を認めることとした。

## 第8類 統合前の附属図書館回想（職員）

### 私と創設期の横浜国立大学附属図書館

団 野 弘 之

私は横浜国立大学創設期の昭和24年6月から大学が保土ヶ谷キャンパスに統合する直前の昭和48年3月までの24年間、一貫して附属図書館事務長を務めた。

明治44年生の私は鎌倉竜宝寺に育ち、湘南中学校をへて、駒沢大学予科、上野の文部省立図書館職員養成所（当時男女共学）を6年に終了、7年横須賀海軍工廠総務部に入り、小栗上野介時代の資料から、工廠の資料を整理した。10年駒沢大学仏教学部に戻り、同大学図書館の夜間主任を勤め、13年卒業、たまたま北支那方面軍の宣撫官要員募召に応募して3月渡支、宣撫官・新民会・天津特別市教育局長を歴任。敗戦により23年11月末帰国した。

前年帰国した神奈川師範男子部長松崎実次先生（北京にて大東亜省勤務中知りあった）が、新制大学になると図書館の専門職員が必要と思い、上野帝国図書館の岡田温先生を尋ね司書職者の推薦を頼んだところ、私を推薦され、その年の大晦日に私の家を訪ねた。23年1月31日鎌倉で松崎先生に会い、即日則ち31日付で採用された。

当時の師範男子部の図書室は教務係の一部で、担当は私を入れて2名、翌年新制大学の横浜国立大学学芸学部となった。私は新制大学としての図書館の構想を纏めて全学評議会に提案した。教育学部評議員中央アジア史の小林高四郎教授の推薦で、この案が採用され事務長となり、初代館長渡辺輝一教授・第3代館長松崎実次教授・前記の小林教授の方々と図書館の充実に力を尽した。

教育学部は鎌倉、経済学部は清水ヶ丘、工学部は弘明寺と分散キャンパスに適合する図書館は中央館と3分館とした。構成校の図書室は図書館としては不十分なので、目録は和漢書は日本目録規則、洋書はALAの洋書目録規則、分類表は日本十進分類表に拠った。閲覧目録カードは著者名目録・書名目録でなく辞書体目録とし、配列は和洋混配、その為に日本式ローマ字法によって和漢

書は読みをローマ字化した。この辞書体目録で中央館で全学の図書の所在がわかるようにした。

新着図書は中央館は司書事務、分館は購入・閲覧を担当する。則ち分館で購入手続の終わった図書はファイバー製の書類函で中央館に送る。中央館では事務用カードを作り登録事務を行った。事務用カードに分類番号を記入、閲覧カード作製の指示、標目のローマナイズをした。この作業は私が皆目を通し、訂正加筆した。閲覧用カードを作製して、分館へ図書にそのカードを付けて送り返し、分館ではカードを目録カードに繰込み、図書には装備して閲覧事務を行った。

構成校の旧蔵書の再整理は中央館の司書が、勿論私も先頭になって行った。学芸学部の蔵書は25年迄に終わったので中央館は工学部に移った。工学部は6科に大部分の蔵書は分けていたので各科ごとに行った。建築科は舐入りの図版を項目別に分けていたので各帙に戻すのに大変苦労した。各科に分けていなかった図書の中に大正新修大蔵経のような善本もあった。工学部の旧蔵書の再整理も終わったので31年3月経済学部に移った。経済学部分館の再整理は41年に終了、それからは新着図書の整理に力をそそげるようになった。然し41年頃から学生運動が起り、横浜国立大学でも経済学部では学校封鎖され、経済学部分館の蔵書、閲覧カードの一部が損害を受けた。然し本館が持っていた全学基本カード目録があったので直ちに復旧することができた。

蔵書の充実に努力することは当然である。新制大学になった時学芸学部に寄付された基金で大日本古文書等の基本図書の購入をしたり、学芸学部分館の学部門内移転の時、火災予防の見地から校舎群の中央から左側の武道場に移すことを提言し、学芸学部火災の際焼失を免かれた。更に進駐軍、アメリカ文化センター等から先方の好意で多数の洋書をいただいた。大船海軍燃料廠が今度の大戦中ドイツより潜水艦で持って来た学術雑誌（現在工学部分館にある）、神奈川県教育委員会よりは毎年展示された教科書類、又、八方手を盡して集めた新憲法制定の時の討議資料等がある。

新制大学図書館を旧制大学図書館並みに近づけようと、平常業務のほかに日本図書館協会大学部会理事となり、大学図書館と国立国会図書館との相互協力

の会合に出たり、大学図書館基準・国立大学図書館改善要項・国立大学図書館研究集会に協力、関東地区国立大学図書館長会議を結成（26年7月）、文部省に支援を求める為全国国立大学図書館長会議を結成、29年10月その第1回大会を横浜国立大学で開催（第2章第1節参照）、続いて文部省主催国立大学図書館研究集会を開催、爾来横浜国立大学はその幹事館となって活躍した。

更に学校図書館法の施行に際しては横浜国立大学は文部省の委嘱を受け学校図書館司書養成教育講習会を28・29年開催、私はその講師（文部省大学設置審議会より28年に図書館学講師の判定を受けた）、以後学芸学部の司書教諭取得の為の司書課目の講師を務めた。又神奈川県内の私立大学図書館との協力、或は神奈川県図書館協会の一員となり協力を努めた。

最後に程土ヶ谷キャンパスに横浜国立大学附属図書館をどう建築するか、どうゆう機能を持たせるか、どう運営するかについては、45年の欧州6ヶ国、49年のアメリカ・カナダ、53年の北欧4ヶ国、同年の新中国大学図書館を見学した智識と国立大学図書館長会議で見聞した戦後の大学図書館についての智識から勘案して構想をねったが、退官することになったのは残念であった。

## 司 書 係 の 思 い 出

兵 永 麗 子

O P A Cが登場するまで、図書館で資料を捜す手段はカード目録であった。私は、昭和34年度から53年度までの20年間カード目録の作成に携わった。

附属図書館には全学の目録が、各分館には自館所蔵分の目録が備えつけられていて、閲覧用としては、辞書体目録と分類目録の二種類があった。辞書体目録は著者名、書名、件名の各カードを和書、洋書ともアルファベット順に混配したものであり、分類目録は図書の種類順に配列したものであった。

カード複製に当たっては、ろうびき原紙を使い和書は手書き、洋書は英文タイプライターで原稿を作り、謄写版で必要枚数を複製した。刷り上がったカー

ドに著者名、書名、件名を加筆しローマナイズした。

司書係には数台のタイプライターがあり、団野事務長と競ってタイプした音が今も耳に残っている。終業時には使用したタイプライターをロッカーに収納した。さらに、門馬係長時代には本、筆記用具等もすべて片づけ、事務机の上には何も放置することはゆるされなかった。

昭和46年より整理業務に関する問題を「図書館整理担当者会議」で討議し、その結果を係長会議で決定していた。決定事項は「整理通報」として発行し職員に知らせていた。その中からいくつかをあげてみよう。

◎目録規則を変更した。和書は日本目録規則1965年版に、洋書は英米目録規則に。(No.1 昭和46年5月10日)

◎国立国会図書館印刷カードを採用した (No.2 昭和46年9月)

◎文部省通達「MARC II 磁気テープ利用による洋書整理業務の合理化、省力化実施要項」を受入れた。(No.6 昭和47年9月18日)

◎図書の図版に対する浮出印を廃止した。(No.7 昭和48年5月7日)

◎閲覧用目録は、著者名目録、書名目録、分類目録とした。(No.9 昭和49年4月15日)

その結果、約24年間続いた辞書体目録が凍結されたのである。

## 学芸学部分館 一思い出すままに一

飯 塚 實

私が鎌倉にあった学芸学部分館へ赴任したのは、附属図書館に就職してから6年後の昭和35年4月で、当時の係長は筒井さん（後に閲覧課長）で、係員には山崎さん（後に経済学部助手）、大野さん、金子さんがおられた。

その頃は大学創立から10年経過したばかりで、学部全体の蔵書冊数は漸く4万冊を越え、年間増加冊数も3千冊程度であった。分館は昭和29年頃には学部本館の北側の2階建の独立建物であったが、私が赴任した当時は本館の西側手

前（八幡宮側）平屋建の旧武道場に移転しており、総面積545㎡のうち南側を閲覧室及び開架書庫、北側を事務室及び閉架書庫に使用していた。

整理係を担当していた頃だから確か昭和37年頃のことであったと思うが、当時社会科教育の助教授であった吉田太郎氏のご尽力により、分館で殆ど所蔵していなかった明治初年学制発布当時の師範学校編纂教科書、明治期の検定・国定教科書等の貴重なコレクションを分館の蔵書に加えることができた。

山崎さんの転出により受入事務を担当することになった。今のように電卓がなかったため慣れない算盤を片手に数字を扱う毎日を過ごすことになったが、山崎さんと交替した計算に堪能な鳥屋部さん（現筑波大学図書館情報サービス課長）に大変お世話になったものである。

その後昭和39年4月に門馬さんが係長として着任されたが、その後1年も経たない昭和40年1月14日未明の出火で本館及び研究室棟が焼失した。辛うじて罹災を免れた分館に同年8月末まで残留して焼失図書の調査や会計検査院への調書作成を行った。調書作成といってもまだ複写機がなかったので大変手数が掛かったものである。同年9月1日清水ヶ丘の経済学部本館に移転し、閲覧サービスを開始した。中庭にプレハブの閲覧室を仮設したのもそれから暫く経ってのことである。その後大学紛争で昭和44年1月31日経済学部が封鎖されたため、中区立野町の横浜分校に移転し封鎖解除で再び清水ヶ丘に戻ってきたのは同年10月末のことであった。

## 工学部雑誌目録作成のころ

久保田 満 子

昭和39年5月、神奈川県助の援助による工学部中央図書館が弘明寺キャンパス中庭に竣工した。中央図書館と化学系図書室が統合し、2階が雑誌フロアとなり積層書庫3、4階にも雑誌バックナンバーが配架された。新図書館に移転してから、私は工学部所蔵欧文雑誌目録の原稿作成を黒瀬係長から託された。所

蔵雑誌のデータは、すでにタイトル毎にカードに記入されていて、それをもとに所蔵巻号、誌名変遷の確認がその仕事だった。疑問が出る度に各学科図書室に出向いて現物にあたった。

当時、工学部の主たる建物は、名教自然碑を前に西を正面としてコの字をなし、右翼2階に機械工学科及び造船工学科図書室、主翼の中庭に面した1階には、化学系図書室があった。(化学系図書室は後に中央図書館と統合した。)電気工学科及び化学工学科は、主棟とは別にキャンパスの東側に別棟があり、その南側には金属工学科の建物が東西に長く位置し、各図書室はそれぞれの建物の中にあった。建築学科図書室は、もと工学部図書館南側に新しく建てられた建物の2階にあった。

機械工学科及び造船工学科図書室は、私の記憶では金属製の書架が鈍く黒光りしていて、製本雑誌の表紙も濃紺系が多かったせいか、いつも重々しい雰囲気の中で心が引き締まるのを覚えた。機械工学科図書室には、賑やかな寺岡綾子さんのあと渡辺晃子さんが勤めていて、いつもシーンとしていた。造船工学科は吉岡勲先生が図書室の実権を握っていたようで、瘦身の体をピンとはって、鍵束をベルトに下げて大股で歩いてくる姿が今でも思い浮かぶ。

建築学科の図書室は、明るい閲覧室が確保されておりいつも閲覧者がいて活気があった。書庫には特製の木製書架に大型本が大事に収納されていて、ここで働く高木さんを羨ましく思った。

電気工学科図書室へはIEEE Transactionsについて何度も調べに行ったのに、図書室の様子などはぼんやりとしていて思い出せない。

## 閲覧室の思い出

藤原令鶴子

清水ヶ丘の校舎の2階、階段を昇って左に行くと図書館事務室があり、真っ直ぐ行くとつきあたりが図書館(本館)閲覧室になっていた。入口を入ると左

側にずらりとカード・ボックスが並んでおり、その奥にカウンターがあった。

当時（昭和40年前後）、新人がまず配属されたのは経済図書係で、閲覧室に関する業務全般（カウンター業務、目録カード配列、貸出カード作成等）を行っていたと記憶している。当然、教官や学生と毎日接触があった筈だが、今となっては、殆ど何も思い浮かばない。

寧ろ印象深かったことといえば、新入職員になって間もない頃にあった蔵書点検である。丁度閲覧室の奥が書庫になっており、更にその先が、一般教育閲覧室へ通り抜けになっていた。

その書庫の蔵書を、事務用カードと照合しながら点検して行く作業を、2人1組になって行うのだが、大声で請求番号や書名を読み交わしながら、その間にちょっとした雑談などをしている内に、だんだん先輩職員とも打ち解け合って、慣れない作業も楽しかったように記憶している。点検の最中に閲覧室の窓から雀が迷い込んで来たりすると、作業を中断して追い回したりしていた。

もうひとつ鮮明に記憶しているのは、閲覧室入口寄り中央付近に鎮座していただるまストーブのことだ。冬の朝出勤すると、先ずこのストーブに薪などで火を付け、石炭を投げ入れて、首尾よく燃焼させなければならない。苦労と喜びの交叉する作業であった。閉館後がまたまた大変で、灰をバケツに入れて、校庭隅の所定の場所に捨てに行くのだが、バケツごと投げ捨てて、もうもうたる灰かぐらの薄れるのを遠巻にして待ち、頃合いを見計らってバケツを回収して戻る。その為いつもスカーフを所持していたものだ。

今思うに、夏はどうしていたのだろうか？扇風機でもあったのかどうか、夏の方は全く記憶にないのが不思議である。

## 参考係：誕生、蕾、そして開花へ

松 下 敬 子

昭和43年9月16日参考係（係長1、係員2）が誕生した。

文部省のレファレンス（参考業務）充実計画により、定員が1名ついた為で

ある。その時代レファレンスは、これからの花形業務とみられ、才智、専門的知識、健康、快活、勤勉、協調 等々がレファレンサーの資格であると教科書に記されていた。それだけ揃えばもっと良い職業がいくらでもであると、よく学生時代笑ったものである。

新設係といっても参考図書室があるわけでもなく、既存の図書室のカウンターの一部を借用、レファレンスツールもあるものを使っての出発であったが、机をはじめ事務用品は新しく買い整えられ、欲しいものは何でも言うように、そして庶務係には、言われたものは、何でも買う様にとの事務長の言葉は妙に嬉しかった。

まず、レファレンスツールの整備に力が入れられ、44年1月8日の全学図書協議会で、参考図書費が設けられるなど、予算獲得が行われた。44年度参考図書費の決算額は70.7万円、46年度134万円、48年度249万円であった。(cf.45年男子大卒者の初任給3.67万円、又平成8年度の決算額262万円) 購入冊数は43-46年度で880冊、ちなみに47年3月の本学参考図書の現有冊数は2,020冊であり同規模の長崎大は2,924冊、岡山大4,264冊、千葉大7,500冊となっている。その頃の名大の調査によると、基本参考図書を揃えるのに1,500万円、J L Aの調査によると43年度に出版された日本の参考図書を全部揃えるためには、170万円が必要であった。これらを出来るだけ揃えてゆく為に手始めとしてJ L A「日本の参考図書」による本学所蔵チェックを行なった。参考図書充実を目標とした蓄の時代であった。又参考係に定員が1名増となったのは、48年である。

参考業務としては、カウンターに交代で出向き参考質問への解答、情報検索、複写(学生アルバイト1名専任)マイクロ撮影、他大学との相互協力等を行なった。参考係設立以前の42年度の参考業務取扱件数は全学図書館で343件、詳しい統計は残っていないが、45年度は参考係取扱だけで、約300件となっている。

参考図書の整理に関しては一般図書との区別の為に図書ラベルの色をグリーンとし、目録カードを1枚別配列する等して、将来に備えていた。

49年常盤台移転により、やっと独立した参考図書室を持ちある程度のツールを備え、本格的なレファレンスサービスの実施、開花へと向かったのである。

現在ではデータベース、インターネット、CD-ROM等一部ツールも変わったが、合計13年余り参考係に身を置き、採用時に生意気にもレファレンスがやりたいと言った私にとっては、他の業務と比較して、調査は大変でも依頼者にとって満足できる解答ができて喜ばれた時、そしてそれに伴い自分の知識が豊かなになる事が大変嬉しく、本当に良い仕事であると何度も思ったものである。

(これを書くにあたり、筒井元係長、渋谷元係員の方に情報をいただいた。)

## 図書館研究会のことなど

大金 聡 男

横国大の図書館に勤めて30年程になるが、インターネット通信や電子図書館が持て囃される世相にあって、採用された当時に今では信じられない手作業ばかりの仕事に何か人間の温もりを思い出させる今日この頃である。昭和40年代を振り返ってみると事務室は狭く、設備・用具も貧弱で、日常の消耗品にも事欠く状況にあって、「図書館はどう在るべきか」、「図書館員の在り方とは？」等々大学の統合と図書館組織の一本化に向けて活発な議論が交わされ、館員の熱気が感じられる時代であったと思われる。

そんな中において『横国大図書館研究会』は昭和39年に発足し、館員の意志疎通の場として大きな役割を担っていた。構成メンバーはほぼ常勤職員全員(事務長・庶務係を除く：約25名内外)で組織され、研究集会、報告会(見学、研修など)、会報の発行、図書館専門雑誌の購読及びそのコンテンツ・サービス等が主な事業であった。当時の記録を紐解いてみるとやはり横国大図書館の一大変革であった「大学統合後の図書館構想」、「部制に向けての事務組織の在り方」の記事が目立っている。特に渋谷嘉彦氏(当時参考係員、現相模女子大教授)の図書館機能と組織についての緻密な分析の記事が光っており、現在でも参考になる。また本研究会では門馬正見氏(当時整理係長)が委員長時代に『附属図書館概況昭和44～50年度』を冊子で発行した。これは新統合図書館

創立の様様から部制施行の前年までの記録がコンパクトにまとめられており、この沿革誌の資料として大いに有益であったのではないと思われる。

学内紛争後、大学内の風潮と職員意識の変化もあってか自由参加の組織が次々と縮小・解散していったが、本研究会もいつとはなしに自然消滅の憂き目を見た。夢ももう一度という訳ではないが「各々が会費を出し合い、資料を揃え、お互いに見聞を高め、言いたいことを発表する場」が今の図書館に在ってもいいと思うのは私だけの単なる郷愁なのだろうか？

## 図書館統合　－思い出すままに－

矢野光雄

大学統合の一環として、図書館統合問題が全学図書協議会（以下、協議会）議題に上がったのは友成忠雄館長のころからであった。以来、この問題は建物が完成し、組織の統合、管理運営の一本化が完成するまで協議会の議題となった。私はこの時期、経済図書係長～教育図書係長のポストにあった。協議会には係長は陪席することになっていた。

昭和45年10月、協議会は「図書館建設に関する5項目」を確認し長きにわたった“図書館建設のあり方”論争は一段落となった。中央図書館と研究・情報図書館をつくること、教育学部の研究・情報図書館は中央図書館と合体することなどが合意された。45年4月から私は教育学部分館に配置換えとなり、これまでとは異なった立場から統合問題を考えることになった。

5項目は確認されたが統合はそれからが本番である。図書館統合には二つの課題があった。一つは施設、もう一つは組織である。

建物は三か所に建設されることになった。一つの中央図書館と三つの研究・情報図書館である。経済・経営学部、工学部の研究・情報図書館はそれぞれ当該団地の建物群のなかに作られるが、教育学部のそれは中央図書館に合体することになっていた。学部内では合体の仕方について議論が沸騰した。議論の中

心は学部研究棟からのアクセスのし方と統合後の運営費問題についてであった。アクセス問題は教育学部側に入り口を設けることで解決した。中央図書館に北側（正面）と東側と二つの入り口が設けられているのはこのためである。運営費（主に光熱費）は、問題化した場合の対策として学部が公平に負担すべき額が計算できるよう建物内部にしかるべき設備を設けることで解決した。

中央図書館の建物プランは佐藤仁先生の設計である。原案が協議会に提案され、何回も改訂案が示されたが容易には決まらなかった。私は、設計小委員会というところに呼ばれたことがある。保土ヶ谷クラブハウス会議室の一隅に、佐藤仁先生と團野事務長、田中庶務部長がおられた。庶務部長から、佐藤先生の案作りに協力せよとのことであった。いろいろな問題があった。いろいろ出ている意見を図書館機能面から建物空間のなかにどのように取り入れるかがポイントだった。この委員会には数回にわたって出たように思う。最終案が協議会に提出され各学部の了承を得るまでいくつもの案が作られた。もちろん図書系係長会議などにも図られ図書館業務面からの検討もされた。この時期の館長は藤田忠先生であった。

組織作りは田口武一館長の時代である。中央図書館は竣工したが、組織の一元化がなされていなかったため、教育学部分館は中央図書館の3階にあって教育学部図書係として機能していた。学部のスケジュールと本館のそれとはさまれ分館運営上不都合が生じたことも少なくなかった。

最初は規程づくりである。それまでの図書館規則は、組織、館長選考、利用に関するものが一つの規則にまとめられていた。これを各々独立させ新規程として新たに制定した。事務局の法規担当者との打ち合わせは精力的に繰り返された。原案作成には他大学の規程を参考にした。組織機構を一本化した案が協議会で承認され、さらに評議会の議を経て制定されたものである。

館長の任期は、当時の全国の国立大学の図書館長の任期を調べ、協議会の議を経て3年となったものである。また、利用規程は、九州大学などその他複数大学の規程が参考とされた。図書館建設問題が激しく議論されている頃、他大学を見学することが協議会の会議で決められ、協議会メンバーと出張したことがある。その結果は協議会の席で協議員から報告された。東京地区、関西地区

のいくつかの図書館を見た。統合を終え、新営された図書館の先輩たちの経験と意見も聞いた。その中で今も覚えている言葉がある。それは「図書館職員の気持ちが一つにまとまらなければ、図書館の統合は難しいですよ」と、つぶやくように発せられた一言である。いくつかの大学図書館で増築や組織の改組、仕事のリストラなどに携わり現役を離れたいま、かつての横浜国立大学の図書館統合をふり返るとき、この一言が私の中にいつまでも残る。「むべなるかな」である。

## 統合少し前の清水ヶ丘図書館

片山 叔子

京浜急行南太田駅から、長い坂を歩いて15分程で清水ヶ丘に着く。

昭和49年8月に、現在の常盤台キャンパスに移転するまでの附属図書館は、この清水ヶ丘にあった。関東大震災直後に建てられた旧高商時代の頑丈なコンクリートの建物とプレハブが混在する雑然としたところに、経済学部、経営学部、教育学部、附属図書館が同居していたので方向音痴の私は最初場所がわからずに苦労したのを覚えている。

附属図書館は旧高商時代の古い建物の2階にあり、当然ながら現在のような冷暖房の設備などなく夏は扇風機、冬はストーブというありさまだったが、暑さ寒さをあまり感じなかったのは若かったことと、あこがれの図書館に勤めることができたという緊張感のためだったように思う。

閲覧室も今のようにりっぱなものではなく、場所が狭いため資料も開架にはあまり配架されておらず、閉架書庫も何ヶ所かに分かれていたので利用者も図書館員である私達も資料探しには苦労したが、現在に比べると教官も学生も少なくのんびりしていたため、利用者からの苦情はあまりなかったように思う。

私が図書館に勤め始めたのは昭和47年からだだが、この時すでに2年後に常盤台に統合移転することが決まっていたのでその引っ越しの準備が始まっており、

結構忙しかった。夏休みは学生アルバイトを採用し、閉架書庫の図書から箱詰にしていったが、暑い中の重労働にもかかわらず学生達と冗談を言いながら過ごしたのも楽しい思い出となっている。

また、統合反対の学生運動も盛んで構内では連日のように学生デモがあり、元気の良いのと熱心なものには感心したのを覚えている。

常盤台に移転してすでに23年。ここ15年程はコンピュータが導入され仕事もかなり簡素化され便利になったが、時々清水ヶ丘を懐かしく思い出すことがある。

## 常盤台新図書館への移転

岡 部 美 紀

初めて常盤台を訪ずれた時は、まだ大学の建物は何もなく、現南門近くの旧クラブハウスだけだった。ゴルフ場跡地なので芝生が青々と茂り、地面もアップダウンになっていて所々に木があり、ここが完成後どのようになるのか待ち遠しい思いをした。

1974年6月新図書館が完成すると、移転前に交代で勤務し、広くて明るい図書館の中で受入体制の準備を整えた。しかし、1973年のオイルショックで経費削減を強いられ、設備面等苦しいスタートとなった。当初より予算が少なかったため、木製の特注書架は1階参考図書室と3階教育科学・人文科学系研究フロアだけに設置された。それ以外は、清水ヶ丘の書架を解体運搬組立（日本ファイリングKK）をして再利用した。

7月15日からいよいよ移転開始。2週間かけて図書梱包作業をした。8月になると、図書残務整理・カード箱梱包・備品類標示と次第に緊迫感が漂い、台所用品等ワレモノ類の梱包をする頃には、引越しをする実感が頂点に達してきた。8月も終わる頃になると、そろそろ疲れも出始めてきた。しかし、9月24日の開館を目指して最後に大仕事が待っていた。

日本ファイリングKKによる書架組立は完了し、各階の広い閲覧室には、ダンボール箱が山のように高く積み重ねられていた。私達は、これを既に書架に標示されている見出しにそってひたすらダンボール箱から本を出して書架にならべたのだ。毎日毎日朝から晩まで開梱・配架の繰り返し。タメ息の回数が徐々に多くなっていく中、開館に間に合うだろうかと思いつつ、やらなければならないという使命感で職員一同（含アルバイト）一丸となってやった。無事予定通り開館、万歳。

移転作業について記憶が薄れていく中、この図書開梱・配架だけは、今でも鮮明に覚えているのは、余程大変な事だったのだと改めて思った。

## 第9類 建築施設

五十嵐裕子、関口 欣也

ここでは横浜国立大学附属図書館が管轄する中央図書館1号館、同2号館、社会科学系研究図書館、理工学系研究図書館について、構造概要と延床面積、建築面積、竣工年月日、基本設計、実施設計、建築施工会社を大学事務局施設部等の資料により記述する。また平面図は平成9年3月の現状にもとづくもので、家具配置等は省略した。

### 1. 中央図書館1号館

構造概要：RC4階、延床面積：3,958.17㎡。建築面積：1,416.63㎡。竣工年月日：昭和49年6月10日。基本設計：設計委員会 佐藤仁\*。実施設計：鬼頭・梓建築設計事務所。施工：前田建設工業㈱。

\*佐藤仁氏は建築学科教授で、図書館建築計画の開拓者。国会図書館の計画（昭和36年）と八戸市立図書館の設計（昭和38年）を担当した。本学附属図書館建設には昭和42年より全学図書協議会のアドバイザーとなり、やがて本学設計委員会の委員として中央図書館の基本設計を作成した（48年3月）。その後、中央図書館1号館竣工の翌年、10月23日、分篩骨洞肉腫のため逝去した。享年47歳。

### 2. 中央図書館2号館

構造概要：RC5階。床面積：3,492.07㎡。建築面積：748.45㎡。竣工年月日：昭和60年8月9日。設計：本学施設部。竣工：前田建設工業㈱。

### 3. 社会科学系研究図書館

構造概要：SRC8階のうち最下層2階。図書館部分延床面積1,073㎡。竣工年月日：昭和49年6月10日。基本設計：設計委員会 溝口長男\*。実施設計：㈱近藤建築設計研究所。施工：佐藤工業㈱。

\* 溝口長男氏は横浜国立大学専任講師。

#### 4. 理工学系研究図書館

構造概要：RC 2階。延床面積1,930.34㎡。建築面積：1,084.06㎡。竣工年月日：昭和54年3月15日。基本設計：設計委員会 山田弘康\*。実施設計：(株)国建築事務所。施工：(株)三木組。

\* 山田弘康氏は当時建築学科助教授。

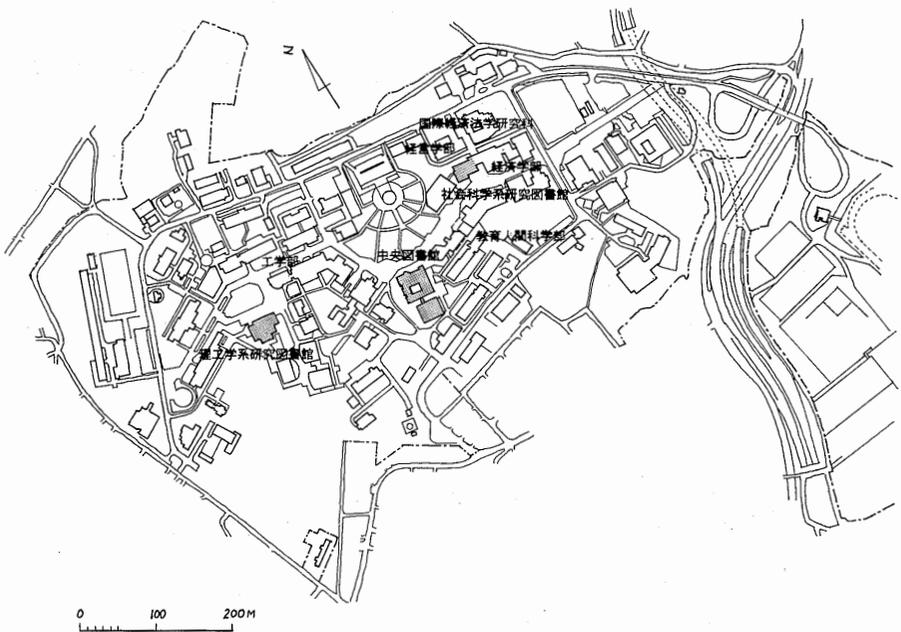


図16 常盤台キャンパス全体配置図 (横浜国立大学施設部)

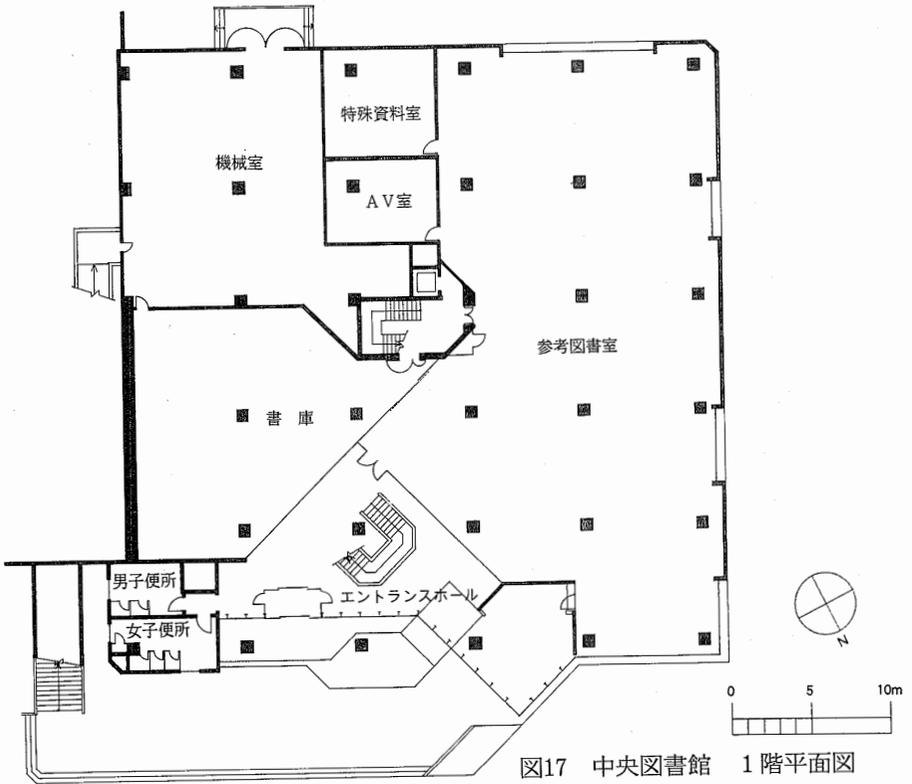
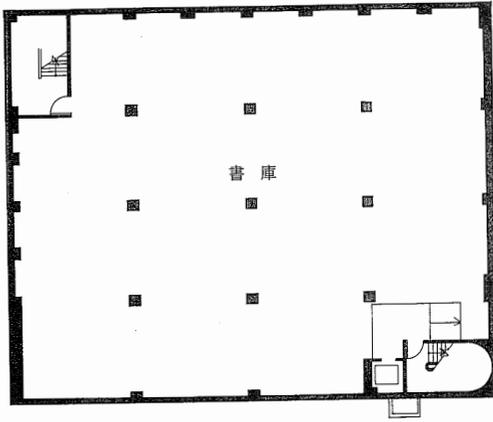


図17 中央図書館 1階平面図

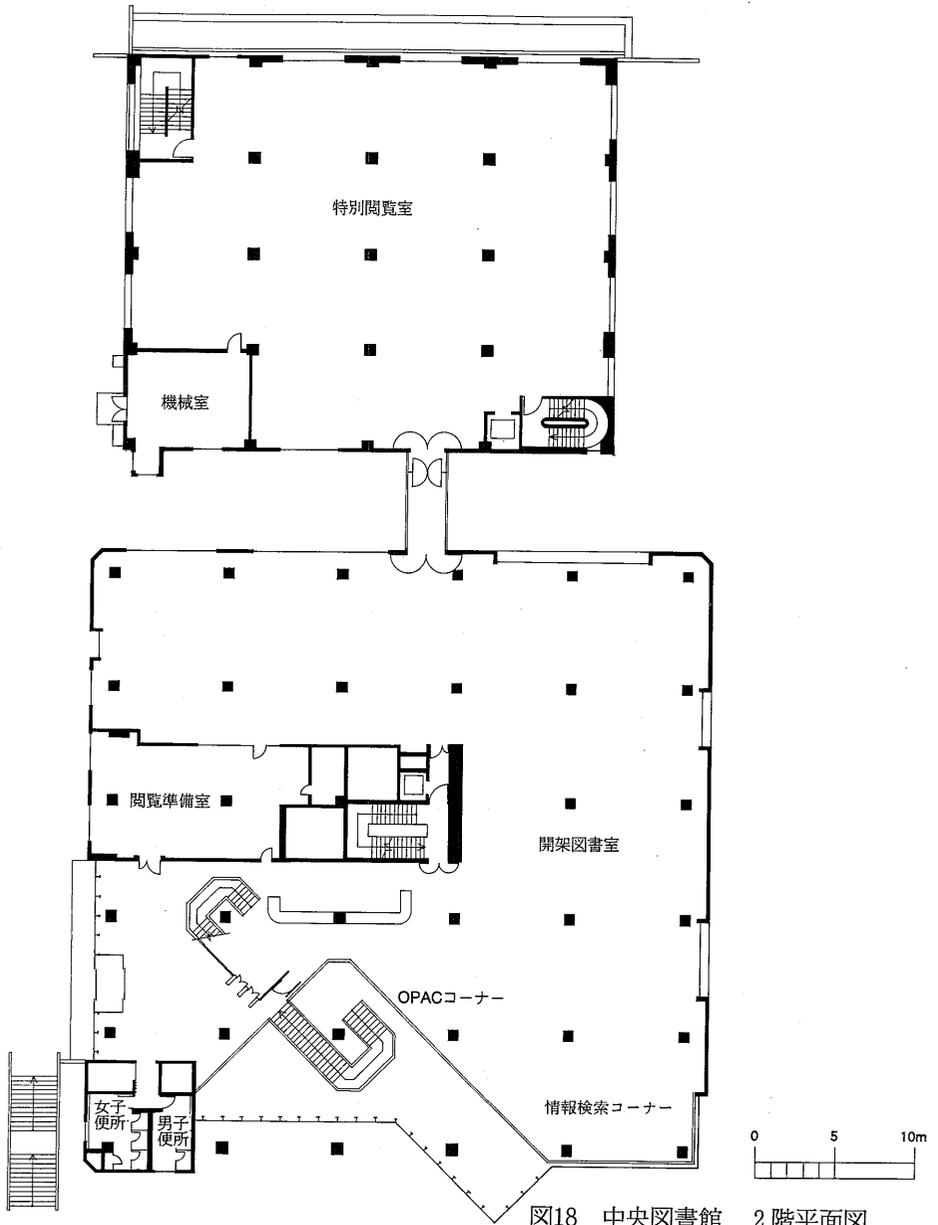


図18 中央図書館 2階平面図

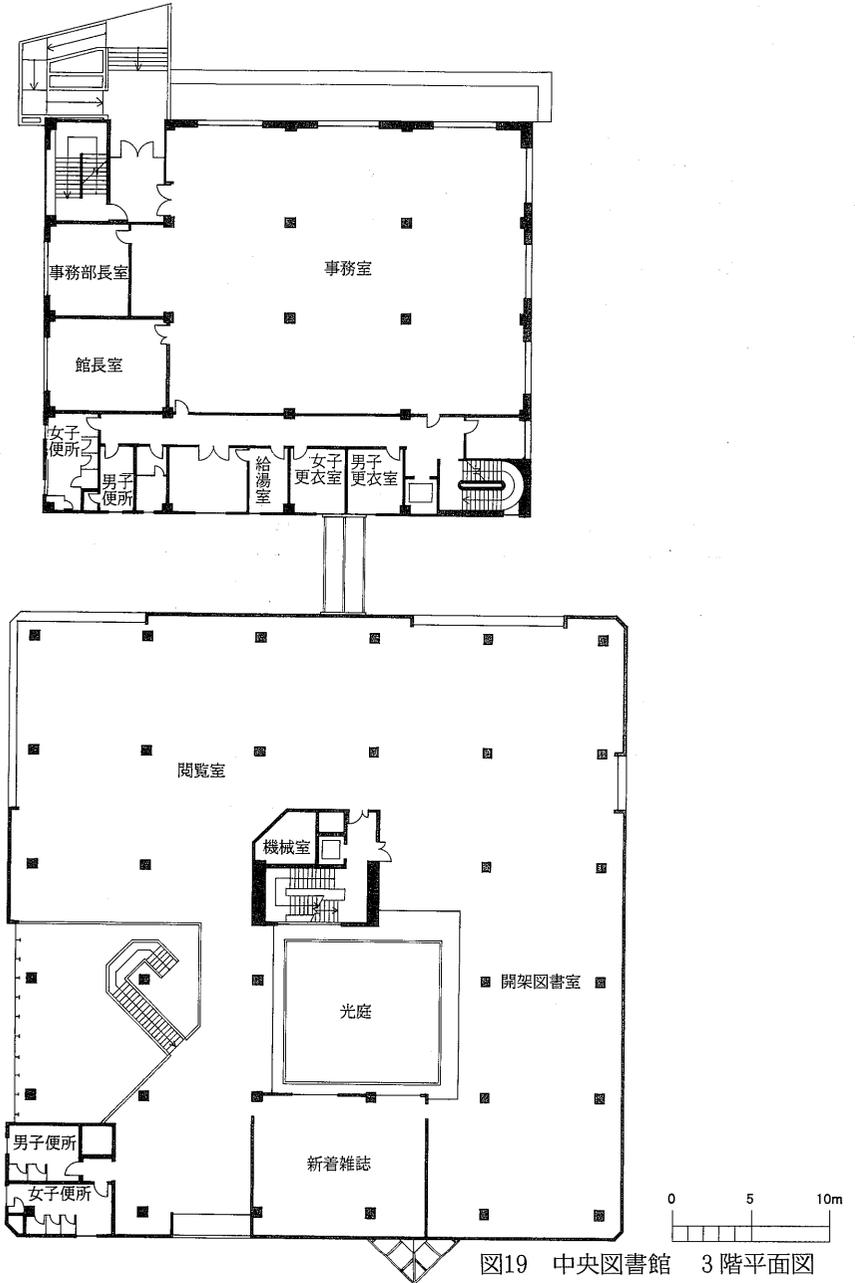


図19 中央図書館 3階平面図

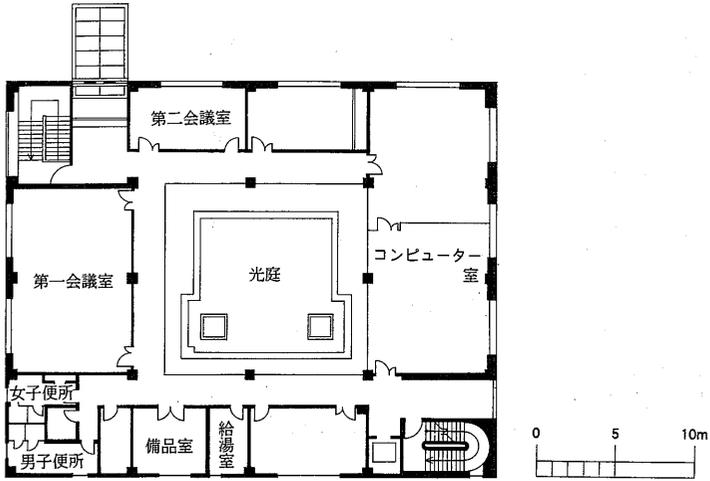


図20 中央図書館 4階平面図

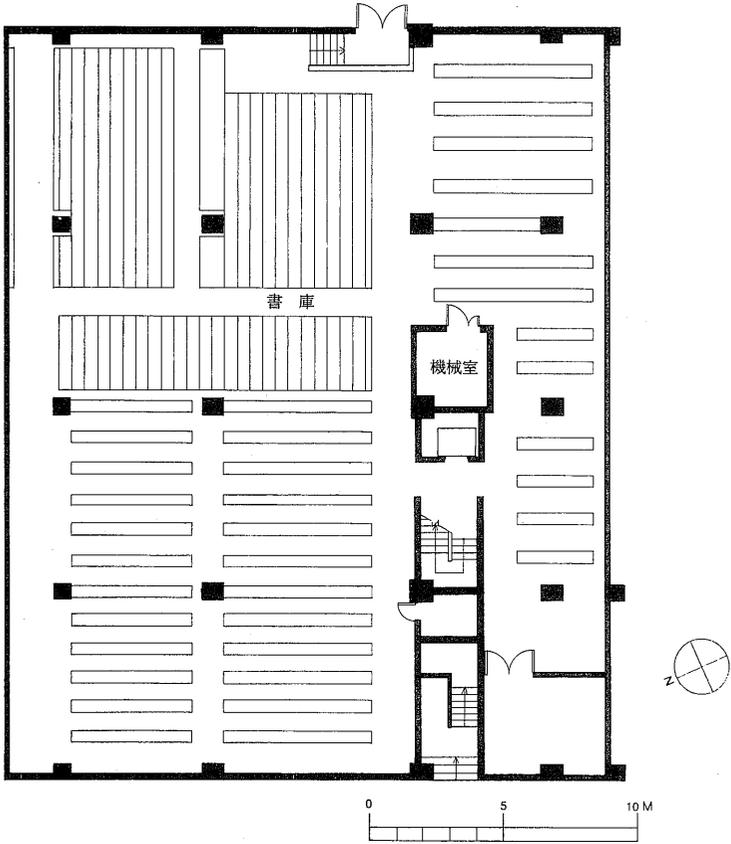
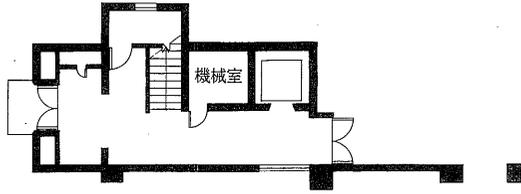


图21 社会科学系研究図書館 1階平面図

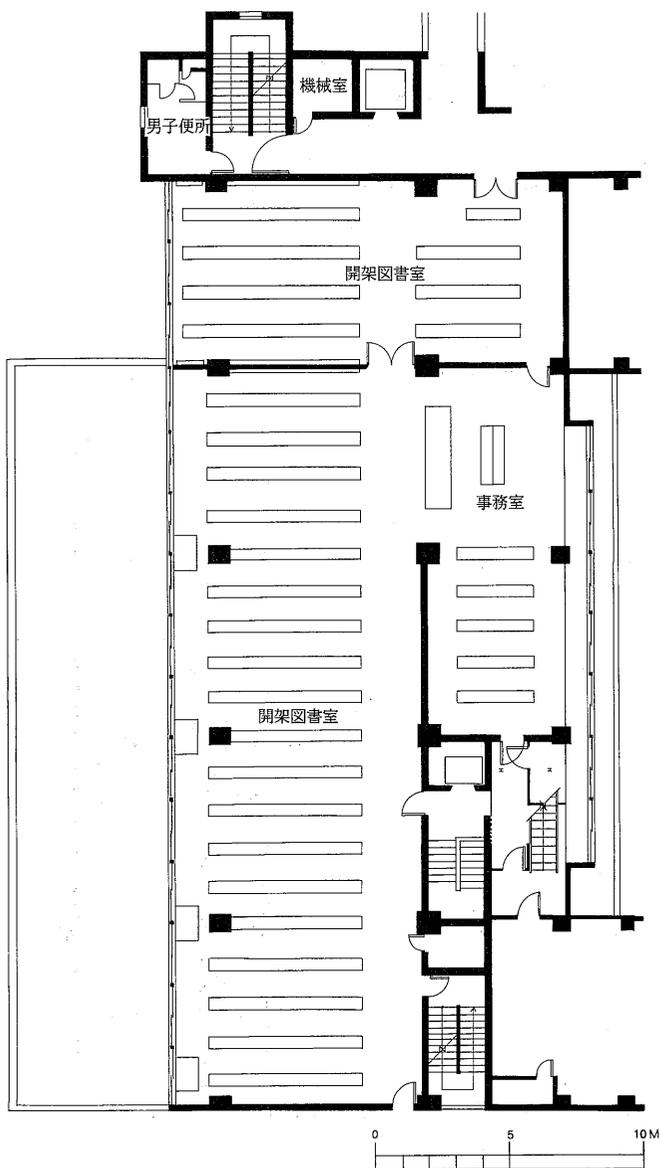


图22 社会科学系研究図書館 2階平面図

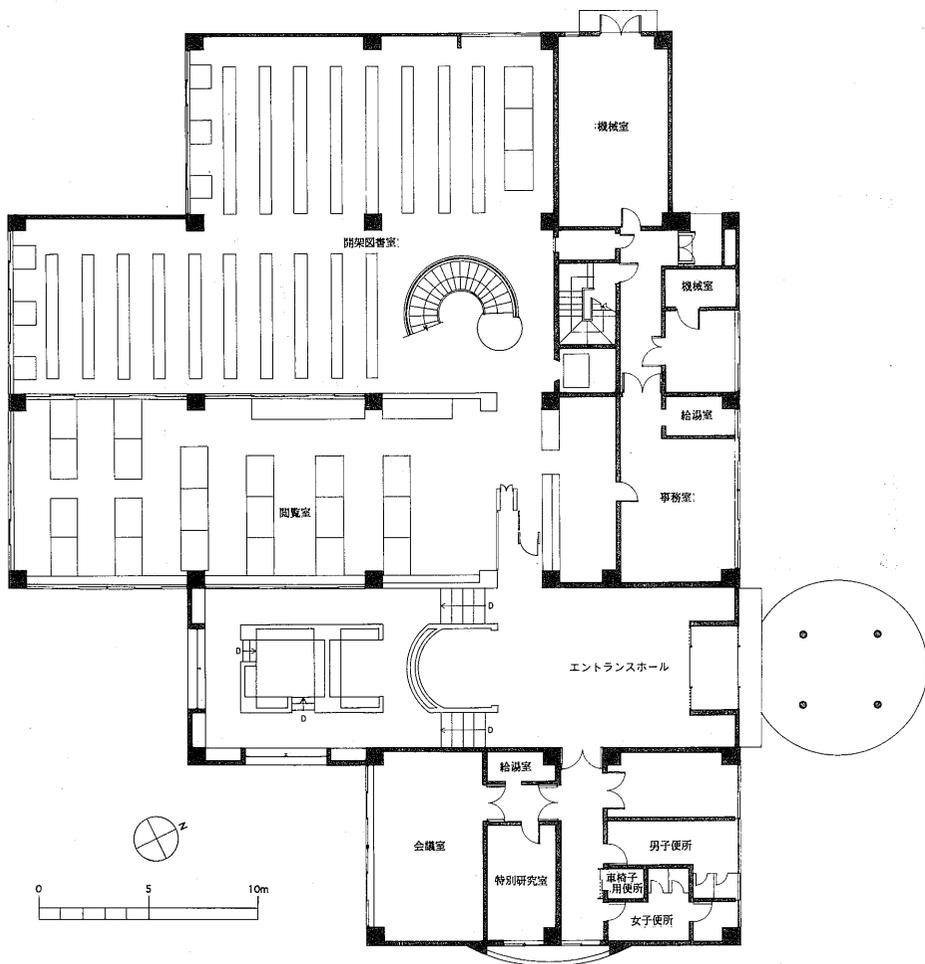


図23 理工学系研究図書館 1階平面図

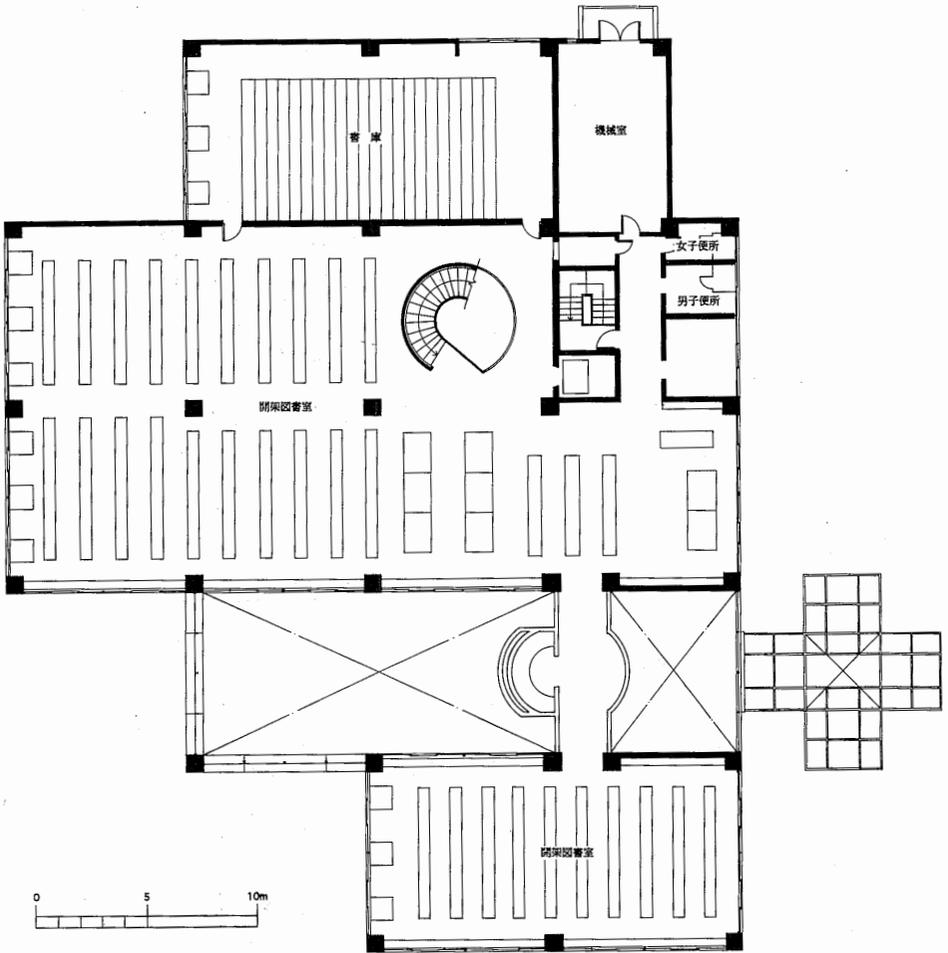


图24 理工学系研究图书馆 2階平面图

(備考) このほか本学附属図書館の管轄に属さない学部・学科の主な資料室・図書室等はつぎのとおりである。

教育学部：英語資料室。ドイツ語図書室。哲倫理学資料室。心理学資料室。

数学図書室。理科教育資料室。物理資料室。音楽資料室。

特殊教育資料室。

経済学部：貿易文献資料センター（国立学校設置法施行規則第20条による学部附属の研究施設）。

経営学部：研究資料室。

国際経済法学科：国経法資料室。

国際開発研究所：国際開発資料室。

工学部：機械図書室。金属図書室。建築図書室。船舶海洋図書室。

電子情報図書室。応数・数学図書室。

## 第10類 附属図書館沿革略年表・大学概要・附属図書館概要

飯塚 實、久保田満子

### 1 横浜国立大学附属図書館沿革略年表

- 昭和24年 5月31日 国立学校設置法（昭和24年法律第150号）により、横浜国立大学が設置されるとともに、附属図書館が設置され、準備事務室を学芸学部構内（鎌倉市雪の下）においた。
- 10月 1日 学芸学部分館、経済学部分館及び工学部分館が設置された。  
館長、分館長及び事務長が発令された。
- 昭和25年 3月22日 附属図書館規則を制定した。
- 3月 附属図書館事務室（庶務、司書係）を工学部構内（南区大岡町）に置いた。
- 10月 1日 本館で一括集中整理を開始した。（辞書体目録の作成）
- 昭和26年 4月 1日 学芸学部分館立野分室が設置された。
- 昭和28年 8月 文部省委嘱により、本学で司書・司書補講習会を開催した。
- 10月 1日 学芸学部分館立野分室が昇格し、学芸学部横浜分館が設置された。
- 昭和29年10月11～14日 第1回全国国立大学附属図書館長会議・文部省主催研究集会（現在の国立大学図書館協議会）を開催した。
- 昭和31年 3月 図書館事務室が経済学部構内（南区清水ヶ丘）に移転した。
- 昭和34年 4月 1日 経済学部図書係を廃止し、附属図書館に経済図書係が振替配置された。
- 9月 1日 学芸学部横浜分館が経済学部構内（南区清水ヶ丘）に移転した。
- 昭和35年 3月25日 人事院依嘱により、国立大学図書館専門職員採用試験を実施した。
- 9月16・17日 第16回関東地区国立大学図書館協議会を開催した。
- 昭和36年 2月21・22日 人事院依嘱により、国立大学図書館専門職員採用試験を実施した。
- 昭和39年 5月16日 工学部分館が工学部拡充後援会の寄付により竣工（RC2F 1,608㎡）した。
- 昭和40年 1月13日 学芸学部の火災により、蔵書の一部を消失した。
- 9月 1日 学芸学部分館が経済学部構内（南区清水ヶ丘）に移転した。
- 昭和41年 4月 1日 学芸学部の名称変更に伴い、学芸学部分館を教育学部分館、学芸学部横浜分館を教育学部横浜分館と改めた。
- 11月21日 文部省大学図書館視察委員による実地視察をうけた。
- 昭和42年 7月 附属図書館文献複写規定及び学内文献複写等取扱規定を制定した。
- 9月16日 庶務係を管理係に改め、新たに参考係が配置された。
- 昭和44年 1月30・31日 第5回関東地区国立大学附属図書館職員研修会を開催した。

- 3月14日 大学紛争による学生の構内占拠のため、横浜附属学校構内（中区立野町）に、続いて常盤台地区に移転、10月封鎖解除により清水ヶ丘
- 10月31日 に復帰した。なお、この紛争により蔵書の一部を亡失した。
- 昭和46年3月31日 横浜分校の廃止に伴い、教育学部横浜分館を廃止した。
- 4月1日 司書係を整理係に改め、新たに運用係が配置された。
- ” 昭和46-47年度指定図書実施校となった。
- ” 本館運営委員会が設置された。（51年3月まで）
- 昭和48年2月9日 図書館将来委員会が発足した。（51年3月まで）
- 昭和48年9月12日 中央図書館新営工事着工。
- 昭和49年6月15日 中央図書館が常盤台地区に竣工（RC4F 3,957㎡）した。
- 6月 経済学部分館が経済学部研究棟内に竣工（RC2F 1,290㎡）した。
- 8月19日 本館が清水ヶ丘から常盤台地区に移転した。
- 9月24日 本館、教育学部分館及び経済学部分館が常盤台地区に移転した。
- 昭和50年6月27日 選書委員会が設置された。（52年3月まで）
- 9月23日 選書委員会内規が制定された。
- 昭和51年3月31日 教育学部分館、経済学部分館及び工学部分館が廃止された。
- 4月1日 附属図書館規則を全面改正するとともに、附属図書館運営委員会規程及び附属図書館利用規程及び附属図書館長選考規程が施行された。教育分室、経済・経営分室及び工学分室を設置した。事務組織の統合並びに事務部課制の実施に伴い、教育学部図書係及び工学部図書係を廃止し、管理係を総務係に、経済図書係を受入係に改め、閲覧課に雑誌係が配置された。
- 事務部 — 整理課（総務係、受入係、整理係）  
— 閲覧課（運用係、参考係、雑誌係）
- 10月22日 『館報』を創刊した。
- 昭和52年1月 辞書体目録の作成を中止し以後受入分は著者、書名目録とした。
- 4月1日 附属図書館図書資料選定小委員会細則及び資料取扱区分の基準を制定した。
- 10月20・21日 第10回関東地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議を本学附属図書館で開催した。
- 昭和53年4月 経済学部附属貿易文献資料センターの発足に伴い、経済・経営分室の一部（187.19㎡）を経済学部に移管した。
- 8月 国立大学図書館協議会相互協力調査研究班の主査館となった。
- 9月25日 川村直子氏より Japan Arts Festival 受賞作品「作品 '67-Q」を寄贈されたことに対する褒賞の伝達式を行った。
- 昭和54年2月 電算機（ACOS 200）を導入した。
- 3月15日 工学分室が竣工（1,930㎡）した。

- 9月2日 工学分室が大岡地区より常磐台地区に移転した。
- 9月11日 電算機による貸出サービスを中央図書館で開始した。
- 9月18日 工学分室が開館した。
- 昭和55年1月29日 附属図書館充実第4次実施計画が策定された。
- 4月1日 日本図書館協会大学図書館部会長館となった。(昭和57年3月末まで)
- 6月 電算機による図書受入業務(バッチ処理)を開始した。
- 6月13日 神奈川県内(5大学)図書館相互利用制度が発足した。
- 9月18・19日 第1回大学図書館研究集会を横浜開港記念会館で開催した。
- 9月 電算機による雑誌受入業務(バッチ処理)を開始した。
- 昭和56年4月1日 附属図書館規程を一部改正した。  
〔従来の中央図書館及び各分室を、中央図書館(含む教育科学・人文科学研究フロア)、社会科学系研究図書館及び理工学系研究図書館に改めたこと、及び国立大学図書館間相互利用制度への対応)整理課に収書係が配置され、整理係を目録係に改め、また、閲覧課雑誌係を学術情報係に改めた。〕
- 4月 雑誌受入業務のオンライン処理を開始した。
- 9月16・17日 第2回大学図書館研究集会を国立婦人教育会館(武蔵嵐山)で開催した。
- 昭和57年1月15日 国立大学図書館間相互利用制度が開始された。
- 4月1日 附属図書館運営委員会規程及び図書館資料選定小委員会細則を一部改正した。(環境科学研究センター設置による委員数の変更)
- 昭和58年4月1日 神奈川県内大学図書館相互利用制度が開始された。
- 5月19日 自然科学系外国雑誌特別委員会第1回委員会開催(7月21日まで)
- 昭和59年1月1日 整理課に図書館専門員が配置された。
- 4月1日 日本図書館協会大学図書館部会長館となった。(昭和61年3月末まで)
- 4月19・20日 第40回関東地区大学図書館協議会を横浜郵便貯金会館で開催した。
- 11月29・30日 第5回大学図書館研究集会を県立婦人総合センター(江の島)で開催した。
- 11月 中央図書館増築工事着工。
- 昭和60年7月27日 2号館増築工事が竣工(3,492㎡)した。
- 9月13日 1号館の改修工事が完成した。
- 11月7～9日 第19回関東地区国立大学附属図書館職員研修会を筑波大学で開催した。
- 12月12～14日 第6回大学図書館研究集会を国立教育会館筑波分館で開催した。
- 昭和62年1月 新電算機システム(NEC150/78VS)を導入した。

- “ カード目録作成をやめて、新システムによる目録作成を開始した。
- 3月26日 学術情報センターに接続し、オンライン目録システム（NACSIS-CAT）の利用を開始した。全国総合目録データベースへの登録を開始した。
- 4月1日 利用規程を改正（貸出冊数の変更）した。
- 昭和63年2月24日 一般市民利用への対応要項を策定した。
- 4月1日 附属図書館運営委員会規程、附属図書館長選考規程、図書館資料選定小委員会細則を一部改正した。
- 整理課を情報管理課、閲覧課を情報サービス課に、また、収書係を雑誌受入係、受入係を図書受入係に改めた。
- 4月1日 神奈川県内大学図書館相互協力協議会会長館となった。（平成2年3月末まで）
- 8月 社会科学系研究図書館から図書約27,000冊を中央図書館に移動した。
- 11月16～18日 第22回関東地区国立大学附属図書館職員研修会を神奈川婦人会館で開催した。
- 平成元年10月1日 附属図書館文献複写規程を一部改正するとともに、文献複写料金徴収猶予取扱細則を制定した。
- 平成2年2月20日 社会科学系研究図書館将来計画検討小委員会を設置した。（9月まで）
- 4月1日 附属図書館文献複写規程および学内文献複写規程を一部改正した。（複写料金の値下げ）
- 4月 電算機（NEC3100/70A）を更新した。
- 7月2～13日 平成2年度目録システム講習会（地域講習会）を学術情報センターと共催した。
- 10月11日 附属図書館運営委員会規程及び図書館資料選定小委員会細則を一部改正した。（国際経済法学研究科設置による委員数の変更）
- 10月12日 自然系外国雑誌ワーキンググループを設置した。（平成3年2月まで）
- 11月15・16日 第4回国立大学図書館協議会シンポジウム（東地区）を横浜で開催した。
- 平成3年1月22日 社会科学系研究図書館将来計画が策定された。
- 9月2日 文献複写カード使用実施要項を定めた。
- 12月3日 図書館資料の不用決定及び廃棄に関する基準を裁定した。
- “ 一括寄贈資料選定取扱要項を制定した。
- “ 社会科学系研究図書館ワーキング・グループを設置した。
- 平成4年4月1日 学術情報センターILLシステム（NACSIS-ILL）稼働にともない、オンラインによる図書館間相互利用サービスを開始した。
- 5月2日～ 国家公務員週休二日制完全実施にともない、土曜休館となる。

- 5月～7月 中央図書館開架図書の蔵書点検を実施した。
- 6月 AV室を新装し、大型テレビ1台、ブース2台を備えつけた。
- 6月8日 『横国大図ニュース』を創刊した。
- 7月～ 附属図書館の現状と課題検討会（事務部）を実施した。（平成5年3月まで7回）
- 11月 中央図書館開架書架を増設した。
- 平成5年2月 社会科学系研究図書館開架図書約20,000冊を中央図書館に移動した。
- 3月 社会科学系研究図書館2階フロアに書架を増改修した。（2,390段）
- 3月 社会科学系研究図書館に「社会科学系学術雑誌フロア」及び保存書庫を設置した。
- 3月～6月 中央図書館及び理工学系研究図書館の外壁等改修工事を行った。
- 6月2日 第1回図書館モニター会議を開催した。
- 6月28～7月9日 平成5年度目録システム講習会（地域講習会）を学術情報センターと共催した。
- 9月 蔵書数が100万冊を突破した。
- 10月2日～ 土曜日開館を実施した。（中央図書館1館のみ 休業期間中は除く）
- 11月18日 カール・シャープ・コレクションを受入れた。
- 12月 社会科学系研究図書館新分類図書約33,500冊を中央図書館に移動した。
- 平成6年1月19・20日 平成5年度国立大学附属図書館事務部長会議をメルパルクYOKOHAMAで開催した。
- 2月 図書館紹介ビデオが完成した。
- 3月 保存書庫に集蜜書架を設置した。
- 7月22日 O P A C館外サービスを開始した。
- 平成7年4月1日 事務組織を大幅改組した。
- 4月18・19日 第51回関東地区国立大学図書館協議会総会をメルパルクYOKOHAMAで開催した。
- 6月5日 CD-ROMサーバシステムによるサービスを開始した。
- 12月1日 業務用電子計算機システムを更新した。
- 平成8年3月25日 入退館管理システムの運用を開始した。
- 7月3・4日 第43回国立大学図書館協議会総会を県民ホールで開催した。
- 11月21日 アンケート調査（学生対象）を実施した。
- 12月6日 「1996年度（平成8年度）附属図書館運営委員会への検討依頼事項」について、学長に答申した。
- 平成9年2月18日 名誉教授の図書帯出取扱要項を制定した。
- 3月31日 1号館1階にパーティションを設置した。
- 3月31日 1号館2階メインカウンター奥に閲覧準備室を設置した。

## 2 横浜国立大学概要（平成8年度）

1. 所在地 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79  
Tel 045-335-1451（代表）
2. 前身校 神奈川県師範学校 神奈川県女子師範学校  
神奈川県青年師範学校 横浜高等商業学校 横浜高等工業学校
3. 学部等 教育学部（附属小・中学校、附属養護学校）  
経済学部（貿易文献資料センター）  
経営学部（昼間主コース、夜間主コース）  
工学部（第一部、第二部）  
特殊教育特別専攻科
4. 大学院 教育学研究科（修士課程） 経済学研究科（修士課程） 経営学  
研究科（修士課程） 工学研究科（博士課程前期・後期） 国際  
経済法学研究科（修士課程） 国際開発研究科（博士課程後期）  
東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科（博士課程後期）
5. 学内共同教育研究施設等（抜粋） 環境科学研究センター 留学生セン  
ター 総合情報処理センター 保健管理センター 教育文  
化ホール 大学会館 留学生会館
6. 教職員 総計 1,013名  
教官 692名（附属学校教諭等118名を含む）  
職員 321名
7. 学生数 総計 10,716名  
学部 8,999（124）名  
大学院 1,316（244）名  
専攻科 33名  
（ ）書は外国人留学生で外数
8. 外国人研究者受入数 114名



9. 帯出区分 名誉教授 10冊1ヶ月、教職員 15冊2ヶ月、  
 大学院生 15冊2ヶ月、学部4年生 10冊1ヶ月、  
 学部1～3年生 5冊2週間
10. 相互協力 図書貸出 551冊/年 図書借受 277冊/年(ともに国外0)
11. 市民利用 閲覧可能 氏名申告による
12. 電子化等 業務システム
- |              |     |
|--------------|-----|
| DBサーバ        | 1台  |
| アプリケーションサーバ  | 5台  |
| X端末          | 19台 |
| CD-ROM検索システム | 1式  |
| 入退館管理システム    | 2式  |
| OPACパソコン     | 9台  |
| インターネットパソコン  | 7台  |